

Sophia-R

Sophia University Repository for Academic Resources

Title	〈資料〉 ラテンアメリカ日誌 —2000年—
Author(s)	
Journal	イペロアメリカ研究, 23(1)
Issue Date	2001-08-01
Type	紀要/Departmental Bulletin Paper
Text Version	出版者/Publisher
URL	http://repository.cc.sophia.ac.jp/dspace/handle/123456789/9495
Rights	



上智大学
Sophia University

<http://www.sophia.ac.jp>

《資料》

ラテンアメリカ日誌—2000年—

月 日	国名	記事
01 . 04	アルゼンチン	サッカーの元アルゼンチン代表、ディエゴ・マラドーナ(Diego Armando Maradona)氏が滞在先のウルグアイで高血圧と不整脈のため緊急入院。初め本人側は否定していたが、翌日コカインの陽性反応が警察当局によって確認された。
01 . 04	アルゼンチン	スペインのガルソン(Baltazar Garzón)予審判事から出されていたアルゼンチン軍人など48人に対する逮捕命令に対して、アルゼンチンのリテラス(Gustavo Lleras)連邦判事は2国間の引き渡し条約の条件を満たしていないとして逮捕請求を差し戻した。
01 . 05	チリ	英国で軟禁中のアウグスト・ピノチェト(Augusto Pinochet)元チリ大統領が、スペインへの身柄引き渡しの可否に関連してロンドンの病院で精密検査を受けた。その結果「裁判に耐えられない」として、11日英内務省は釈放を前向きに検討することを発表した。
01 . 05	キューバ	フロリダ海峡を漂流中に米側に救助されたキューバ人少年エリアン・ゴンサレス(Elián González)君の養育権をめぐる問題で、米移民帰化局が父親の親権を認め、キューバに帰すことを決定。しかし米国在住親族の反対に加え、米各司法の判断も食い違い、結局送還は延期された。
01 . 06	エクアドル	通貨危機への対応をめぐるマワ(Jamil Mahuad)大統領辞任要求デモが発生、アルバレス(Vladimiro Alvarez)内相は非常事態を宣言した。警察部隊とデモ隊が衝突、約20人が身柄を拘束された。
01 . 09	エクアドル	通貨危機の対応に関連して、内閣の全閣僚が辞表を提出、またマワ大統領は通貨スクレの為替相場を固定相場制に移行する方針を表明。
01 . 10	ペルー	4月に行なわれる大統領選の立候補届けが締め切られた。三選を狙う現職のフジモリ大統領を含む11人が立候補、フジモリ(Alberto Fujimori)大統領の元夫人、スサナ・ヒグチ(Susana Higuchi)さんは国会選挙に出馬することを表明、大統領選出馬は断念した。
01 . 10	メキシコ	メキシコ市当局は、この10年間で1999年が最も大気汚染が軽度だったと発表。
01 . 12	ブラジル	ブラジル南部サンタカタリナ州の高速道路で長距離バスがトラック1台・乗用車2台と衝突、乗客ら42人が死亡、44人が負傷する惨事となった。バスはアルゼンチン北東部始発からのもので、犠牲者の大半はアルゼンチン人と見られている。
01 . 12	ハイチ	1月1日にフロリダ沖で発見された貨物船に乗っていたハイチ人母子が本国に送還された問題で、在マイアミのハイチ人たちが抗議デモを行った。エリアン少年問題に絡んで、キューバ密航者に対して米政府が甘いというハイチ系住民の不満が爆発したものの。

01・14	チリ	英内務省が、ピノチェト元チリ大統領を健康上の理由によってスペインへの身柄引き渡しを行なわない方針を示したことに対し、スペインのガルソン予審判事はその意向を不服としてスペイン司法当局任命の医師団による再診断を要請した。
01・14	キューバ	首都ハバナで女性労働者ら10万人が、フロリダ海峡漂流中に米側に保護されたエリアン少年の帰国を求めてデモ行進を行った。
01・14	グアテマラ	96年の内戦終了後初の大統領選挙で勝利したアルフォンソ・ポルティージョ(Alfonso Antonio Portillo Cabrera)氏が大統領に就任。
01・15	コロンビア	首都サンタフェ・デ・ボゴタの東方グアヤベタルの警察官舎など数カ所が左翼ゲリラ、コロンビア革命軍(FARC)に襲撃された。戦闘で政府軍兵士5人、警察官1人、ゲリラ44人が死亡し、民間人にも犠牲が出た模様。
01・15	グアテマラ	首都グアテマラ市の南約25キロにあるパカヤ火山が噴火、住民が非難した。
01・16	チリ	チリの大統領決選投票が行なわれ、中道左派連合のリカルド・ラゴス(Ricardo Lagos Escobar)前公共事業相が小差で当選、右派野党連合のホアキン・ラビン(Joaquín Lavín Infante)候補が敗北した。
01・18	アルゼンチン キューバ	アルゼンチンのサッカー選手ディエゴ・マラドーナ氏が薬物依存治療のため、キューバに到着。
01・18	アルゼンチン	リオネグロ州ラブレイトレラの谷で長さ1.2メートルの頸椎、2メートルの大腿骨などの恐竜の化石が見つかった。現在知られている恐竜の中で最大級と見られる。
01・20	ボリビア	チャパレ地方で麻薬対策に従事していた徴収兵が移動中に何者かに狙撃され死亡した。事件の背後にはコカ葉生産者と政府の対立があり、過去10年間で同地方の犠牲者は126名にのぼっている。
01・21	キューバ	フロリダ海峡を漂流中に米側に保護されたエリアン少年の祖母2人が少年を引き取るためキューバからニューヨーク入りした。その後マイアミへ行き、一度は面会を断念するも、26日2時間にわたって面会、30日に祖母2人は帰国した。
01・21	エクアドル	首都キトでマワ大統領の退陣・逮捕を求める抗議行動が激化、国軍将校グループと先住民系団体約3000人が国会と最高裁を占拠した。ドル化政策発表に対する反発が強まったもの。
01・21	グアテマラ	内戦時代の人権侵害犯罪を追及していたヘラルディ(Juan Gerardi)司教が殺害された事件で、国軍兵士のバイロン・リマ(Byron Lima Oliva)容疑者とその父親で退役軍人のディスラエル・リマ(Disrael Lima Estrada)容疑者を殺人容疑で逮捕した。
01・22	エクアドル	マワ大統領が退陣を表明、グスタボ・ノボア(Gustavo Noboa Bejarano)副大統領が大統領に就任、国会でも承認された。しかし先住民系団体などの反発は続いた。
01・24	南米	スペインの通信最大手テレフォニカが、アルゼンチン、ペルー、ブラジルの3カ国の通信子会社4社を完全子会社化し南米での事業基盤の強化を発表。
01・25	チリ	英内務省によるピノチェト元チリ大統領の釈放方針をめぐる、ベルギー政府が判断の根拠となった診断結果を非公開にしたことに対し、ロンドンの高等法院に司法審査を請求。この請求は31日に却下された。
01・26	キューバ	米政府がワシントンのキューバ利益代表部の外交官ホセ・インペラトリ(José Imperatori)氏を「外交官にふさわしくない活動をした」として国外追放した。カナダに移送後、ハンストによる抗議に入ったが、2日帰国した。

01・27	ブラジル	フランスの大手自動車メーカー、ルノーがブラジルに小型商業車の新工場建設を発表。2001年末の稼働予定で、ルノーの工場はウルグアイ、チリ、アルゼンチンに続くもの。
01・29	チリ	英国で軟禁下にあるピノチェト元チリ大統領の釈放・帰国に向け、チリ政府が用意した空軍機が英南部プライズノートン空軍基地に到着した。
01・31	ブラジル	ブラジル・オリンピック委員会のカルロス・ヌジマン(Carlos Arthur Nuzman)会長は、リオデジャネイロが2008年夏季五輪の開催地への立候補を断念したことを発表。
01・31	カリブ地域	米自治領プエルトリコのビエクス島にある米海軍射爆場の撤退問題をめぐって、米政府とプエルトリコは住民投票で最終決定することを条件に模擬弾での演習再開に合意した。
02・01	メキシコ	ストライキが続いているメキシコ国立自治大学(UNAM)の付属第三高校で封鎖の継続を主張する学生と解除を要求する学生が衝突、乱闘に発展、治安部隊が出動し30人以上が負傷、248人が逮捕された。
02・01	ブラジル	サッカーのスターでブラジル代表でもあるロナウド(Ronaldo)選手が国連開発計画(UNDP)の親善大使に就任した。貧しい子供たちの支援事業に協力する。
02・01	ペルー チリ	チリのフレイ(Eduardo Frey Ruiz Tagle)大統領がペルーを公式訪問、フジモリ大統領、ベラウンデ(Fernando Belaúnde Terry)元大統領らと会談した。チリ大統領のペルー公式訪問は34年ぶり。両国による投資促進保護協定が締結された。
02・03	メキシコ	米ペンシルバニア州立大の研究チームがメキシコ湾の深海底で寿命が250年に及ぶ虫「チューブワーム」を発見したことが発表された。
02・06	メキシコ	前年4月からストライキが続くメキシコ国立自治大学(UNAM)に連邦警察が突入、大学を占拠していた学生632人を拘束、制圧した。学生数人に軽いけががあった。
02・06	ペルー	南部プーノ近くのヤナマヨ刑務所で元左翼ゲリラの服役囚たちが警官と銃撃戦を交わし、警官1人と服役囚1人が死亡。その後警官約20人を人質にして立てこもったが、翌日全員を解放、服役囚たちは投降した。
02・08	ニカラグア ホンデュラス	ホンデュラス、ニカラグア両国外相が、係争中のカリブ海域の領海問題に関してエルサルバドルで協議を行ない、双方とも軍を撤退させることで合意した。
02・15	チリ	ロンドン高等法院が、ジャック・ストロー(Jack Straw)英内相に対して、英国で軟禁下にあるピノチェト元チリ大統領の健康診断内容をスペイン、ベルギー、スイス、フランスの4カ国に開示するよう命じる決定を下した。
02・15	アルゼンチン	政府はクレックル(Juan Carlos Kreckler Goldschmiedgasse)駐オーストリア大使を更迭した。オーストリアの右翼自由党ハイダー(Joerg Haider)党首について擁護するような発言をしたため。
02・18	ペルー アルゼンチン	南米最大の埋蔵量を持つペルーのカミセア天然ガス田の開発権をめぐる入札が実施され、アルゼンチンの石油会社ブルスベトル社を筆頭とする企業グループが落札。総投資額は約16億ドルにのぼると見られる。
02・22	メキシコ	政府は1999年度の国内総生産(GDP)の伸び率が3.7%だったことを発表。前年初めに出された政府予測の3.0%を上回った。
02・23	メキシコ	第42回グラミー賞でメキシコ出身のラテン・ロック・ギタリスト、サンタナ(Carlos Santana)氏が9部門で受賞。

02・23	アルゼンチン	アルゼンチンのアンデス山中に墜落し、行方不明となっていた英旅客機の残骸が53年ぶりに発見され、遺体・遺品・機体の一部が回収された。この飛行機は1947年8月英国人11人を乗せチリのサンティアゴに向かう途中消息を絶っていた。
03・01	ウルグアイ	ホルヘ・バジエ(Jorge Luis Batlle Ibáñez)大統領が正式に就任、就任演説では財政支出削減を最重要課題として掲げた。
03・02	チリ	英国で軟禁されているピノチェト元チリ大統領に対し、ストロー英内相が健康悪化を理由に釈放、スペイン政府などから出されていた身柄引き渡し要求を拒否する最終決定を下した。同日ピノチェト氏はチリ政府派遣の軍用機で帰国した。
03・02	チリ	サンティアゴ高裁で、軍政下で行方不明になった人々の家族らがピノチェト元大統領の終身上院議員として保持している不逮捕特権の剥奪を申し立てた。
03・02	メキシコ	セディージョ(Ernesto Zedillo Ponce de León)大統領は政府系企業が太平洋岸にあるサンイグナシオ湾に建設を予定していた世界最大規模の塩田計画を中止すると発表した。欧米の自然保護団体からの「生態系に影響を与える」という批判を考慮したものの。
03・03	コロンビア	暫定選挙評議会は、19日に予定されていた議会総選挙を延期すると発表。公正な選挙が実施される環境が整っていないため。
03・04	パラグアイ ウルグアイ	ウルグアイ政府が、パラグアイ政府より公金横領の罪で起訴されていたパパラルド(Víctor Conrado Pappalardo)前国防次官をトレインタ・イトレス県内のホテルで発見、逮捕したことを発表した。
03・05	ブラジル	恒例のリオのカーニバルがクライマックスのAランク14チームの行進を迎えた。2000年はポルトガル人によるブラジル到達500周年にあたるため、それと関連したテーマの演出が目立った。
03・06	メキシコ	セディージョ大統領が、グリーン(Rosario Green Macías)外務大臣らとともにイスラエルを訪問し、メキシコ・イスラエル自由貿易協定への署名が行なわれた。
03・08	コロンビア	首都サンタフェ・デ・ボゴタの南西にある町エル・ボルドで左翼ゲリラ、コロンビア革命軍(FARC)の武装集団が警察署などを襲撃、刑務所に収監されていた約100人を脱走させた。
03・10	アルゼンチン	アルゼンチン・パタゴニア地方で約1億年前の巨大な食肉恐竜体の骨の化石が発掘された。全長は推定で13.7メートルあり、これまでに見つかった肉色恐竜としては世界最大になる。
03・12	エルサルバドル	総選挙が行なわれ、旧左翼ゲリラのファラブンド・マルチ民族解放戦線(FMLN)が議会第1党となった。フロレス(Francisco Guillermo Flores Pérez)大統領の与党民族主義共和同盟(ARENA)は第2党に転落した。
03・13	中米	米国、グアテマラ、エルサルバドル、ホンデュラスなどの将兵ら約200人が集まり、ホンデュラス中部で災害対策の合同演習を行なった。
03・23	メキシコ	欧州連合(EU)とメキシコがリスボンで自由貿易協定に調印した。メキシコは2003年までにEUからの輸入製品・サービスの約50%を対象に関税を免除、2007年までに一部を除き関税をゼロとし、EUも2003年までにメキシコからの輸入製品に対する関税を撤廃する。
03・24	ブラジル アルゼンチン	ブラジルとアルゼンチンの間で貿易交渉が行なわれ、2006年1月までに両国間の自動車貿易を自由化することで合意した。今後近隣南米諸国とも交渉、合意内容をメルコスルの貿易政策に組み入れる。

03・25	チリ	チリの上下両院合同会議が憲法改正案を可決。大統領経験者が自動的に就く終身上院議員に辞任規定を設け、すべての大統領経験者に不逮捕特権を与えるものだが、ラゴス大統領は不逮捕特権の保持を不服とし、28日修正案を提出した。
03・27	グアテマラ	スペインの全国管区裁判所がグアテマラで起きた事件の捜査に着手した。人権活動家リゴベルタ・メンチュ(Rigoberta Menchú)さんの告発に基づくもの。
03・27	ブラジル	スペインの石油最大手レブソルYPFとブラジルの国営石油会社ペトロbrasが、南米地域での石油精製や天然ガスの供給など広範な事業提携で合意。
03・29	メキシコ	ルイス・テジェス(Luis Telléz Kuenzker)エネルギー相が石油輸出国機構(OPEC)の増産決定に同調して、4月1日から日量15万バレルを増産すると発表。
03・30	コロンビア	首都サンタフェ・デ・ボゴタから約70キロ離れたカチパイ市で、市役所前に停車中の軽トラックに仕掛けられた爆弾が爆発、4人が死亡、14人が負傷した。軍当局はコロンビア革命軍(FARC)の仕業とみている。
04・03	中南米 カリブ地域	国連ラテンアメリカ・カリブ経済委員会(CEPAL)の第28回通常会合がメキシコ市で開催された。
04・05	ベネズエラ	ロドリゲス(Ali Rodríguez)エネルギー鉱業相が石油輸出国機構(OPEC)非加盟の産油国であるメキシコ、ノルウェー、ロシア、オマーンの4カ国を5月15日から訪問すると発表。9月末開催のOPEC首脳会議への参加を要請する。
04・06	キューバ	フロリダ海峡を漂流中に米側に保護されたエリアン少年の父親ら家族3人が米国入り。22日に米当局が強行突入によってエリアン少年の身柄を確保、父は再会できた。しかし強行突入の是非をめぐりマイアミは騒然とした。
04・06	ブラジル	独禁当局が、前年7月のブラジルの2大飲料メーカー「ブラマ」と「アンタルチカ」の合併に対し、条件付きで承認する決定を下した。条件は新会社アメリカス飲料(AmBev)に対し、ビールのブランドの一部を手放し、工場の約1割を売却するというもの。課した条件が甘いという批判もあった。
04・07	チリ	米アメリカン航空が主宰する国際航空連合「ワンワールド」が、チリ最大手航空会社ランチレが提携企業として参加する見通しを発表。南米企業が「ワンワールド」に参加するのははじめて。
04・08	ボリビア	中部コチャバンバ市などで騒乱が続き、首都ラパスでも警官による抗議行動が起きたため、政府は非常事態を宣言。20日に停止された。一連の騒乱で5人の死者が出た。
04・12	ペルー	大統領選挙の第1回投票が行なわれ、フジモリ大統領が49.84%を獲得。しかし有効投票の過半数に足りず、2位のアレハンドロ・トレド(Alejandro Toledo Manrique)候補との決選投票が実施されることに。
04・14	キューバ	途上国グループ(G77)初の首脳会議がハバナで開催され、途上国に対する経済支援強化を先進国に呼びかけた「ハバナ宣言」を採択した。
04・18	キューバ	ジュネーブで開催された国連人権委員会において、キューバ非難決議が行なわれ、8年連続で採択。アルゼンチンが賛成票を投じたため、任期を終了していた駐アルゼンチン・キューバ大使が予定を早めて帰国する事態となった。

04・22	ブラジル	ブラジル北東部ポルトセグーロ市で、ポルトガル人のブラジル到着500周年記念式典が開催され、ブラジル・ポルトガル両首脳が参列した。また式典開催に反対する先住民デモ隊と警官隊が衝突、約30人が負傷、150人が逮捕された。
04・22	ブラジル	米国系の環境保護団体が、アマゾン川上流のマデイラ川流域で小型のサルの新種を発見したと発表。いずれもキヌザルの仲間。
04・23	ペルー	ペルーの有力新聞「レプブリカ」市社主だったグスタボ・モーメ(Gustavo Mohme Llona)氏が死去。享年69歳。4月の大統領選では反フジモリ派の急先鋒となった。
04・24	ボリビア	全閣僚15人全員が辞任、バンセル(Hugo Bánzer Suárez)大統領は新聞僚を発表した。4月中旬の暴動などの責任を取ったものとみられる。
04・24	ブラジル	中央銀行が新10リアル札を発行。従来の紙幣の4倍の耐久性がある特殊プラスチックが素材として採用された。またポルトガル人到着500年を記念してお札の表中央部にポルトガル艦隊を率いたペドロ・カブラル(Pedro Alvares Cabral)司令官の肖像が入れられた。
04・25	コロンビア	パストラーナ(Andrés Pastrana Arango)大統領が同国の左翼ゲリラ・民族解放軍(ELN)との和平交渉のため、今後9か月間北部ボリバル、アンティオキア両県にまたがる「緊張緩和地域」を設定すると発表した。同地域の国軍・治安部隊は撤収し、事実上ゲリラの支配地域となる。
04・25	メキシコ ブラジル	ブラジル、メキシコ両政府は自動車部門での特惠関税協定を結ぶことで合意した。輸入関税をそれぞれ8%に設定し、1年目は4万台、2年目は5万台を上限に相手国への輸出を可能にする。
04・26	チリ	サンティアゴ高裁でピノチェト元大統領の不逮捕特権剥奪の是非をめぐる審理が開始された。
04・26	コロンビア	左翼ゲリラ組織コロンビア革命軍(FARC)最高幹部の一人、ラウル・レイエス(Raúl Reyes)司令官が文民政党組織を29日に旗揚げすると発表。
04・27	グアテマラ	首都グアテマラ市の商店街でバス料金値上げに抗議するデモが行なわれ、警備員がデモ隊に発砲、カメラマン1人が死亡、3人が負傷した。またデモ隊がバス5台に放火したため、警察によって60人が逮捕された。
04・28	コロンビア	首都サンタフェ・デ・ボゴタのモデル刑務所で受刑者同志が乱闘騒ぎを起し、合計27人が死亡、20人以上が負傷した。
04・28	アルゼンチン ブラジル	ブエノスアイレスで行なわれた閣僚会議で、ブラジルとアルゼンチンは財政赤字、負債などについて共通目標を設定することで合意した。メルコスルを軸とする経済統合に向けて一歩前進したことになる。
04・30	チリ	チリ軍政時代の人権侵害を調査するため文民政権が設けた委員会で、行方不明者1185人との結果をまとめた弁護士・政治家、ラウル・レティグ(Raúl Rettig Guissen)氏が死去。享年90歳。
04・30	キューバ	キューバの政府が先に欧州連合(EU)に出していたロメ協定への加盟申請を取り下げたことを発表。
04・30	アルゼンチン 南米	アンデス共同体とアルゼンチンが特惠関税協定を結ぶ方向で2日に会談を行なうと発表。アンデス共同体はブラジルともすでに同様の協定を締結しており、南米全域にまたがる関税同盟の可能性がより現実味を帯びてきた。
05・01	ブラジル	サンパウロ州のガス会社ガス・スルの民営化に伴う株式競売でスペイン大手のガス・ナトゥラルを筆頭とするグループが落札した。最低入札価格に対する落札価格の比率では、同国のエネルギー分野の民営化で最高となった。

05・02	ブラジル	全国規模の日刊経済紙としては2紙目になる「パロール・エコノミコ」が創刊。フォリャとグロボの折半出資による新会社が発行。
05・02	中南米	ブラジル、コロンビア、メキシコなどコーヒーを生産する中南米諸国が厳格な生産調整を行なう新制度を導入することで合意した。いわばコーヒー版OPECといえるものだが、制度の詳細などはまだ未定。
05・04	カリブ地域	米自治領プエルトリコのビエケス島の米海軍射爆場で米軍撤退を求めて座り込みを続けている地元住民らが強制排除された。
05・07	ペルー	4月9日実施の国会選挙の最終結果が発表され、三選を目指すフジモリ大統領の与党連合「ペルー2000」が52席で第1党、対立候補のトレド氏率いる「ペルー・ポシブレ」は29議席で第2党となった。
05・08	メキシコ	スペインの有力銀行サンタンデール・セントラル・イスパノ銀行が、メキシコ総資産第3位のセルフインを15億ドルで買収することを発表。メキシコの金融再編が加速。
05・09	アルゼンチン	首都ブエノスアイレス市長選が実施され、与党連合「同盟」のアニバル・イバラ(Anibal Ibarra)候補が当選。2位は元経済財政相のドミンゴ・カバリーヨ(Domingo Cavallo)候補だったが、決選投票には進まず選挙戦離脱を宣言したため、イバラ候補の当選が決定した。
05・09	エクアドル	統合参謀本部議長、海軍・空軍の最高司令官の3名が揃って辞表を提出。1月のクーデターの首謀者に対する恩赦の適用に反対する抗議の意味があると考えられる。
05・12	チリ	チリ北部で強い地震。同国コピャポ地方の鉱山労働者1人が死亡した。地震の規模はマグニチュード6.5。
05・15	キューバ	服役中の反体制活動家フェリス・ボンネ(Félix Antonio Bonne)氏が仮釈放となった。ボンネ氏を含む4人の有罪判決は米国から政治弾圧だと非難を受けていた。23日にも別の反体制活動家が仮釈放された。
05・16	ドミニカ共和国	大統領選挙が実施され、野党のイポリト・メヒア(Hipólito Mejía Domínguez)氏が当選。8月16日正式に就任した。任期は4年間。
05・16	コロンビア	左翼ゲリラと見られる強盗が女性の首に爆弾を仕掛け2人が死亡した事件を受け、パストラーナ大統領はコロンビア革命軍(FARC)との和平交渉を中断することを表明した。FARC側は犯行を否認している。
05・18	パラグアイ	首都アスンシオンでルイス・ゴンザレス(Luis Angel González)大統領の辞任を求め、国軍の一部が反乱、戦車5台で国会を砲撃、ラジオ局を占拠したが19日朝までに鎮圧された。反乱部隊には96年にクーデター未遂事件を起こしたリノ・オビエド(Lino César Oviedo Silva)元陸軍司令官が含まれていた。
05・18	ペルー	大統領選挙決選投票の候補者、野党のアレハンドロ・トレド氏が決選投票が18日に延期されない限り、選挙に参加しないことを表明した。トレド氏は選挙運営の透明性や公正さが確保されていないと主張していた。22日全国選挙管理委員会に正式通告された。
05・18	パラグアイ 南米	パラグアイで退役軍人らによるクーデター未遂事件が勃発。翌々日メルコスル各国は地域全体のイメージ悪化につながることを恐れ、民主的な政体を徹底し、再発を防止するよう要請した。
05・25	ベネズエラ	最高裁が28日に予定されていた大統領、国会、州知事などの選挙をすべて延期すると発表。投票・集計システムの整備が遅れたのが原因。
05・26	コロンビア	前年10月末、子供140人の殺害を自供し逮捕されたルイス・ガラビート・クビリョス(Luis Alberto Garavito Cubillos)被告の裁判で、実際に殺害した人数が189人であることが判明、すでに宣告された実刑年数だけで835年に達している。

05・28	ペルー	大統領選挙の決選投票が行なわれ、アルベルト・フジモリ大統領が三選を決めた。しかし無効票・白票は33%にのぼり、ボイコットを宣言したトレド候補は抗議集会を開いて、選挙の無効を主張した。
05・31	カリブ地域	ニューヨーク生まれのプエルトリコ系ティンパレス奏者で、マンボ時代から活躍、ラテン・ジャズの分野にも大きな功績を残したティト・プエンテ(Ernest Anthony "Tito" Puente)氏が死去。享年77歳。
06・04	中南米 ペルー	米州機構(OAS)の年次総会(外相級)がカナダ・ウィンザーで開幕、ペルーに調査団を派遣することが提案された。同機構の人権委員会では大統領選挙の不正をかんがみて制裁を発動することが求められたが、結局制裁は回避された。
06・05	チリ	サンティアゴ高裁がピノチェト元大統領の終身上院議員としての不逮捕特権剥奪を認める決定を下した。ピノチェト側弁護団は9日に上告した。
06・05	ブラジル	米アメリカ・オンライン(AOL)とブラジル民間銀行2位のイタウ銀行が業務提携で合意。双方はネットバンキングやクレジットカード取引を行なえるサイトを共同で立ち上げる。
06・06	キューバ	野球のキューバ代表であるアンディ・モラレス(Andy Morales)選手がフロリダ沖で拘束された密入国船の中で発見された。モラレス選手は政治亡命を要求したが強制送還された。しかし7月19日再度密航しフロリダ半島に漂着、入国した。
06・09	南米	アンデス共同体首脳会議がペルーの首都リマで開幕。3選を決めたフジモリ・ペルー大統領の当選後初めての外交の場としても注目された。
06・09	メキシコ	米国訪問中のセディジョ大統領がクリントン(Bill Clinton)米大統領と会談、ペルー大統領選挙の決選投票について意見を交換した。
06・09	キューバ	第4回米国・キューバビジネスサミットがハバナで開催された。農業、食品、医薬品など約50社から60名を超える企業家が参加した。同サミット参加者と会談したカストロ(Fidel Castro Ruz)議長は経済封鎖が時代錯誤であると述べた。
06・10	ペルー	首都リマでアンデス共同体首脳会議が行なわれ、内政不干渉の原則を確認するリマ宣言に調印し閉幕した。これで事実上5月末のペルー大統領選挙の結果を追認したことになる。
06・12	ブラジル	世界各国の新聞社の経営者や編集幹部らが集う第53回世界新聞大会がリオ・デ・ジャネイロで開会された。
06・13	ブラジル パラグアイ	南部パラナ州で1996年4月のクーデター未遂事件などを首謀したオビエド元陸軍司令官が逮捕された。パラグアイ政府は身柄の引き渡しを求めている。
06・16	中南米 コロンビア	中南米主要19カ国から構成されるリオ・グループの首脳会議がコロンビア・カルタヘナ市で開催、域内の通貨危機に対応することを目的としたラテンアメリカ通貨基金の構想推進などをうたったカルタヘナ宣言を採択し、閉幕した。
06・16	南米	メルコスルが麻薬取引や幼児誘拐といった組織犯罪の防止に関する8項目で合意。ブエノスアイレスで各国の内相と法相が会合を開き、合意書に署名した。
06・20	ブラジル	中央銀行が金利策定会議を開き、短期金利の誘導目標となる翌日物の銀行間貸出金利(年率)を18.5%から17.5%へ引き下げた。
06・21	ブラジル	政府が殺人など凶悪な犯罪拡大の防止に向けた「国家治安計画」を策定した。2002年までに17億ドルを投じて、捜査機関の近代化や警官の新規採用をすすめる。

06・22	コロンビア	政府と民族解放軍(ELN)の代表がサンルーカス山系で会談し、和平に向けた共同声明を発表した。
06・23	コロンビア	米上院で9億3400万ドルにのぼる対コロンビア軍事援助を含む対外援助法案が可決。法案可決により米国はコロンビアに兵員輸送用ヘリコプターなど軍事物資や兵器を供与することになる。バストラーナ政権の麻薬対策をバックアップするのが目的。
06・27	キューバ	米国がキューバに対して行なってきた経済制裁のうち、食糧と医薬品の禁輸を解く制裁緩和法案が下院に提出され、可決される見込みであることが発表された。10月20日正式に上院でも可決、大統領も署名した。
06・27	ペルー	米州機構(OAS)代表団がペルー入りし、フジモリ大統領らと会談、民主化案を提示、フジモリ大統領は改革案を大筋で受け入れた。
06・28	キューバ	フロリダ海峡を漂流中に米側に保護されたエリアン少年に対する親族の亡命申請が却下され、少年は実父とともにキューバに帰国した。
06・29	中南米	メキシコ、グアテマラ、ホンデュラス、エルサルバドルの4カ国が自由貿易協定に調印。翌年1月10日の発効で、鉱業製品は10年以内、農業・漁業産品に関しては12年以内に関税を撤廃する。
06・29	コロンビア	南部サンビセンテ・デルカグアンで政府と左翼ゲリラ、コロンビア革命軍(FARC)共催による初の「環境問題と非合法作物」に関する国際聴聞会が開かれた。
07・01	パナマ	パナマのモスコソ(Mireya Moscoso)大統領が台湾を公式訪問、陳水扁総統と会談し、友好関係を強化することで一致した。
07・01	キューバ	東部マンサニージョで労働者や学生ら30万人が参加して反米集会が開かれた。
07・01	メキシコ	メキシコ・EU自由貿易協定が発効。
07・02	メキシコ	大統領選が行なわれ、中道右派の野党・国民行動党(PAN)のビセンテ・フォックス(Vicente Fox Quesada)前グアナフアト州知事が与党候補のフランシスコ・ラバステイダ前内相を破り当選。71年に及ぶPRIの単一支配にピリオドが打たれた。
07・02	メキシコ	大統領選と同時に進められた国会議員選で、制度革命党(PRI)が上下両院で第一党となった。
07・02	ブラジル	ケーブルテレビ最大手のグロボ・カボが同2位のネット・スルを買収すると発表。買収金額は約7億3500万ドル。これによりグロボ・カボの国内シェアは約80%に達する。
07・03	ジャマイカ	禁止薬物使用によって国際陸連から出場停止処分を受けていた陸上女子短距離のオッティ(Merlene Ottey)選手の出場停止処分が解除された。ドーピング検査の手順に不備があったことも指摘されており、ジャマイカ陸連も無罪の判定をしていた。
07・03	ブラジル	サッカー連盟が2006年ワールドカップ招致をブラジルが断念し、立候補を辞退すると発表。
07・04	コロンビア キューバ	コロンビア政府の対左翼ゲリラ問題担当官が、政府と民族解放軍(ELN)の和平交渉で、キューバの仲介グループ参加を明らかにした。
07・05	カリブ地域	第21回カリブ共同体(CARICOM)首脳会議が開催された。
07・06	ニカラグア	翌日に向け2度におたり大きな地震が発生、多数の死者が出た。

07・09	アルゼンチン ウルグアイ	ウルグアイ政府がアルゼンチンの人権事務局に対して軍政時代の行方不明者問題に係るすべての情報を提出するよう要請した。行方不明者に対する賠償金支払いなどの参考にするため。バジェ政権は行方不明者の調査に積極的に取り組んでおり、軍部との軋轢も生じている。
07・13	エクアドル	最高裁が1月のクーデターで失脚したマワ前大統領とアルミホス(Ana Lucía Armijos)元蔵相に対する逮捕命令を出した。銀行預金凍結決定などを通じて国民の財産権を侵害、国内経済を混乱に陥れた責任が問われている。
07・14	チリ	ブラジル訪問中のチリのラゴス大統領が、チリが南米共同市場(メルコスル)の正式加盟国になる手続きを始めることを明らかにした。
07・16	ブラジル	ブラジル南部パラナ州クリチバの国営石油公社ペトロブラスの製油所で原油の漏出事故が発生、400万リットルがイグアス川に流出、原油の帯は下流約200キロまで達した。州政府は環境犯罪に関する法律に基づき約30億円の罰金をペトロブラスに科した。
07・19	南米	アルゼンチン、ウルグアイ、ブラジルを大寒波が襲い、2週間で抵抗力の弱い子供やお年寄りを中心に76人が死亡。
07・20	ブラジル	リオグランデドスル州ポルトアレグレ郊外にある米自動車大手ゼネラル・モーターズの小型自動車生産用新工場が稼働を始めた。
07・21	ボリビア	ボリビアのコカイン王と呼ばれたロベルト・スアレス(Roberto Suárez)氏がサンタクルスで死去。享年68歳。83年に国の対外債務の肩代わりを提案し話題になったこともある。
07・21	コロンビア	北部の2ヶ所で左翼ゲリラと右派民兵グループが衝突、死者は100人に達した。
07・21	ブラジル	ブラジル、カナダ両政府の自国航空機メーカーへの補助金をめぐる問題で、世界貿易機関の紛争処理上級委員会はブラジル側の補助金支給を違法とし、ブラジルのカナダに対する訴えを退けた。
07・24	メキシコ	ムーディーズがメキシコの外貨建て国際の格付けを引き上げて以来、最初の外貨建て国債の発行を大蔵省が行なった。総額は15億ドル。
07・26	キューバ	革命記念日のハバナで米国の対キューバ経済封鎖政策に抗議する大規模なデモが行なわれた。
07・28	ペルー	5月の選挙で三選を果たしたフジモリ大統領の就任宣誓式がリマの国会で行なわれた。30数名の野党議員が指揮開始とともに退場し、抗議の意思を表した。リマ市内ではデモ隊が警官隊と衝突、59人が負傷、6名が死亡した。
07・29	ブラジル	リオデジャネイロ郊外のパラカンピ地区で国営石油会社ペトロブラスのパイプラインが破損、有害物質のMTBEが流出した。
07・30	ベネズエラ	大統領選が行なわれ、全国選挙管理委員会が結果を発表、現職のウーゴ・チャベス(Hugo Chávez Frías)大統領が再選を果たした。
08・04	パラグアイ	首都アスンシオンの国際空港で、米国の連邦準備制度理事会(FRB)傘下の銀行に送られるはずだった1200万ドル(約12億円)以上の米ドル紙幣が強奪された。犯人は6人以上のグループで、現金輸送車から貨物機に現金を移す瞬間を襲った。
08・05	コロンビア	北西部チョコ県カルメンデアトラト他で左翼ゲリラと国軍が衝突、ゲリラ36名、国軍兵士や警官11名、民間人18名など少なくとも58名が死亡した。
08・06	中南米 ホンデュラス	中南米カリブ経済委員会(ECLAC)の報告で、2000年度の中南米諸国の経済成長率が平均4.0%に達する見込みであることが明らかになった。一次産品の市況回復が主な原因とされる。

08・06	アルゼンチン	軍事政権下の行方不明者事件の容疑者として、オリベラ(Jorge Olivera)元陸軍少佐がイタリアで逮捕された。フランス当局がサンフアン州で行方不明になったフランス人女性に対する誘拐と拷問の容疑で身柄引き渡し要請を出していたことによるもの。しかし9月19日すでに時効であるとの理由で釈放された。
08・07	チリ	チリ最高裁がピノチェト元大統領の終身上院議員としての刑事免責特権を剥奪する決定を行なった。ピノチェト氏の刑事訴追に道が開かれることとなる。
08・09	グアテマラ	政府軍と左翼ゲリラの内戦中に行方不明になった子供に関する調査を続けていたカトリック教会団体「大司教区人権事務所」(ODHA)が報告書を発表。行方不明者の大半はマヤ系住民で、判明分だけで444人。うち国軍が連れ去ったのが92%とされた。
08・10	ベネズエラ	中東歴訪中のチャベス大統領がイラク入りし、バグダッドでサダム・フセイン(Saddam Hussein)大統領と会談した。外国元首のイラク訪問は91年の湾岸戦争以来はじめて。
08・11	グアテマラ	ポルティージョ大統領が、過去の内戦中の政府軍による虐殺事件など17件について、国としての人権侵害の責任を認めた。
08・11	キューバ	キューバの老音楽家たちによる「ブエナ・ビスタ・ソシアル・クラブ」の公演が首都ハバナのカール・マルクス劇場で行なわれた。「ブエナ・ビスタ…」は世界的にヒットした北米製作の同名のドキュメンタリー映画に出演したアーティストによるユニット。
08・13	中米	台湾の陳水扁総統が就任後初の海外訪問として、外交関係のある中米(ドミニカ共和国、コスタリカ、ニカラグア)とアフリカ諸国を歴訪。
08・13	パラグアイ	副大統領選挙を実施。翌日未明約90%開票し野党候補の優勢が明らかになった時点で開票発表が途絶え、混乱が危惧されたが24日、大統領が野党候補の当選を認めた。
08・15	コロンビア	北西部アンティオキア県ブエプロリコの山中で、国軍で教師に引率された遠足児童ら60人を左翼ゲリラと誤認、銃や手榴弾で攻撃して6人が死亡、5人が負傷した。
08・16	エクアドル	エクアドル政府が同国発行のブレイディ債とユーロ債をグローバル債に転換することで民間債権銀行団と合意した。合意には一部債権放棄の条件も含まれており、その結果債務総額は約40%圧縮された。
08・16	ブラジル	パラナ州フォストイグアスで、クリチバ経由リオデジャネイロ行きのバスピ・ブラジル航空機が離陸直後に乗っ取られ、犯人グループは機内にあったスーツケース入りの現金3億円を強奪、ロンドリナ近郊の滑走路に着陸させた後、車で逃走した。けが人はなし。
08・17	ペルー	フジモリ大統領が今後数年間で総額30億ドルにのぼる公営企業の民営化を行なう計画を発表した。外資の導入により経済の回復を図る狙い。
08・18	チリ 中南米	東アジア・ラテンアメリカ・フォーラム(EALAF)の高級事務レベル会合がチリの首都サンティアゴで開催され、翌年4月にフォーラム初の外相会議をサンティアゴで開催することを決定した。
08・18	コロンビア	北部ボリバル県カルメンデボリバルで左翼ゲリラが「革命税」支払いを拒否した民間人の家に爆弾を仕掛け、その爆発でたまたま家にいた子供2人が死亡、2人が重傷を負った。
08・18	メキシコ	メキシコ市の北東郊外にあるチマルウアカン市の中央広場で、新市長の初登庁を祝うために集まった人々に対し、銃の発砲や火炎瓶の投げ入れなどが行なわれ、混乱した。少なくとも9人が死亡、80人以上が負傷、200名以上が逮捕・拘束された。

08・20	ベネズエラ	軍当局者が東部オリノコ川デルタ地帯で、国際的密売組織が保管していたコカイン約5トンを押収、組織のメンバー14人を逮捕した。軍は米国から資金援助を受けて6カ月にわたる捜査を続けていた。
08・21	ペルー	フジモリ政権とアレハンドロ・トレド氏ら野党勢力が、米州機構(OAS)代表団の仲介で民主化に向けた対話を開始。野党が更迭を求めるウラジミロ・モンテシノス(Vladimiro Montesinos Torres)国家情報局顧問の処遇が焦点となった。
08・21	ペルー	国家情報部が中東からコロンビアの左翼ゲリラへ小銃を密輸していたグループを摘発、外国人を含む6人を逮捕したと発表。
08・22	ペルー ボリビア	イタリア人やブラジル人を中心とする調査団が、ティティカカ湖の湖底に寺院・道路・段々畑を含む遺跡を発見したと発表。1000～1500年前のティアワナコ文明の遺跡の可能性が高いとみられている。
08・23	ペルー	フジモリ政権は国軍の人権侵害などを暴露したためペルー国籍を剥奪されたテレビ局オーナーの国籍回復に道を開く法案を国会に提出することを発表。民主化政策の一環として注目される。
08・24	コロンビア	パストラナ大統領が首都改称法案に署名、首都の名称がサンタフェデボゴタから旧称のボゴタに戻った。法案は6月に上下院を通過していた。
08・24	メキシコ	米国訪問中のフォックス次期大統領がクリントン米大統領と会談、移民問題、麻薬撲滅、経済協力などについて意見を交換した。
08・24	アルゼンチン メキシコ	メキシコのカンクンでアルゼンチンのリカルド・ナバロ(Ricardo Miguel Navarro)元海軍少佐が逮捕された。弾圧に関与した容疑でスペインのガルソン判事から逮捕命令が出ていたもの。
08・26	コスタリカ	行方不明となっていた国内線小型機が、北部の活火山の火口に墜落しているのが発見された。乗員10人は全員死亡していた。
08・28	メキシコ	ゲレロ州の裁判所は、同州内の森林伐採に反対する運動の指導者であるロドルフォ・モンティエル(Rodolfo Montiel Flores)氏に武器不法所持罪などで禁固6年8ヶ月の有罪判決を言い渡した。同氏は4月にゴールドマン環境保護賞を受賞していた。
08・29	ペルー	1996年のトゥパク・アマル革命運動(MRTA)の国会占拠計画に関係したとして、終身刑を宣告され服役中の米国人女性ロリ・ベレンソン(Lory Berenson Mejía)服役囚について、ペルー最高軍事法廷は再審請求を認め、無期懲役刑の破棄と一般の法廷での裁判やり直しを決定した。
08・29	ベネズエラ	北米フォード・モーターのベネズエラ子会社幹部が、南米ベネズエラで販売しているフォード製のスポーツ用多目的車に装備したファイアストーン製タイヤの14%に欠陥が生じていることを明らかにした。この比率は米国内の1000倍。
08・31	南米	南米12カ国による初の首脳会議「南米サミット」がブラジルの首都ブラジリアで開幕した。9月1日に閉幕、2002年までにメルコスルとアンデス共同体が別々に進めてきた地域統合の一本化、域内の民主化運動促進などを目指す共同声明が採択された。
08・31	メキシコ	大蔵省が国際通貨基金(IMF)に対する債務を返済したことを発表。融資総額は32億ドルにのぼり、2005年までの返済予定分を繰上げ返済したものの。
08・31	コロンビア	クリントン米大統領が訪問先の北部カルタヘナで、パストラナ大統領と会談、13億ドルの援助を行なうことを表明した。援助は麻薬を資金源とする左翼ゲリラ組織と戦うため軍の強化が主目的。

08・31	南米 ブラジル	南米12カ国の大統領による初の南米首脳会議がブラジルで開幕。開幕演説でブラジルのカルドゾ(Fernando Henrique Cardoso)大統領が南米の新たな自由貿易圏を2002年までに発足させる意向を表明した。
09・01	ベネズエラ ガイアナ	南米首脳会議でベネズエラのウーゴ・チャベス大統領が、米国企業による南米ガイアナ・エセキボ地域の衛星打ち上げ基地建設計画に関連して、「建設強行は認めない」と発言。両国関係の悪化が懸念された。
09・04	ベネズエラ	政府の消費者保護局はブリジストンの米国子会社ファイアストーン社がベネズエラの工場で生産したタイヤ62000本のリコールに同意したと発表。
09・04	ペルー	前リマ大司教で日本大使公邸占拠事件で平和的解決に尽力したことで知られるアウグスト・バルガス・アルモサラ(Augusto Vargas Alzamora SJ.)枢機卿が死去。享年77歳。
09・04	メキシコ	中部グアナフアト州のラモン・マルティン(Ramón Martín Huerta)知事は先に州議会が可決した中絶全面禁止法案に拒否権を發動した。
09・06	グレナダ	グレナダ政府は同国を私的に訪問中だった章頌先・駐トリニダード・トバゴ大使ら外交官3人を内政干渉発言をしたとして国外退去処分にした。背景にはグレナダ政界の親台派と親中派の対立があると見られている。
09・08	コロンビア	国内線「アイレス」社のボゴタ発フロレンシア行き小型旅客機が護送中の受刑者に乗っ取られた。犯人は左翼ゲリラ・コロンビア革命軍(FARC)の支配下にある南部サンピセンテ・デルカグアンに同機を着陸させ、FARCに投降した。他の乗客・乗員は無事。
09・10	ブラジル	ブラジル・リオデジャネイロ州の海岸に8月末から子供のペンギン340羽が漂着、異常気象が原因とも言われるがはっきりした理由は不明。
09・10	エクアドル	経済安定化のため、自国通貨を米ドルに切り替えるドル化がスタート。自国通貨の全面廃止は中南米でも初めて。大きな混乱はなかった。
09・14	ペルー	フジモリ大統領の側近、モンテシノス国家情報局顧問が野党議員を買収する様子を収録したビデオ・テープが野党によって暴露され、大統領の退陣要求、買収疑惑の徹底究明が求められた。
09・16	ペルー	フジモリ大統領が側近の買収疑惑を受けて、早期の大統領・国会選挙の実施と自己の不出馬を表明、事実上任期中に退任することを明らかにした。
09・17	コロンビア	左翼ゲリラ・民族解放軍(ELN)が、西部カリのレストランで食事していた市民ら少なくとも45人を銃で脅して誘拐した。政府との和平交渉を有利に進めるためと思われる。
09・17	パラグアイ アルゼンチン	アルガーニャ(Luis María Argaña)パラグアイ副大統領暗殺事件の実行者とされ2月にブエノスアイレスで逮捕されていた2人の容疑者が脱獄、1人は11月10日にエステ市で再逮捕された。パラグアイではすでに逮捕された3人の実行犯に対する判決が10月に出されている。
09・19	キューバ	キューバ北西部ピナル・デル・リオで小型飛行機がマイアミに向けて飛び立ったがまもなく大西洋上で墜落、米沿岸警備隊によって9人が救助され、1人が死亡した。当初「乗っ取り」との報道もあったが、計画的な密航だった可能性が高い。
09・19	ペルー	フジモリ大統領が前日ブスタマンテ(Alberto Bustamante Belaúnde)法相が示した「大統領選挙・国会選挙の2001年3月実施」の方針を確認、新大統領就任まで権力の座にとどまると発表、野党の即時辞任要求を拒否した。
09・19	メキシコ	五輪で重量挙げ女子58キロ級のヒメネス(Soraya Jiménez Mendivil)選手が金メダルを獲得、メキシコ史上初の女性金メダリストとなった。

09・20	メキシコ	連邦検察庁が、1994年3月に発生したコロシオ(Luis Donaldo Colosio Murrieta)大統領候補暗殺事件に関する最終的な調査結果を公表した。
09・22	中米	台湾の呂秀蓮副総統が中米4カ国(エルサルバドル、ホンジュラス、ベリーズ、グアテマラ)歴訪に出発。
09・22	ペルー	フジモリ政権と野党勢力が米州機構(OAS)の仲介により対話を再開、モンテシノス国家情報局顧問の更迭と権限剥奪で合意した。また国家情報局を解体する法案も国会に提出された。
09・26	ブラジル	ボサノバ時代に名をあげ、世界的に活躍したギタリスト、バーデン・パウエル(Roberto Baden Powell)氏がリオデジャネイロ市内で肺炎などのため死去。享年63歳。
09・27	ベネズエラ	首都カラカスで石油輸出国機構(OPEC)11カ国による第2回首脳会議がスタート。価格安定や消費国との協調などについて議論が交わされた。翌日カラカス宣言を採択し終了した。
09・28	ペルー	フジモリ大統領が軍部の不穏な動きに対して善後策を協議するため、ワシントンに向け出発、米州機構事務総長、米国務長官らと会談した。
10・03	コロンビア	鉱業・エネルギー省が、国営石炭会社の所有する南米最大規模のセレホン・ソナノルテ炭田の株式を英鉱山・非鉄金属大手のブリトンなど3社からなる企業体に売却すると発表。売却額は約3億8400万ドル。
10・04	キューバ	フィデル・カストロ国家評議会議長が、キューバが2012年の夏季五輪大会開催地に立候補する用意があることを発表。
10・04	コロンビア	米アメリカ・オンラインの中南米地域での事業主体であるAOLラテンアメリカが、ノーベル賞作家であるガブリエル・ガルシア・マルケス(Gabriel García Márquez)氏が編集責任者をつとめる週刊誌「カンビオ」との提携を発表した。同誌の内容をネットを通じて公開する他、ガルシア・マルケス作品のネット販売も手掛ける。
10・05	メキシコ	世界3位のセメント・メーカーであるセメックスが米国の同業サウスダウンを買収することで合意した。金額は28億ドルで、メキシコ企業による米企業を買収としては最高額。
10・06	メキシコ	アエロメヒコ旅客機が、米テキサス州との国境沿いタマウリパス州レイノサにある空港で着陸に失敗、滑走路を飛び出し民家に突っ込んだ。少なくとも5人が死亡、10人以上が負傷した。
10・06	アルゼンチン	アルバレス(Carlos "Chacho" Alvarez)副大統領が辞任。先頃デラルア(Fernando de la Rúa)大統領が発表した内閣改造で上院議員買収疑惑の中心となっているフラマリケ(Mario Alberto Flamarique)前労相が閣内にとどまったことに対する抗議とみられる。
10・12	エクアドル コロンビア	エクアドル北部のジャングル地帯で、石油開発事業との関連で滞在中だった米国人5人を含む10人が武装グループに誘拐され、ヘリコプターでコロンビアへ連れ去られた。コロンビア革命軍(FARC)が米国のコロンビアへの援助供与に反発して行なったとみられている。
10・13	エルサルバドル	メチルアルコールが混入した酒のため、腹痛や吐き気を訴える人が続出、2週間ほどで100名以上が死亡、政府は全国で酒類の販売停止を命じた。
10・15	パナマ	東部コロンビアとの国境沿いのナサレ村で、コロンビア側から越境してきた数十人の武装グループが村民や警察を襲撃、1人が死亡、警官や住民12人が負傷した。

10・17	チリ	軽油税の50%削減などを要求して政府と交渉していたトラック輸送組合連合会がストを決行、約5000台のトラックが幹線道路脇に停車、一部の道路を封鎖するなどした。世論の反発が強かったこともあり、19日にストは終結した。
10・19	中南米 ベネズエラ	ベネズエラの首都カラカスで、チャベス・ベネズエラ大統領と中米・カリブ地域19カ国の首脳・閣僚との間で「カラカス・エネルギー条約」が調印された。この条約はベネズエラ産石油を優遇条件で輸出するもので、同月末にはキューバのカストロ国家評議会議長も協定に調印の予定。
10・19	ペルー	アンダバカ(Carlos Arturo Andabaca)漁業相が、国家の財政難を理由に国際捕鯨委員会(IWC)から脱退する意向を発表。ペルーはすでに84年から分担金を納めておらず、85年以降捕鯨も行っていない。
10・20	メキシコ	メキシコ市のナイトクラブで火災が発生、客など20人が死亡、28人が負傷した。
10・22	ペルー パナマ エクアドル	ペルーのモンテシノス前国家情報局顧問が申請していたパナマへの亡命申請が却下された。同氏はエクアドルのグアヤキルを経由し翌日ペルーに帰国した。
10・24	アルゼンチン	サッカー界の元スーパースター、ディエゴ・マラドーナ氏がアルゼンチン1部リーグのアトレチコ・アルマグロから出されていた監督就任要請を受け入れたことを発表。
10・26	チリ ブラジル	ブラジルの国営石油会社ペトロブラスとチリの同ENAPは、探査、生産、精製、販売など石油事業を中心に後半に提携することで合意した。
10・28	ベネズエラ キューバ	ベネズエラ訪問中のカストロ国家評議会議長が、西部バルキシメでチャベス大統領とそれぞれ野球チームを率いて親善試合を行なった。結果は18対6でキューバのコールド勝ち。試合終了後、チャベス大統領がマウンドに立ち、カストロ議長が打席に立ったが三振に終わった。
10・28	ペルー	フジモリ大統領が陸海空の3司令官の辞任を発表。モンテシノス派の追放によって民主化推進を試みたものと思われる。
10・29	ペルー	国軍兵士約60人が南部トケパラの町を占拠、ラジオを通じて大統領に対する反乱を宣言。人質をとり北部へ移動、30日になって人質全員を解放、大半が投降した。
10・29	ブラジル	統一地方選の決選投票が行なわれ、サンパウロ市長に労働党のマルタ・スプリシ(Marta Suplicy)候補が当選した。
11・05	ブラジル	国営石油会社ペトロブラスが輸送に使用しているタンカーから原油8万6000リットルが流出。一部がサンパウロ州沿岸に漂着した。
11・07	ベネズエラ	国会でチャベス大統領に今後1年間多くの法律を自ら制定する権利を与える授權法を可決した。
11・13	ベネズエラ	石油輸出国機構(OPEC)の臨時総会で、新事務局長としてベネズエラのエネルギー鉱業相アリ・ロドリゲス氏を選出した。
11・14	メキシコ	中国の世界貿易機関(WTO)加盟をめぐるメキシコとの閣僚会議がバンダルスリプガワンのホテルで開かれた。2国間交渉で残るのはメキシコだけだが、妥結には至らなかった。
11・15	ペルー	アレハンドロ・ロドリゲス(Alejandro Rodríguez Medrano)最高裁判事がフジモリ大統領の辞任を要求するとテレビで宣言した。一方フジモリ大統領はアジア太平洋経済協力会議(APEC)出席後、日本に滞在。
11・16	ペルー	国会で野党の人民行動党のパニアグア(Valentín Paniagua Corazao)議員を国会議長に選出。フジモリ大統領寄りとされる前議長の解任を受けたもので、議長職が野党の手に渡るのは8年ぶり。

11・17	キューバ パナマ	イペロアメリカ会議出席中のカストロ国家評議会議長暗殺計画を首謀したとして亡命キューバ人の大物テロリスト、ルイス・ポサダ(Luis Posada Carriles)容疑者がパナマ警察に逮捕された。
11・19	パナマ 中南米	パナマで行なわれていたイペロアメリカ首脳会議が閉幕。子供の教育や福祉の改善などをうたったパナマ宣言を採択した。またコロンビアのゲリラ勢力を米国の軍事援助で抑えこむ計画について周辺国が紛争の越境を懸念する考えを示した。
11・20	ペルー	日本滞在中のフジモリ大統領が48時間以内に国会議長に辞表を提出すると発表。
11・21	ペルー	国会で約12時間にわたる与野党の論戦の末、「道徳的に不適格」だとしてフジモリ大統領罷免決議を可決した。大統領が日本から提出した辞表は受理されなかったことになる。
11・22	ペルー	フジモリ大統領の罷免を受け、パニアグア国会議長が新大統領に就任。新首相にはペレス・デクエヤル(Javier Pérez de Cuéllar)元国連事務総長が指名された。
11・22	ハイチ	首都ポルトープランスの市街地などで7件の爆弾騒ぎが発生。1人が死亡、14人が負傷した。選挙実施反対派によるものとみられている。
11・23	エルサルバドル	フロレス大統領が通貨コロンを1ドル=8.75コロンに固定した上、国内での米ドルの自由な流通を認める通貨統合法案を国会に提出した。ドル化政策を完了したエクアドルに続く動き。
11・29	ハイチ	ハイチで大統領選挙が行なわれ、ジャン・ブルトラン・アリストイド(Jean-Bertrand Aristide)前大統領が当選。野党の対立候補のうち3人が選挙をボイコットしたので91.69%の高い支持率で当選した。
12・01	チリ	サンティアゴ高裁のファン・グスマン(Juan Guzmán Tapia)判事はピノチェト元大統領を殺人罪、誘拐罪などで起訴、自宅軟禁を命じた。しかし5日高裁が起訴を保留、11日取り消した。
12・01	メキシコ	7月の大統領選で当選したビセンテ・フォックス氏が正式に大統領に就任した。就任演説は1時間にわたり、民主主義の確立、貧困の撲滅などが強調された。
12・02	ペルー	元リマ市長のアルフォンソ・バランテス(Alfonso Barrantes Lingán)氏が治療先のキューバの病院で死去した。享年73歳。
12・02	メキシコ	南東部チアパス州で反政府闘争を続ける先住民系武装組織サパティスタ民族解放軍(EZLN)のマルコス(Marcos)副司令官は発足したばかりのフォックス新政権との和平交渉に応じる方針を明らかにした。
12・03	ブラジル	ポルトガル・リスボンで開催されていたテニス・マスターズ・カップで、ブラジルのグスタボ・クエルテン(Gustavo Kuerten)選手が優勝、コンピューター・ランキング導入以来、南米選手で初の年間最終ランキング1位に輝いた。
12・03	エルサルバドル	政府は翌年1月から米ドルを公式の流通貨幣と認めることを発表。レートを固定した上で米ドルと自国通貨コロンを併用、その間にコロン紙幣を銀行で回収していく。
12・03	ベネズエラ	主な労働組合の幹部数百名を罷免させる提案への賛否を問う国民投票を実施した。提案は承認されたが、投票率は低かった。チャベス政権の各労組を親政府系にするための提案だった。
12・04	アルゼンチン	デラルア大統領がアルゼンチン大統領として初めてコスタリカを公式訪問。ロドリゲス(Miguel Angel Rodriguez Clima)大統領らと会談、共同声明を発表した他、中米統合機構総会(SICA)の開会式でも演説した。

12・05	メキシコ	フォックス新政権が先住民の諸権利を保障するとした法案を国会に提出した。フォックス大統領の公約実施の具体的な第一歩となる。
12・06	アルゼンチン	軍政時代の左翼弾圧で政策に巻き込まれイタリア系市民8人が死亡・行方不明になった事件で、ローマの重罪地方裁判所はアルゼンチンの元将軍カルロス・ギジェルモ・スアレス(Carlos Guillermo Suárez Masón)被告ら2人に終身刑、将校5人に禁固24年の判決を言い渡した。
12・12	メキシコ アルゼンチン	「アメリカ大陸の恋人」と呼ばれたアルゼンチンのタンゴ歌手・女優リベルタ・ラマルケ(Libertad Lamarque Bouza)さんが呼吸疾患のためメキシコ市で死去。享年92歳。
12・12	メキシコ	公金横領の容疑で逮捕命令が出ていたメキシコのエスピノッサ(Oscar Espinosa Villarreal)元観光大臣がマナグアでニカラグア警察により逮捕された。元大臣はニカラグアに政治亡命を申請していたが、ニカラグア政府はメキシコ政府の要請を受けて逮捕した。
12・13	キューバ	ロシアのプーチン(Vladimir Putin)大統領が初めてキューバを公式訪問。関係回復を目指して会談が行なわれた。
12・14	南米 チリ	ブラジルでメルコスル首脳会議が開催された。ムベキ(Thabo Mbeki)南アフリカ大統領を招き、自由貿易協定締結に向けた具体的な交渉が行なわれた。会議は15日に閉幕し、チリの正式加盟は先送りとなった。
12・15	ペルー コスタリカ	疑惑の渦中にあり、行方不明となっていたモンテシノス前国家情報局顧問が10月21日に偽造パスポートでコスタリカに入国、その後オランダ領アルバ島に向かったことがコスタリカ公安相によって発表された。
12・18	メキシコ	ポポカテペトル火山が溶岩を噴き上げ噴火、周囲20キロの住民が避難、7000人の軍隊が出動した。25日から火山活動は収束。
12・18	アルゼンチン	政府は国際通貨基金(IMF)による総額397億ドルの緊急金融支援を受けることで同意したと発表。債務危機回避が主な狙い。
12・18	エクアドル	政府は辞任を表明していたイトゥラルデ(Luis Yturalde Mancero)蔵相の後任にホルヘ・ガジャルド(Jorge Gallardo Zábala)氏を任命すると発表。
12・20	ブラジル	中央銀行が金利策定会議を開き、翌日物の銀行間貸出金利を16.5%から15.75%に引き下げることを決定した。
12・27	メキシコ	メキシコの通信・電話最大手テルメクスが米AT&Tおよび米ワールドコムが出資するメキシコの長距離電話会社2社と通信回線接続料問題などで合意したと発表。

(以上260項目)

参考文献

- (1)『朝日新聞縮刷版』『日本経済新聞縮刷版』(2000年各月号)。
- (2)日経ニュース・テレコム。
- (3)イペロアメリカ研究所新聞切抜き(2000年)。
- (4)「ラ米における主なできごと」『ラテン・アメリカ時報』2000年2月－2001年2月

Sophia-R

Sophia University Repository for Academic Resources

Title	〈資料〉 ラテンアメリカ日誌—2001年—
Author(s)	
Journal	イペロアメリカ研究, 24(1)
Issue Date	2002-08-21
Type	紀要/Departmental Bulletin Paper
Text Version	出版者/Publisher
URL	http://repository.cc.sophia.ac.jp/dspace/handle/123456789/9511
Rights	



上智大学
Sophia University

<http://www.sophia.ac.jp>

《資料》

ラテンアメリカ日誌－2001年－

月 日	国名	記事
01 . 01	エクアドル	通貨統合法を施行、米ドルを自国通貨コロンと並ぶ法定通貨とした。これにより1ドル＝8.75コロンの固定相場制が採用され、経済のドル化がスタートした。
01 . 01	エルサルバドル	米国のドルを自国の通貨コロンと同様に流通させる新制度が開始された。経済のドル化による活性化がねらい。
01 . 01	ブラジル	サンパウロで、同市としては初の女性市長、元テレビ司会者・元国会議員のマルタ・スプリシ (Marta Suplicy) 市長が就任。
01 . 08	ペルー	フジモリ (Alberto Kenya Fujimori Fujimori) 前大統領の罷免に伴い4月に実施される大統領選の立候補者受付けが締め切られ、アレハンドロ・トレド (Alejandro Toledo Manrique) 前世界銀行顧問ら全17人の候補者の届出があった。
01 . 08	メキシコ	携帯電話サービス世界最大手の英ボーダフォン・グループが、メキシコの携帯電話2位グループ・イウサセルの株式の34.5%を取得することを明らかにした。
01 . 10	チリ	軍政期の左派弾圧事件で殺人、誘拐罪で起訴されているピノチェト (Augusto Pinochet Ugarte) 元大統領が、精神鑑定のためサンティアゴ市内の病院に入院した。
01 . 10	ペルー	フジモリ前大統領が日本に滞在してペルーでの証人喚問を拒んでいる問題で、ディエゴ・ガルシア (Diego García Sayán) 法相が日本の裁判所に対してペルー国籍であることの確認を求める訴訟検討していることを明らかにした。
01 . 11	ブラジル	ランプレイア (Luiz Felipe Lampreia) 外相が辞任を表明。理由は個人的なものとの説明。
01 . 12	キューバ	前年12月24日、ハバナ発の英国航空機の車輪収納室に忍び込んで密出国を図った16歳と17歳のキューバ人少年2人が遺体となって英国で発見されたことが発表された。
01 . 12	ブラジル	1952年のヘルシンキ五輪、56年のメルボルン五輪で連覇を果たした陸上三段跳びの金メダリスト、アデマル・ダシルバ (Ademar Ferreira da Silva) 氏が死去。享年73歳。
01 . 12	ブラジル	「カーニバルの朝」(黒いオルフェ)などの作曲でも知られる、ボサノヴァ時代から活躍するギタリスト・歌手のルイス・ボンファ (Luiz Bonfá) 氏がリオ・デ・ジャネイロで死去。享年78歳。
01 . 13	中米	メキシコ南部からニカラグアにかけて強い地震が発生。最も被害の大きかったエルサルバドルでは403人が死亡、779人が負傷、360人が行方不明となり、国家非常事態が宣言された。グアテマラでも6人が死亡した。その後死者の数は700名を越した。

01・14	ペルー	ホセ・ビジャヌエバ (José Villanueva Ruesta) 元国軍統合司令官がテレビ番組のインタビューで、「2000年9月に当時のモンテシノス (Vladimiro Lenin Montesinos Torres) 国家情報局顧問から反フジモリ軍事クーデターを持ちかけられたが拒否した」と語った。
01・14	ペルー	日本滞在を続けるフジモリ元ペルー大統領が、4月のペルー国会議員選挙に立候補しないことを初めて明言した。
01・16	エクアドル	ガラパゴス諸島近海でエクアドル船籍のタンカー「ヘシカ号」がサンクリストバル島沖800メートルで座礁、石油68万リットルが流出し、周辺海域約1万平方メートルが汚染され、ペリカン、カモメなどが被害を受けた。22日には政府が同諸島に非常事態宣言を宣言した。
01・16	キューバ	政府がチェコ元蔵相のイバン・ピリプ (Ivan Pilip) 国会議員らチェコ人2人を反革命罪で訴追すると発表。2人は12日にキューバ中部で身柄を拘束されていた。キューバの反体制活動家と接触し、助言や物資を与えた疑い。
01・17	ブラジル	中央銀行が金利政策決定会議を開催、短期金利の誘導目標となる翌日物の銀行間貸出金利(年率)を現行の15.75%から15.25%に下げることを決めた。
01・20	ペルー	モンテシノス元国家情報部顧問の不正蓄財疑惑に絡んで、司法当局はフジモリ政権下最後の国軍司令官だったチャコン (Walter Chacón) 元内相、元陸軍将軍の側近や家族など計8人が逮捕された。
01・22	ブラジル	外務省が辞任したランプレイア外相の後任にラフェル (Celso Lafer) 元開発相を任命したと発表した。29日に正式就任。
01・22	ペルー	ホセ・ウガス (José Hugas) 特別検察官が、フジモリ前大統領を職権乱用罪で近く起訴する方針を明らかにした。容疑は政府広報の企画担当者に対して反政権色の強いテレビや新聞などにコマーシャル、広告を出さないよう指示したもの。
01・23	チリ	サンティアゴ高裁のファン・グスマン (Juan Guzmán Tapia) 判事が、ピノチェト元大統領の自宅を訪れ、約2時間半にわたって殺人、誘拐罪による起訴の可否を判断する尋問を行なった。本人は容疑を全面的に否認した。グスマン判事は29日ピノチェト元大統領を再起訴した。
01・24	ペルー	ペルー日本大使公邸人質事件で、平和解決に向け調停人を務めたファン・シプリアニ (Juan Luis Cipriani Thorne) 大司教がローマ法王から枢機卿に任命された。
01・25	ベネズエラ	南東部シウダー・ボリバルの空港付近でルタカ航空の国内線プロペラ機が墜落、乗客乗員合わせて24人全員が死亡した。乗客は米国・オランダの観光客だった。
01・26	チリ	ピノチェト元大統領が軽い脳梗塞を起こしてサンティアゴの陸軍病院に入院。翌日には退院し、自宅療養を続けた。
01・26	ペルー	南米の主要国が反対していた米国によるコロンビア政府への軍事援助に対し、デクエヤル (Javier Pérez de Cuéllar) 首相がフジモリ前政権の政策を転換、南米諸国で初めて明確な支持を表明した。
01・27	ペルー	4月の大統領選に立候補しているアラン・ガルシア (Alan García Pérez) 元大統領が、亡命先のコロンビアから帰国した。
01・28	ペルー	米連邦捜査局(FBI)がモンテシノス国家情報部元顧問の仲間とされるビクトル・アルベルト・ベネロ・ガルド (Victor Alberto Venero Garrido) 容疑者をフロリダ州マイアミで逮捕した。

01・31	ブラジル	大統領公邸で、与党同盟幹部による政治対話が行なわれた。
02・02	エクアドル	ノボア (Gustavo Novoa Bejarano) 大統領が物価政策に抗議する先住民グループとの交渉決裂を受け、全土に非常事態を宣言した。
02・02	ベネズエラ	チャベス (Hugo Chávez Frías) 大統領が、文民のホセ・ビセンテ・ランヘル (José Vicente Rangel) 外相を国防相に任命した。国防相ポストを文民が占めるのは初めてのこと。
02・06	ブラジル メキシコ	ブラジルを訪問中のカスタンニェダ・メキシコ外相がラフェル・ブラジル外相と会談、2001年前半にも特惠関税協定を締結することなどで合意した。
02・07	ハイチ	ジャン・ブルトラン・アリスティド (Jean Bertrand Aristide) 元大統領が再び大統領に就任。前年11月の大統領選挙では選挙不正を理由に主要野党がボイコットしている。
02・07	ブラジル	サッカー連盟のテイシェイラ (Ricardo Teixeira) 会長が往年の名選手ペレ (Pelé) との長年の不和を水に流し協力を求める意向を表明。カルドン (Fernando Henrique Cardoso) 大統領がサッカー界の問題解決のため、官民合同の委員会を設け、そこにペレ氏の参加を要請したものの。
02・10	ブラジル	ブラジル産の牛肉が狂牛病に感染している恐れがあるとしてカナダが輸入禁止措置をとったことを発端に、両国の関係が悪化。カナダ企業に対する報復措置が検討され、ブラジルの飲食店協会はカナダの食材ボイコットを打ち出した。
02・11	コロンビア	南部ロスボソスでアンドレス・パストラナ (Andrés Pastrana Arango) 大統領と、麻薬地帯の大半を支配する左翼ゲリラコロンビア革命軍(FARC)のマヌエル・マルランダ (Manuel Marulanda) 最高司令官が前年11月以来中断し決裂寸前となっていた和平交渉の再開に合意した。
02・11	ペルー	イスラエル放送が、フジモリ前大統領が同国出国前、経済財政相とともにイスラエル民間銀行のスイス支店に総額5億ドルの非合法資金を預金していたことがわかり、スイス当局が捜査に着手したと報じた。
02・12	ペルー	ネリー・カルデロン (Nelly Calderón) 検事総長が任職の不正蓄財と公金横領の容疑でフジモリ前大統領を国会に告発した。
02・12	メキシコ	米フォード・モーターと米ナビスター・インターナショナルが、商用車事業で幅広く提携、メキシコに折半出資の新会社を設立、米国向け中型トラックの新型車を共同で開発・生産すると発表。
02・13	エルサルバドル ホンデュラス	エルサルバドルとホンデュラスで強い地震が発生。幹線道路が崩壊、274人が死亡するなどの被害があった。1月13日に起きた大地震の余震と見られる。
02・13	ブラジル	国家通信庁が携帯電話事業用の電波周波数の競売を行なった。イタリアの通信最大手テレコム・イタリアが3事業地域のうち2地域を落札した。
02・15	ペルー	国会常任委員会で、「フジモリ前大統領が日本で大統領職務を放棄したのは憲法違反」として、10年間の公職追放処分とする懲罰動議を可決した。
02・16	メキシコ	ブッシュ米大統領が、就任後初の外遊先となるメキシコに到着。フォックス (Vicente Fox Quesada) メキシコ大統領と会談を行ない、移民問題の早期交渉で合意した。
02・17	アルゼンチン	南部チュプト州でジュラ紀のものと思われる恐竜の化石が大量に発掘された。

02・17	ペルー	モンテシノス元国家情報局顧問の疑惑調査委員会は、フジモリ前大統領がモンテシノス元顧問の不正蓄財などで共犯者だったとして、国会と検察当局に告発した。フジモリ政権下での歴代首相6人も告発された。
02・18	ブラジル	オーストラリアの資源大手BHPがブラジルの鉱山大手カエミ・ミネラソン・エ・メタージアへの出資比率を現在の40%から60%に増やして経営権を握ると発表。これによりBHPは世界第2位の鉄鉱石生産会社となる。
02・19	ブラジル	武装警察が、サンパウロ市カランジルなどサンパウロ州内29ヶ所の刑務所で一斉に発生した受刑者の暴動を、発生から24時間ぶりに鎮圧したと発表。少なくとも15人の受刑者が死亡、警官4人を含む63人が負傷した。
02・20	アルゼンチン	フィリピン国家警察が額面で約2兆157億ドルにのぼる大量の偽札などを押収。その中にはアルゼンチンの国債の偽ものも含まれていた。
02・20	ブラジル	南部パラナ州政府が、軽油流出事故を起こした国営石油会社ペトロbrasに対し1億5000万レアルの罰金を科すと発表した。昨年7月に続く2度目の事故のため、厳罰で対処したもの。
02・21	中南米	バチカンで新たな枢機卿44人の登位式が行なわれ、後継の法王を決める選挙で投票資格を持つ80歳未満の枢機卿の中で、中南米出身者がイタリア出身者を上回った。
02・24	キューバ	映画「ブエナ・ビスタ・ソシアル・クラブ」で有名になった歌手・ギタリストのコンパイ・セグンド氏が、首都ハバナで行なわれた国際葉巻祭りでトレードマークの白い帽子を競売にかけ、17500米ドルで落札された。
02・24	ブラジル	リオデジャネイロでカーニバルが始まった。
02・24	ブラジル チリ	ブラジルのラフェル外相がチリを訪問し、ラゴス (Ricardo Lagos) 大統領と会談した。
02・25	メキシコ	南東部チアパス州で反政府闘争を続ける先住民系武装組織サパティスタ民族解放軍(EZLN)の代表団が、サンクリストバル・デラスカサスから首都メキシコ市への「和平方進」に出発。国会に先住民の権利尊重を明記する憲法改正案を可決するよう圧力をかけるのが狙い。
02・28	ペルー	ネリー・カルデロン検事総長が「日本で大統領職務を放棄したのは憲法違反罪にあたる」として最高裁にフジモリ前大統領を起訴した。
02・28	中米	国連の中南米カリブ経済委員会(ECLAC)が、1月と2月に起きた中米の地震による被害額が16億5000万ドルに上るとの試算を発表した。
03・02	アルゼンチン	マチネア経済相が、長引く経済不振の責任をとって辞任。
03・03	ペルー	97年4月のペルー日本大使公邸占拠事件で、治安部隊に射殺された左翼ゲリラの遺族から「射殺は違法な処刑だった」とする告発が出ていた問題で、検察当局がリマ郊外の墓地で遺体発掘の予備調査などの捜査を開始した。
03・08	中南米	米政府の最新の国勢調査で、米国内のヒスパニック系の人口が3530万人となり、ほぼ黒人に並んだことが明らかになった。10年前に行なわれた前回の国勢調査と比較すると、ヒスパニック系の人口増加率は61.2%となった。
03・09	ブラジル	北朝鮮と国交樹立に関する共同コミュニケを発表。
03・09	メキシコ	昨年グラミー賞を受賞したメキシコ出身のギタリスト、サンタナ (Carlos Santana) 氏が生まれ故郷のアウトランで「町の孝行息子」と名づけられた彫像の除幕式に出席した。

03・11	コロンビア	左翼ゲリラ、コロンビア革命軍(FARC)のマルランダ最高司令官が「人質になっている警官・軍人の一部と政府側が拘束しているゲリラ兵士との交換を八日以内に開始する」と表明した。結局6月2日に捕虜交換協定に調印、16日に初の捕虜交換が実現した。
03・12	メキシコ	メキシコ市内でサパティスタ民族解放軍(EZLN)代表団が、国会各派で組織する調停和平委員会と和平に向けた協議を行なった。
03・13	コロンビア アルゼンチン	アルゼンチン、コロンビア両政府が、国内産の肉牛が口蹄疫に感染していることを確認した。
03・15	ブラジル	リオデジャネイロ州カンポス沖約190キロの大西洋上で、国営石油公社ペトロブラスが所有する海底油田掘削施設が爆発し炎上。作業員10人が死亡、1人が重傷となった。20日、圧縮空気注入による温存の努力も空しく、海上油田施設は完全に水没した。
03・19	アルゼンチン	2日に辞任したマチネア氏の後任、ロペス・ムルフィ (Ricardo López Murphy) 経済財政相がわずか15日間で辞任、ドミンゴ・カパロ (Domingo Cavallo) 元経済財政相が復帰した。ロペス・ムルフィ氏が16日に発表した財政緊縮策に対して連立与党内から不満が噴出、3閣僚が辞任を表明する事態に発展したため。
03・22	アルゼンチン ブラジル	経済の低迷からデラルア (Fernando de la Rúa) 大統領が辞任するとの説が流れ、アルゼンチンとブラジルの株価指数が急落、ブラジルの通貨レアルは99年3月以来の安値をつけた。
03・22	ブラジル メキシコ	世界第3位の製パン会社、メキシコのビンボ社がブラジルの同業大手ブルスピタを買収することで合意した。金額は6300万ドル。
03・23	メキシコ	エネルギー省報道官が、石油の輸出量を4月1日から日量4万バレルの幅で減らすことを明らかにした。石油輸出国機構(OPEC)の定例総会で減産に合意したことに対応したもの。
03・24	キューバ	政府がロドリゲス (Orlando Rodríguez Romay) 水産相を更迭、後任に国営電力の責任者、アルフレド・ロペス・バルデス (Alfredo López Valdés) 氏を起用すると発表。ロドリゲス氏の親類が汚職疑惑で告発されたのを受けたもの。
03・24	グアドループ	サンバルテレミー島でエールカライブ航空の小型機が民家に激突、炎上した。乗客17人、乗員2人、民家にいたお年寄り1人の全員が死亡した。
03・28	メキシコ	サパティスタ民族解放軍(EZLN)代表団が、下院で演説を行ない、先住民の権利や文化を認めた憲法改正案の成立を強く訴えた。ただし最高指導者のマルコス (Marcos) 副司令官は欠席、与党国民行動党議員の大半が演説をボイコットした。その後代表団は政府側代表と会談、和平交渉の再開で合意した。
03・29	中南米	チリの首都サンティアゴで「東アジア・ラテンアメリカ・フォーラム」の初の外相会議が開幕。
04・01	プエルトリコ	米大リーグがプエルトリコ・サンフアンで2001年シーズン最初の試合を行なった。米国・カナダ以外の地域でシーズン開幕戦が行なわれるのは3年連続。
04・05	中南米	中国の江沢民国家主席がチリ、アルゼンチン、ウルグアイ、ブラジル、キューバ、ベネズエラの6ヶ国を訪問。(-17日)

04・07	中南米	米州自由貿易地域(FTAA)参加予定の34ヶ国が、プエノスアイレスで貿易相会議を開き、FTAAを2005年12月までに発効することなどを盛り込んだ閣僚宣言を採択した。
04・11	キューバ	首都ハバナの映画館で、1962年のキューバ危機を描いた米国映画「13デイズ」の特別上映会が行なわれた。
04・13	キューバ	キューバ訪問中の江沢民・中国国家主席がハバナでカストロ国家評議会議長らと会談、中国がキューバに対し3億7400万ドルの経済協力をする協定に調印した。
04・16	コロンビア	首都ボゴタから北東へ約500キロにあるアラウカで米国の石油会社「オキシデンタル」の現地法人従業員92人が、左翼ゲリラ民族解放軍(ELN)とみられる武装グループに誘拐された。三日後までに全員が解放された。
04・17	ペルー	パニアグア (Valentín Paniagua Corazao) 大統領が陸海空3軍の司令官の辞任を発表。フジモリ前政権が92年に国会を閉鎖した自主クーデターを支持する文書に署名したことがビデオ映像で表面化したことにより辞表を提出していた。
04・20	ペルー	北東部ロレト県で米国人4人が乗った軽飛行機が墜落、2人が死亡した。ペルー空軍機が軽飛行機を麻薬密輸組織のものと誤認し撃墜したものの。
04・20	ペルー	ビダル (Antonio Ketín Vidal) 内相が当局から逮捕命令が出ているモンテシノス元国家情報局顧問について、身柄確保につながる情報に約500万ドルの報奨金を出すと発表した。情報提供者の国籍などは問わない。
04・22	中南米	カナダ・ケベック市で行なわれていた米州首脳会議が閉幕。ブッシュ (George W. Bush) 米大統領は北米自由貿易協定(NAFTA)の成果を強調、2005年発足を目指す米州自由貿易圏(FTAA)形成を軸に南北アメリカの主導権を確保する姿勢を鮮明に打ち出した。会場の外では反対派と警察隊の衝突も起こった。
04・23	アルゼンチン	翌日に予定されていた、国債の入札を政府が停止。債務支払能力に対する投資家の懸念から中南米諸国の通貨・株が下落した。
04・23	アルゼンチン ブラジル	ブラジルの通貨レアルが1ドル=2.25レアル台となり、史上最安値を記録した。アルゼンチン経済への不安感、変動相場制への意向で大幅に下落したトルコリラへの懸念が背景にある。
04・23	コロンビア ブラジル	コロンビア南東部の密林地帯ピチャダで、ブラジル最大の麻薬組織のボス、ルイス・フェルナンド・ダコスタ (Luiz Fernando da Costa) 容疑者がコロンビア国軍により逮捕。脱獄しパラグアイを経てコロンビアに潜伏し、コロンビア革命軍(FARC)と麻薬・武器取引を行っていたと伝えられる。
04・25	アルゼンチン	デラルア大統領がペドロ・ポウ (Pedro Pou) 中央銀行総裁を更迭、後任にロケ・マカロネ (Roque Macarone) 元銀行協会会長を起用した。
04・30	アルゼンチン	サッカー・プロリーグ選手組合が総額1億ペソを超える選手報酬が支払われていないとして、無期限ストを断行することを発表した。
04・30	アルゼンチン	連邦判事が、在任中に武器密輸に関与した容疑でメナム (Carlos Saúl Menem) 元大統領を法廷へ召喚することを決定。
04・30	メキシコ	サパティスタ民族解放軍(EZLN)の最高指導者マルコス副司令官が、政府との和平交渉を全面的に中止すると声明。先住民の権利と文化を認めた法案が原案より先住民に不利な形で成立したことに反発したものの。

05・01	グアテマラ	外国通貨の自由な流通を公認する新制度が施行された。これにより経済のドル化が進行すると見られる。中南米でのドル流通の自由化公認はパナマ、エクアドル、エルサルバドルについて4番目。
05・03	キューバ	汚職防止を強化するため、査察統制省を新設することが共産党機関誌グランマで発表された。新大臣はリナ・ペドラサ (Lina Pedraza Rodríguez) 査察事務局長。
05・04	コロンビア	西部カリで、ホテルの駐車場に停めてあった車が爆発、少なくとも32人が重軽傷を負った。
05・05	キューバ	カストロ (Fidel Castro Ruz) 国家評議会議長がイラン、マレーシアなど4ヶ国の歴訪に出発。
05・07	ウルグアイ ブラジル	米務省がウルグアイ政府と共同で自由貿易に関する委員会を発足させると発表した。南米諸国の団結を重視しているブラジルとの対決色が濃厚になった。
05・08	ブラジル	1963年に英国で発生した史上最大の列車強盗の首領で、ブラジルに逃れていたロナルド・ビッグズ (Ronald Biggs) 脱獄囚が、36年間の逃亡生活に終止符を打ち、ブラジルから英国へ帰還、ロンドン警視庁に身柄を拘束された。
05・08	ブラジル	民営化や地域復興計画に絡んで公金が不正流用されているとの野党による汚職疑惑追求に関連して、ベゼラ (Fernando Bezerra) 国家統合相が辞任。翌日にはドルネレス (Francisco Dornelles) 労相が辞任を表明した。
05・09	キューバ	人類初の有人宇宙飛行に成功したロシアのガガーリン (Yurii Alekseevich Gagarin) の飛行日誌がニューヨークのオークションに出品、17万1000ドルで落札された。63年に当時のソ連最高指導者フルシチョフ (Nikita Segeevich Khrushchuyov) がカストロ議長に贈ったものではないかとの説も出た。
05・11	ジャマイカ	レゲエの神様、ボブ・マーリー (Bob Marley) が亡くなってから20年が経過、生家に世界中からファンが集まり、ろうそくに灯をともした。
05・12	アルゼンチン	政府が国内の製靴、繊維、衣料業界に対し減税措置を適用すると発表した。輸出不振の要因だった高コストを是正するのが狙い。
05・12	ブラジル	1958、62年のワールドカップでの連続優勝に貢献したサッカー選手、ディディことワルディール・ペレイラ (Waldir Pereira) 氏が死去。享年71歳。
05・13	ベネズエラ	チャベス大統領がロシアを訪問。その後イラン、インド、中国を歴訪、独自外交路線を展開した。
05・15	コロンビア	ボゴタの東約140キロのカサナレ県ビジャヌエバで、農場からバスで帰宅する途中の労働者約190人が武装集団に誘拐されたが、翌日までに全員が無事解放された。
05・15	ブラジル	地理統計院が、2001年第1四半期のGDP成長率が対前年同期比で3.77%と発表した。
05・16	ブラジル	記録的な大干ばつに起因する電力不足に悩む政府が、サッカーをはじめとする夜間に行なわれるスポーツ行事に対して電力供給を停止することを決定した。翌日から全国で実施された。
05・16	ペルー	リマ中心部の全国選挙審判所から約100メートル離れたニコラス・デピエロラ通りで爆発があり、7人の市民が負傷した。大統領選決選投票の妨害が目的と思われる。

05・17	コロンビア	北西部メデジンの高級住宅街で、乗用車にしかけられた爆弾が爆発、付近の住民ら6人が死亡、82人が負傷した。
05・17	メキシコ	セメント世界第3位のセメックスが、タイの中堅セメント業者サラブリ・セメントを買収したと発表。
05・20	チリ	北部イキケの刑務所で受刑者らが暴動を起こし、受刑者26人が死亡、150人以上が負傷した。
05・20	ブラジル	米エネルギー大手エンロンがブラジルで予定していた2ヶ所の火力発電所の建設計画を中止すると発表。為替リスクの問題から採算が取りにくいと判断した、と説明。
05・20	中南米	ブッシュ米政権が、中南米諸国に対して教員養成施設の新設などの教育支援策を提案していたことが明らかになった。FTAA交渉を円滑に進めるためと思われる。
05・21	チリ	ラゴス大統領が就任以来2回目の大統領教書を発表した。
05・21	ベネズエラ	政府が南米南部共同市場(メルコスル)への加盟を正式に申請した。
05・23	ブラジル	中央銀行が金利政策決定会議を開催、翌日物の銀行間貸出金利(年率)を現行の16.25%から16.75%に引き上げた。
05・24	アルゼンチン	政府が債務総額の半分を超す667億ドルを借り換えの対象とすることを明らかにした。これにより今後4年間の債務負担が177億ドル圧縮できると見こんでいる。
05・25	キューバ	革命の英雄チェ・ゲバラ(Ernesto "Che" Guevara)を撮影してことで知られる写真家、アルベルト・コルダ氏(Alberto "Korda" Díaz Gutiérrez)が訪問中のパリで死去。享年72歳。
05・25	コロンビア	ボゴタ国立大学前のバス停で爆弾が爆発、15分後にも近くで爆発があり、合わせて4人が死亡、26人が負傷した。
05・25	中米 エルサルバドル	首都サンサルバドルで第三回台湾・中米諸国首脳会議が開催され、台湾と中米の経済交流拡大などを骨子とする共同声明が採択された。台湾の陳水扁総統はその後グアテマラを訪問した。
05・26	アルゼンチン	メネム前大統領が、元ユニバースのセシリア・ボロッコ(Cecilia Borocco)さんと結婚した。二人とも結婚は2度目。
05・29	ベネズエラ	政府機関である消費者保護局(INDECU)が、米フォード・モーターのスポーツ・ユーティリティ・ビークル「エクスペローラー」の国内での宣伝と販売を禁止するよう司法当局に申請した。ブリジストン・ファイヤストーン社製のタイヤを装着したフォード社の事故が問題化した後の調査に基づく措置。
05・29	メキシコ	フォックス大統領が、政権6年間の国家開発計画を発表した。
06・03	ペルー	大統領選挙の決選投票が行なわれ、中道右派ペルー・ポシブレ党のアレハンドロ・トレド元世界銀行顧問が当選した。対立候補の左派アブラ党のアラン・ガルシア元大統領はわずかに及ばなかった。
06・04	メキシコ	フォックス大統領が韓国を訪問、金大中大統領と青瓦台で会談、経済問題を中心に意見交換を行なった。
06・04	中南米	第31回米州機構会議がコスタリカで開催された。
06・06	メキシコ	フォックス大統領が中国を訪問。(9日)
06・07	アルゼンチン	メネム元大統領が、現職中にクロアチアとエクアドル向けの不正武器輸出に関与したとして、自宅軟禁下に置かれた。

06・14	アルゼンチン メキシコ	サッカーの南米クラブ選手権、リベルタドーレス杯の準決勝戦が行なわれ、メキシコのクルス・アスルが決勝進出を決めた。招待出場のみキシコ・チームにはトヨタ杯への出場権が無いため、トヨタ杯にはもう一つの決勝進出チーム、アルゼンチンのボカ・ジュニアーズが決定した。
06・14	プエルトリコ	米政府が自治領プエルトリコ・ビエケス島で海軍が60年にわたり行なっている爆弾投下訓練を2003年5月で打ち切ると発表。
06・17	アルゼンチン	北西部ヘネラル・モスコニ市近郊の幹線道路で賃上げ要求のピケを張っていた約100人の労働者と国境警備隊約800人が衝突。労働者3人が死亡した。
06・18	アルゼンチン	ペソ高を緩和して輸出の振興を図るため、貿易業者に限定して適用する為替相場を導入した。米ドルとユーロの中間値が採用された。
06・18	チリ	中南部タルカワノの洞窟で、15匹の野良犬と2年間にわたり暮らしていた10歳の少年が18日までに保護された。
06・20	ブラジル	中央銀行が金利政策決定会議を開催、翌日物の銀行間貸出金利(年率)を現行の16.75%から一気に18.25%まで引き上げた。
06・21	アルゼンチン	上院が1ドル=1ペソに固定していた為替相場制度をドルとユーロの通貨バスケット制度に変更する拡大兌換法案を賛成多数で可決した。双方の通貨が等価となった時点で発効する。
06・21	ブラジル	中央銀行が通貨レアルの対ドル相場下落に歯止めをかけるため、1998年の国際通貨基金などからの総額415億ドルの金融支援のうち、20億ドルを新たに引き出すことを明らかにした。
06・21	南米	メルコスル(南米南部共同市場)構成国はパラグアイの首都アスンシオンで外相らによる会議を開いた。対外共通関税の引き下げや紛争処理機関の設置を進めることで一致した。翌日には首脳会議が開かれ、米国との自由貿易交渉を促進することなどで合意した。
06・22	コロンビア	南部ブトゥマヨ県でコロンビア革命軍(FARC)が国軍基地を攻撃、双方合わせて約60人が死亡した。
06・23	キューバ	カストロ国家評議会議長が、反米演説の途中で突然気分が悪くなり、演説を一時中断する騒ぎがあった。カストロ議長が公の場で体調を崩したのは初めてのこと。
06・23	ペルー	マグニチュード8.1の大地震が発生、アレキパやモケグア市などで家屋が倒壊、死者・行方不明者は合わせて90人を超した。
06・23	ペルー	南部で強い地震が発生、97人が死亡、家を失った人は46400人にのぼった。特に地震後の津波の被害が大きかった。
06・24	ブラジル	国家石油庁が実施した油田・ガス田の国際入札で、米石油大手のフィリップス・ペトロリアム、独ビンターショールなど欧米の有力企業による落札が相次いだ。
06・24	南米	ベネズエラ北部のバレンシアでアンデス共同体が首脳会議を開き、財政赤字やインフレ率などマクロ経済の指標に関する共通目標を定めることなどで合意した。FTAA発足に備えるねらい。
06・25	アルゼンチン	アルゼンチン最大の航空会社、アルゼンチン航空の持ち株会社が全路線の運航を取りやめる可能性を示唆、会社存続の危機に直面。累積債務は9億ドルに膨れ上がっている。持ち株会社側は労組が合理化案を受け入れなければ、追加投資を行わない姿勢。

06・25	ペルー	モンテシノス元国家情報局顧問が、逃亡先のベネズエラの首都カラカスで同国国家警察に逮捕、ペルー政府の特別機でリマの軍用飛行場に輸送された。
06・26	ペルー	ホルヘ・バレット (Jorge Barreto) 判事が、フジモリ前大統領の義弟であるビクトル・アリティミ (Victor Arítomi Shinto) 前駐日ペルー大使に対して、公金横領などの疑いで逮捕命令を出した。
06・26	メキシコ	大統領官邸の改装に伴う備品購入問題で、大統領府のカルロス・ロハス (Carlos Rojas) 物資購入室長と同室員2人が辞職した。
06・27	キューバ	アフロキューバン・ジャズの創造に関わり、ニューヨークやメキシコのジャズ・ラテン音楽界でアレンジャー、バンドリーダーとして活躍したキューバ人、アルトゥーロ・チコ・オファリル (Arturo "Chico" O'Farril) 氏がニューヨーク・マンハッタンで死去した。享年79歳。
06・28	コロンビア	コロンビア革命軍(FARC)が西部トリマ県で、政府軍兵士ら242人の人質を解放した。政府との人質交換協定に基づく解放で、過去最多。
06・28	ペルー ベネズエラ	モンテシノス元ペルー国家情報局顧問の逮捕・送還をめぐる両国の非難合戦が激化、チャベス大統領はペルー駐在大使の召喚を発表、翌日デクエヤル首相もベネズエラ駐在大使の召喚を決定した。
06・30	ブラジル	1992年10月にサンパウロ州カラジル刑務所で囚人が軍警察の銃撃などで死亡した事件で、司法当局は元軍警察大佐のウピラタン・ギマラエス (Ubiratan Guimarães) 被告に懲役632年の判決を言い渡した。被告が120人の部隊を率いて囚人111人のうち、102人の銃殺を命じたこと認定。ただしブラジルの刑法の規定で実際の懲役は30年となる。
07・01	メキシコ	サカテカス州ヘレスでメキシコ初の米国市民の市長が誕生した。当選したアンドレス・ベルムデス (Andrés Bermúdez) 氏は18年前に車のトランクに隠れて米国に入国、その後事業で成功して、カルフォルニアで「トマト王」と呼ばれる人物。
07・02	メキシコ	ビセンテ・フォックス大統領が、マルタ・サアグン (Marta Sahagún) 大統領報道官と電撃結婚を発表。
07・03	南米	第5回EU＝メルコスル自由貿易協定がウルグアイで開催された。(-6日)
07・04	アルゼンチン	司法当局が、エクアドルやクロアチアへ武器を不正に輸出した容疑で、メネム元大統領を自宅軟禁下のまま武器密輸の罪で起訴した。
07・04	ブラジル	北東部バイア州で、賃上げなどを求めて警官がストライキに入った。12日には地域の治安回復のため、軍が出動した。
07・07	ブラジル	東部ミナスジェライス州で、前大統領のイタマル・フランコ (Itamar Franco) 州知事が恋人の女性を憲兵隊幹部に飛び級昇進させたことに対して、憲兵で作る団体が反発、フランコ氏を裁判所に訴えた。
07・09	チリ	左派弾圧事件で1月に起訴されたピノチェト元大統領の弁護団が同氏が心神喪失状態にあるとして裁判の一時停止を求めた訴訟で、サンティアゴ高裁は弁護団の訴えを認めた。事実上の幕引きとなり、市民の抗議デモが発生した。
07・10	アルゼンチン	カバロ経済相は歳出を税収の水準に抑制する財政赤字ゼロ計画を発表した。
07・11	チリ メキシコ	第4回メキシコ・チリ政府間協定がメキシコで開催された。(-12日)
07・11	中南米	中南米、アジアなど新興市場の通貨・株式相場が軒並み下落。アルゼンチンが抱える巨額債務と経済運営に対する不安が表面化したもの。

07・12	アルゼンチン	司法当局が、南米諸国の左翼活動家が多数弾圧された「コンドル計画」に関与したとして、1976-83年まで軍政を率いたホルヘ・ビデラ (Jorge Rafael Videla) 元大統領を起訴、資産約100万ドルも凍結された。
07・12	ハイチ	1997年8月、ニューヨークで起きた同市警の白人警官によるハイチ出身黒人男性移民に対する暴行事件で、被害者の出していた損害賠償請求は、被告である同市と同市警労組が870万ドルを支払うことで和解が成立した。事件に関わった警官はすでに服役中。
07・13	アルゼンチン	ブッシュ米大統領が、経済危機の懸念が高まる、アルゼンチンのデラリア大統領に対し、同政府の財政再建策を支持する書簡を送った。市場の不安を和らげるのがねらいと見られる。
07・13	ペルー	パニアグア大統領が、フジモリ前政権までの過去20年間に行なわれた人権弾圧事件を調査する「真実委員会」を発足させた。
07・14	キューバ	米マイアミ沖で漂流中に救助され、送還をめぐって米・キューバ間の激しい争いを引き起こした、エリアン・ゴンサレス (Elián González) 少年の記念館が、西部カルデナスに完成し、開館式が行なわれた。同館は思想闘争記念館と呼ばれ、館内にはスーパーマン人形を投げつけるエリアン君のブロンズ像などがある。
07・17	南米	アルゼンチンの野党系州知事が政府の財政緊縮策に合意したのを受け、下げていた南米主要国の株式が軒並み反発した。しかし翌日連邦議会で野党勢力が抵抗を続けたため、再び反落した。
07・18	ペルー チリ	チリの司法当局が、ペルーのコンティネンテ航空が麻薬取引に絡んだマネーロンダリング(資金洗浄)に関与していたとして強制捜査に着手。チリ法人幹部らを拘束、航空機5機を押収して同社のチリ乗り入れを一時的に停止した。コンティネンテ航空は関与を全面否定、損害賠償訴訟で対抗する構えを見せた。
07・20	アルゼンチン	国会職員が経済対策法案の審議が行なわれている国会の一部を占拠した。1280億ドル以上の政府債務から経済危機に陥っている中、政情不安の深刻化を象徴した出来事となった。
07・22	グアテマラ	内戦中の軍による虐殺や人権侵害を調べていたヘラルディ (Juan Gerardi) 司教が98年に殺害された事件をめぐり、軍人らを殺人罪で裁いた判事らに執拗な脅迫が相次ぎ、バリオス (Yassmin Barrios) 判事がスペインに出国したことを国連和平監視団が発表。脅迫は判決に不満を持つ勢力によるものと考えられる。
07・23	キューバ	オリンピック委員会のアルバレス会長が、首都ハバナが2012年夏季オリンピック招致に動き出すことを明らかにした。
07・25	キューバ	米下院は米国民のキューバ渡航規制を解除する来年度予算措置を賛成多数で可決上院に送付した。対キューバ禁輸措置の完全解除についても採決したが、こちらは否決した。
07・25	ブラジル	ブラジル政府はアルゼンチン経済危機の波及に対処するため歳出削減策を発表した。
07・25	ブラジル	政府は2001年の歳出を10億レアル削減すると発表した。国債通貨基金からの金融支援が11月で期限切れとなるのを前に財政健全化への意思を示そうとしたもの。
07・25	ペルー	司法当局は、モンテシノス元国家情報部顧問の不正蓄財を訴えた告発を取り上げなかったなどとして、ネリダ・コラン (Blanca Nélida Colán) 元検事総長を告発看過などの容疑で逮捕した。

07・26	アルゼンチン	米有力格付け会社ムーディーズ・インベスターズ・サービスが、アルゼンチンの外貨建て、ペソ建て両国債の格付けを「B3」から「Caa1」にそれぞれ一段階引き下げたと発表した。国債の格付けとしては、パキスタン、ウクライナと並ぶ最低ランク。
07・26	キューバ	ハバナの米利益代表部ビル前で市民約120万人が反米デモを行なった。米国のキューバ経済制裁を非難して行進した。
07・26	ペルー	リマのヘススマリア区が、同区にある日本大使館前の治安対策用の壁9枚をブルドーザーで取り壊し撤去した。イスキエルド (Francisca Izquierdo) 区長は前大統領の引き渡しに応じない日本に抗議するためだと言明。
07・27	ボリビア	政府が、肺ガンと肝臓ガンの治療のため米国で治療中のウーゴ・バンセル (Hugo Banzer Suárez) 大統領が8月6日に辞任すると発表。
07・28	ペルー	リマの国会でアレハンドロ・トレド元世界銀行顧問の大統領宣誓式が行なわれ、正式にトレド政権が発足した。
07・29	プエルトリコ	ビエクス島で米海軍による爆撃訓練の即時停止と撤退の是非を問う住民投票が実施され、演習停止と施設返還を求める賛成派が68%の多数で勝利した。
07・30	アルゼンチン	歳出削減関連法案が上院で可決した。
07・31	キューバ	米フロリダ州南端を訓練飛行で離陸した軽飛行機が、無許可でキューバ領空に入り、首都ハバナ郊外の海岸に不時着する騒ぎがあった。期待は壊れたがパイロットは無事。パイロットは普段から変わった言動が多かったと言われる。
07・31	コロンビア	北部コルドバ県などで政府軍とコロンビア革命軍(FARC)の間で戦闘が発生し、双方合わせて105人が死亡した。
08・01	アルゼンチン	中南米歴訪中の英国ブレア (Anthony Charles Lynton Blair) 首相がイグアスの滝を訪問。アルゼンチン領内でデラルア大統領と会談した。1982年のフォークランド(マルビナス)紛争以来、英首相のアルゼンチン訪問は初めて。領有問題には触れなかった。
08・02	ペルー	最高裁が、職務放棄罪で起訴中のフジモリ元大統領を「被告不在」と認定、逮捕命令を出すとともに、国際刑事警察機構(インターポール)に対して同氏の身柄拘束を要求したと発表。しかし4日になって「より重罪での審理を目指す」として逮捕状の執行は見合わされた。
08・02	メキシコ	ブレア英首相が中南米歴訪最後の訪問国であるメキシコに到着。フォックス大統領と会談した。
08・02	中南米	国連ラ米・カリブ経済委員会(CEPAL)は2001年のラテンアメリカ地域の経済成長率の予測を3%から2%へ下方修正した。
08・02	中米	世界食糧計画(WFP)が、中米のホンデュラスやニカラグアで起きている干ばつで、約140万人が食糧難に見舞われていると発表した。このうち78万人が深刻な状況にあるとされる。
08・03	アルゼンチン	国際通貨基金のホルスト・ケーラー (Horst Kohler) 専務理事は、経済危機の懸念が強まっているアルゼンチンに対し12億ドルの支援融資を前倒して実施するとともに、波及が心配されるブラジルに対しても、新たに総額150億ドルの支援融資枠を設定すると発表した。21日には約80億ドルの融資枠拡大を実施すると発表。

08・05	メキシコ	米総合金融サービス大手のシティ・グループはメキシコ最大の金融持ち株会社グルーポ・フィナンシエロ・バナメックス・アクシバル(バナクシ)の買収を完了した。
08・06	ブラジル	ブラジルを代表する作家の一人、ジョルジェ・アマード (Jorge Amado) 氏が東部サルヴァドル市の病院で死去。享年88歳。
08・07	ボリビア	バンセル前大統領の病気による辞任を受け、ホルヘ・キロガ (Jorge Fernando Quiroga Ramírez) 副大統領が大統領に就任。41歳で同国史上最年少の大統領となった。
08・09	メキシコ	米国とメキシコの両国外相・法相・内相がワシントンで会談し、米国内のメキシコ人不法滞在者問題について、ゲストワーカー(季節労働者)枠をもうけて一定期間の合法的就労を認めることで基本的に一致した。
08・10	コロンビア	政府軍が、左翼ゲリラ民族解放軍(ELN)の拠点、北部ボリバル州などに兵員約1200人を送り込み、掃討作戦を開始すると発表した。
08・11	キューバ	76年から92年まで外相を務めたイシドロ・マルミエルカ (Isidoro Malmierca) 氏がハバナで死去。享年70歳。
08・13	コロンビア	国軍がコロンビア革命軍(FARC)の爆弾製造などに協力したとして、英国・北アイルランドのカトリック系過激派アイルランド共和軍(IRA)のメンバー3人を逮捕した。
08・13	メキシコ	デルベス (Luis Ernesto Derbez) 経済相が、2001年の海外直接投資が250億から255億ドルに達するとの見通しを明らかにした。2000年の実績のほぼ2倍の数字。
08・15	ブラジル	地理統計院は2001年第四半期のGDP成長率が対前年同期比で0.79%と発表した。
08・16	コロンビア	国軍が、コロンビア革命軍の緊張緩和地域からの進行を察知し、ヘリや輸送機で約4000人の兵力を一挙に投入、ウリアス・クエジャル (Urias Cuellar) 司令官が死亡したほか、1000人規模の精鋭部隊を壊滅に追い込んだ。作戦の成功を受けて、23日に政府は和平交渉での譲歩と7月に誘拐されたドイツ人3人の解放を要求した。
08・16	ブラジル	リオデジャネイロ近郊の私立ブワナ動物園で、飼育していた103匹の動物の死骸が見つかった。警察はえさを長期間与えず餓死させた可能性が強いと見ている。この動物園は最近所有者が変わり、新しい所有者は動物園を閉鎖する予定だったという。
08・16	メキシコ	国際通貨基金(IMF)が1999年に新興市場危機の再発防止策の一環で創設した「予防的融資枠(CCL)」の適用第1号をメキシコ向けに設定する方針を固めたと発表。中南米では経済が安定しているメキシコへの危機連鎖を未然に防ぐのがねらい。
08・17	中南米	中南米19ヶ国からなる政策協議機関「リオ・グループ」の首脳会議がチリの首都サンティアゴで開催された。アルゼンチンの経済危機を回避するため、国際社会に協力を要請する宣言を採択し18日に閉幕。
08・18	メキシコ	メキシコ市近郊にある独自動車大手フォルクス・ワーゲンのプエブラ工場で、従業員が賃上げを求めるストライキに突入した。この工場は世界で唯一新型「ビートル」を製造しており、ストライキによって同車の供給に影響が出る可能性もある。

08・22	アルゼンチン	デラルー大統領が国民向けにテレビ演説し、医療保険、年金、徴税システムなどの改革をめぐり、10月に国民投票を実施する意向を明らかにした。
08・22	ブラジル	セラ (José Serra) 保健相が、スイスの医薬大手ロシュ社とのエイズ治療薬の政府調達価格を巡る交渉が決裂したため、同社製品をコピーした後発医薬品の製造に着手すると発表。しかし31日、ロシュ社は政府と現行価格を4割下げることと同意したと発表。
08・23	キューバ	欧州連合使節団がキューバを訪問。
08・25	コロンビア	警察当局が、ボゴタ北部にある麻薬ブローカーのアパートからコカイン100トン以上の購入資金約3500万ドルを押収した。麻薬関連資金としては最高の押収額。
08・25	中南米	中国の遲浩田国防相が、コロンビア、ベネズエラ、トリニダード・トバゴ、コートジボワール、ナイジェリアの中南米・アフリカ5ヶ国の歴訪に出発した。
08・30	ブラジル	サンパウロでテレビ局社主で人気司会者のシルビオ・サントス (Silvio Santos) 氏宅に銃を持った男が押し入り、社主を人質に立てこもった。まもなく警察に逮捕されたが、男はサントス氏の娘を誘拐、追っ手の警官2人を射殺した容疑でも取調べを受けている。
08・31	メキシコ	WTO非公式閣僚会議がメキシコで開催された。(9月1日)
09・01	カリブ地域	台湾の張俊雄行政院長が、セントビンセント・グレナディーン、グレナダなどカリブ海4ヶ国を歴訪した。(12日)
09・01	メキシコ	フォックス大統領が、就任後初めて大統領教書を発表。米国の景気停滞の影響をメキシコが受けることについて「マイナス効果は軽減出来る」とし、経済安定に自信を示した。
09・01	メキシコ	政府が多発する組織犯罪に対応するため、国際刑事警察機構(ICPO)やメキシコ連邦警察と連携した「連邦捜査庁」を設立することを決めた。
09・03	アルゼンチン	フランスの自動車大手ルノーのアルゼンチン法人が、工場の従業員を2つのグループに分け、隔週勤務体制を取ることで、実質的に人員を半減すると発表。
09・03	コロンビア	カミロ・ゴメス (Camilo Gómez) 政府代表とコロンビア革命軍(FARC)のマルランダ最高司令官が、南部サンビセンテデルカグアン近郊で和平交渉再開に向けて会談を行なった。
09・04	メキシコ	フォックス大統領が、米国公式訪問のためワシントン郊外の空軍基地に到着。翌日ブッシュ大統領との首脳会談が行なわれた。
09・04	南米	ケアンズ・グループ閣僚会議が開かれていたウルグアイで、ロバート・ゼーリック (Robert Zoellick) 米通商代表部代表が南米南部共同市場(メルコスル)4ヶ国の外相と協議、農業や投資の分野などで自由貿易交渉を開始することで一致したと発表。
09・05	ペルー	カルデロン検事総長が、1990年代初めに市民ら25人が秘密治安部隊に殺害された事件にフジモリ元大統領が関与していたとして、同氏を特別殺人罪などで最高裁に起訴した。8月27日には同罪でフジモリ氏が検察当局に告発され免責特権を剥奪されていた。
09・05	ペルー	警察当局がフジモリ元政権で首相や経済相を務めたビクトル・ホイワイ (Victor Joyway Rojas) 氏を不正蓄財疑惑で逮捕した。元首相は容疑を否認している。

09・05	メキシコ	米墨首脳会談が米国で開催された。通商関係・社会問題などについて協議が行なわれた。
09・07	メキシコ	訪米中のフォックス大統領が、米州機構(OAS)の会合で演説し、米州相互援助条約(リオ条約)から脱退する意向を明らかにした。加盟国と協議して2ヶ月以内に結論を出すと言明した。
09・09	チリ ペルー	チリ・ペルー第1回政治協議調整常設委員会会合がペルーで開催された。
09・10	中南米	米州機構特別総会がペルーで開催された。(-11日)
09・10	南米	南米主要国の株価が軒並み下落。ブラジルでは通貨レアルの対ドル相場が1ドル=2.607レアルとなり、最安値を更新した。米株式相場の低迷やアルゼンチン経済の先行き不透明が背景と見られる。
09・11	中南米	ニューヨークの世界貿易センタービルにハイジャックされた飛行機2機が突入し、ビルが崩壊、多数のチリ人を始め、数百人の中南米出身者が犠牲になった。
09・12	チリ アルゼンチン	最高裁は、ブラッツ(Carlos Prats)元将軍夫妻の暗殺に関与した罪で起訴されていたピノチエト元大統領に対するアルゼンチン司法当局からの捜査協力の要請を却下した。
09・12	メキシコ	ユカタン州で、乗客17人と乗員2人をのせたフェリニコ航空の小型機が墜落した。19人全員が絶望視されている。
09・12	中南米	米国で起きた同時テロの影響で、中南米諸国の金融市場が混乱。ブラジルの通貨レアルの対ドル相場は最安値を3日連続で更新、アルゼンチン、メキシコの株式市場は休場した。
09・13	メキシコ	メキシコ市東部にあるベニト・フアレス空港で爆弾を仕掛けたとの脅迫電話が入り、大勢の利用客が空港ビルから避難する騒ぎがあった。
09・13	メキシコ	中国が、世界貿易機関(WTO)加盟に向けて2国間で最後まで難航していたメキシコとの交渉で合意した。
09・14	ブラジル	国債通貨基金が理事会で、アルゼンチンを発信源とする金融危機の波及が懸念されるブラジルに対し、155億8000万ドルの支援融資枠を承認した。
09・18	ニカラグア	マナグアで対人地雷禁止条約(オタワ条約)締約国会議が開かれた。(-21日)
09・18	ブラジル	バルバーリョ(Jader Barbalho)上院議長が辞任。後任はテベット(Ramaz Tebet)国家統合相。
09・21	パラグアイ	警察当局が米同時多発テロ事件の関連捜査で、東南部に住むアラブ系住民17人を逮捕した。
09・24	南米	メルコスル・米国通商担当相協議が米国で開催された。
09・28	中南米	第9回米州自由貿易地域(FTAA)通商協議がニカラグアで開催された。
09・30	ブラジル	世界第4位の航空機メーカーであるエンブラテルが、全従業員の14%にあたる1800人を解雇すると発表。米同時テロの影響で航空会社への納期が先延ばしになる見通しとなったため。
10・02	キューバ	米国に密航したキューバ人少年エリアン・ゴンサレス君の送還問題にからみ、米連邦地裁が、マイアミの住民によるリノ(Janet Reno)前司法長官に対する訴えを有効とする判断を示した。

10・03	キューバ	カストロ国家評議会議長が国連のアナン (Coffi Anan) 事務総長に書簡を送り、テロに関する12の国際条約全てに調印することを明らかにした。
10・04	キューバ	米国とベルギーに住むキューバ人が、ベルギー人道法に基づき、カストロ国家評議会議長を人道に反する罪でブリュッセル裁判所に告訴した。
10・05	コロンビア	政府は、コロンビア革命軍(FARC)が幹線道路での誘拐行為を停止し、政府との停戦協議を受け入れることで合意したと発表。
10・09	アルゼンチン ブラジル	ブラジル、アルゼンチン両国の外相・経済相らがサンパウロで会合を開き、世界貿易機関(WTO)にならった緊急輸入制限(セーフガード)を導入することで合意した。アルゼンチンはブラジルからの安価な製品の流入に警戒し、対策を求めている。
10・11	カリブ地域	CARICOM首脳会議緊急会合がバハマのナッソーで行なわれた。(12日)
10・11	トリニダード・トバゴ	スウェーデン王立アカデミーが、2001年のノーベル文学賞を、トリニダード・トバゴ出身のインド系移民3世の作家ビディアダール・スーラジプラサド・ナイポール (Vidiadhar Surajprasad Naipaul) 氏に贈ると発表した。
10・11	メキシコ	セメント世界第3位のセメックス社が、タイのセメント第3位TPIポリーンの買収交渉に入ったと発表。5月に買収したサラブリ・セメントに続き2社目。
10・14	アルゼンチン	上院の全議席と下院の半数の議席を改選する中間選挙が行なわれ、野党・正義党が上下両院で第一党に躍進した。
10・16	ブラジル	ニューヨーク・タイムズ紙リオデジャネイロ支局長宛に炭疽菌と見られる粉末入りの手紙が郵送されたが、その後の保健当局の検査で炭疽菌は確認されなかった。
10・17	キューバ	ロシアで政府・軍首脳合同会議が行われ、ロシア軍をキューバのルルデス基地から撤退させることを採択した。基地撤退を一時的に公表したことについて、キューバ政府は「同意していない」と強い不快感を表明した。
10・19	アルゼンチン	エクトル・ロンバルド (Héctor Lombardo) 厚相が、米マイアミからブエノスアイレス市内に送付された封筒について、内部に入っていた物質から炭疽菌の陽性反応が出たと発表。
10・19	アルゼンチン	カフイエロ (Juan Pablo Cafiero) 社会開発相が辞意を表明。後任にはアルベルト・サルトル (Daniel Alberto Sartor) 社会開発次官が就任。
10・21	中南米	第13回ラ米・カリブ地域環境相会議がブラジルのリオデジャネイロで開催された。
10・22	ジャマイカ	パターソン首相が内閣改造を発表した。
10・22	ニカラグア	サンディニスタ民族解放戦線(FSLN)は11月の大統領選挙で政権を獲得できた際には、ラカヨ元大統領府相を採用すると発表した。ラカヨ氏はチャモロ政権の閣僚であり、対米協調の姿勢を示そうとしたものと思われる。
10・23	ブラジル	内閣改造を発表。
10・25	ブラジル	カルドーズ大統領がスペイン、フランスを訪問。(31日)
10・28	アルゼンチン	内閣改造および省庁再編成を実施。社会保障省が新設され、観光・文化・スポーツの3庁を統合した観光・文化・スポーツ省を新設。
11・01	ドミニカ共和国	フアン・ボッシュ (Juan Bosch) 元大統領が首都セント・ドミンゴの自宅で死去した。享年92歳。

11・01	パナマ	国立文化研究所が海岸で見つかった古い船の残骸を調査した結果、16世紀にコロンブスが最後の航海で率いたビスカイナ号のものであると発表した。ビスカイナ号はハリケーンのため、1503年にパナマ沖で放棄されたという記録がある。
11・05	ニカラグア	大統領選挙が実施され、保守与党・立憲自由党のエンリケ・ボラニョス・ゲイエル (Enrique Bolaños Geyer) 前副大統領が当選、左翼野党サンディニスタ民族解放戦線(FSLN)のダニエル・オルテガ (Daniel Ortega Saavedra) 元大統領を敗った。オルテガ氏は米国の干渉を非難した。
11・10	アルゼンチン	ブエノスアイレスで、サッカーのスーパースター、ディエゴ・アルマンド・マラドーナ (Diego Armando Maradona) の引退試合が行なわれた。
11・12	ドミニカ共和国	ドミニカ共和国行き、アメリカン航空587便がニューヨーク市内のクイーンズに墜落。墜落現場の被害者も合わせ、翌日までに265名の遺体が収容された。
11・15	キューバ	ヘミングウェイの小説「老人と海」のモデルになったキューバ人グレゴリオ・フエンテス (Gregorio Fuentes) 氏が、国際スポーツ釣り協会から名誉船長の称号を受けた。
11・16	キューバ	ロケ (Felipe Pérez Roque) 外相が、ニューヨークの国連本部での記者会見で「内政不干渉の原則に基づいた上で対米関係を正常化する用意がある」と言明した。
11・22	コロンビア	中部フィラデルフィアの金採掘場で2回にわたって土砂崩れが発生、28人が死亡、40人が行方不明となった。数ヶ月前から政府は安全性に問題があるとして閉鎖命令を出していたが、ひそかに採掘を行なう貧困住民が絶えなかったという。
11・23	ペルー 中南米	イベロアメリカ首脳会議がペルー・リマで開催。イベリア半島と中南米の関係強化を協議する他、アルゼンチンの経済危機、人権問題などが話し合われた。ハリケーン被害の対応に専念するため、キューバのカストロ議長が初めて欠席。テロ対策強化などを盛り込んだ共同宣言を採択し24日閉幕した。
11・24	コロンビア	政府と民族解放軍(ELN)がキューバの首都ハバナで和平合意に向けた予備交渉を行ない、中断していた和平交渉を12月12日にハバナで再開することを決定した。
11・25	ホンデュラス	大統領選挙が実施され、野党国民党のリカルド・マドゥロ・ジョエスト (Ricardo Maduro Joest) 中央銀行総裁が当選、与党・自由党のラファエル・ピネダ (Rafael Pineda Ponce) 国会議長を敗った。
11・25	中南米	2002年FIFAワールドカップの出場32チーム全てが決定。南米からはアルゼンチン、エクアドル、ブラジル、パラグアイ、ウルグアイの5ヶ国、北中米からはメキシコ、コスタリカ、アメリカが出場する。
11・28	メキシコ	米カリフォルニア大パークレー校の研究チームが、病害虫体制遺伝子組換えトウモロコシなどに含まれる特有の成文が、メキシコの野生のトウモロコシにも含まれていると発表。遺伝子組換えトウモロコシの花粉が飛散して野生種と交配する可能性が懸念されていたが、それが裏付けられる形となった。
12・01	アルゼンチン	カバロ経済相が、金融不安のために銀行預金が激減するのを防ぐため、1預金口座の引出し額を、現金は1週間に250米ドル以下、海外送金は1ヶ月で1000米ドル以下に制限すると表明した。

12・01	チリ ブラジル	チリ国営銅公社(コデルコ)とブラジルのバレ・ド・リオドセ社が銅鉱山の共同開発に関する覚書に調印したことを発表。
12・01	ペルー	内務省がリマの米大使館などの襲撃を計画していたと見られるセンデロ・ルミノソの構成員2人を逮捕したと発表した。
12・02	ブラジル	国営石油会社ペトロブラスが、2005年までの対外投資額を当初予定の53億ドルから73億ドルに増やすと発表。
12・03	ハイチ	ハイチの経済難民186人を乗せた小舟が米マイアミ沖約16キロで座礁した。一部は岸に泳ぎ着き逃げたが、大半は米沿岸警備隊に保護された。全員が強制送還される。
12・03	ブラジル	渇水による電力不足への対策として節電計画を推進してきた政府が、節電目標の緩和を発表した。家庭の電力消費量削減が目標をほぼ満たしており、発電用ダムの水位も回復に向かっているため。
12・05	アルゼンチン	国家通貨基金が財政危機に瀕したアルゼンチンへの追加融資を当面見送る方針を決定。同国経済の先行き懸念が強まった。
12・06	ブラジル	ヨットレース、アメリカズカップで前年王座防衛を果たしたチーム・ニュージーランドのピーター・ブレイク (Peter Blake) 前代表がアマゾンで海賊に襲われ、射殺された。
12・10	トリニダッド・トバゴ	議会選挙が実施され、与野党の議席数が同数になり混乱。24日には野党人民国家運動(PNM)パトリック・マニング (Patrick Augustus Mervyn Manning) 党首が首相に返り咲いた。
12・14	アルゼンチン	経済財政省で対外交渉を担当するマルクス次官が辞意を表明した。経済スタッフの辞任はこの2ヶ月で3人目。
12・14	アルゼンチン	カバロ経済財政相が、期限を迎えた短期国債7億ドルについて、年金基金が保有する定期預金などを原資に償還を完了したことを明らかにした。支払停止という最悪の事態を回避したもの。
12・16	キューバ	1962年以来経済封鎖を続ける米国から、約40年ぶりに米国産食糧を積んだ貨物船2艘が到着した。10月に巨大ハリケーン「ミシェル」に見舞われたキューバ側の要請によるもの。
12・16	チリ	議会選挙実施。
12・17	ハイチ	首都ポルトープランスで、武装集団が大統領官邸を襲撃し、計4人が死亡。警察はクーデター未遂事件と見ている。
12・19	アルゼンチン	経済危機に揺れるアルゼンチン各地で、失業中の住民らが商店を襲い略奪を行なう騒動が拡大、5人が死亡、デラルア大統領は事態收拾のため非常事態を宣言した。
12・20	アルゼンチン	ドミンゴ・カバロ経済財政相ら全閣僚が辞表を提出。その数時間後にはデラルア大統領が連邦議会に辞表を提出した。
12・22	アルゼンチン	デラルア大統領の辞任を受け、臨時大統領への就任が確実となったアドルフォ・ロドリゲス・サア (Adolfo Rodríguez Saa) サンルイス州知事が公的債務の支払いを停止する方針を固めた。翌日同氏は臨時大統領に選出、対外債務の一時支払停止を正式に発表した。
12・23	アルゼンチン	政府が公的債務の一時支払停止を宣言した。
12・23	ブラジル	バリグ・ブラジル航空が債務圧縮のため、航空機を売却しうえ賃借し直すリースバックの契約を米ボーイング社と結んだ。通貨安や米同時テロ後の乗客減で悪化したバリグへの支援策。

12・25	ハイチ エクアドル	エクアドル政府が、ハイチで17日に起きたクーデター未遂事件の首謀者とされるギ・フィリップ元ハイチ国家警察幹部を国外退去処分にした。近くハイチ側に身柄が引き渡される。
12・25	ブラジル	南東部リオデジャネイロ州で豪雨が発生、少なくとも45人が死亡、48人が行方不明となった。
12・27	アルゼンチン	ブエノスアイレス証券取引所が、外国為替取引が完全に正常化するまで、証券取引の再開を見合わせると発表。
12・27	アルゼンチン	スペインのジョゼップ・ピケ (Josep Piqué) 外相がアルゼンチン入りし、ロドリゲス暫定大統領らと緊急会談を行なった。危機の余波がスペイン経済に影響を及ぼす恐れがあると判断したため。
12・28	アルゼンチン	政府の経済政策と政権腐敗に抗議するデモが発生、一部が国会に侵入して放火する事態に発展。警官隊と市民がもみ合いになり、負傷者も出た。翌日暴動の責任を取って全閣僚が辞任した。
12・28	アルゼンチン	暫定政権が償還期限を迎えた国内の短期国債約4億5000万ペソを新たな短期国債に借り換えてもらうことで乗りきり、デフォルトを回避した。
12・29	ペルー	リマの繁華街にあるショッピングセンターで火災が発生、ビル三棟、家屋二棟が炎上、死者は300人近くに上った。
12・30	アルゼンチン	ロドリゲス・サア臨時大統領が辞任を表明。大統領代行にはエドゥアルド・カマニョ (Eduardo Camaño) 下院議長が就任する見通し。

(以上294項目)

参考文献

- (1)『朝日新聞縮刷版』『日本経済新聞縮刷版』(2001年各月号)。
- (2)日経ニュース・テレコン。
- (3)イベロアメリカ研究所新聞切抜き(2001年)。
- (4)「ラ米における主なできごと」『ラテン・アメリカ時報』2001年2月－2002年2月

Sophia-R

Sophia University Repository for Academic Resources

Title	〈資料〉 ラテンアメリカ日誌—2002年—
Author(s)	
Journal	イベロアメリカ研究, 25(1)
Issue Date	2003-09-18
Type	紀要/Departmental Bulletin Paper
Text Version	出版者/Publisher
URL	http://repository.cc.sophia.ac.jp/dspace/handle/123456789/9523
Rights	



上智大学
Sophia University

<http://www.sophia.ac.jp>

《資料》

ラテンアメリカ日誌－2002年－

月 日	国名	記事
1 . 1	アルゼンチン	国会が上下院合同会議を開催、アドルフォ・ロドリゲス・サア (Adolfo Rodríguez Saá) 臨時大統領の辞表を受理し、正義党のエドゥアルド・ドゥアルデ (Eduardo Alberto Duhalde Maldonado) 上院議員を後任大統領に選出した。
1 . 2	プエルトリコ	米プエルトリコ自治領政府が、米海軍を相手にピエケス島における演習を中止するよう求めた訴訟で、首都ワシントンの米連邦地裁が訴えを却下したことが明らかになった。自治領政府は控訴する方針。
1 . 2	ブラジル	ロンドニア州ポルトベリョの刑務所で暴動が発生、少なくとも受刑者 27人が死亡。数十人が負傷した。収容されている受刑者数が多すぎることや刑務所内の移動制限規則に抗議して約 300人が暴動を起こし、警察部隊との銃撃戦に発展したとされる。
1 . 2	ブラジル	政府は2001年の貿易収支が26億4300万ドルの黒字であると発表。当初予想の10億ドルを大きく上回った。通貨レアルの対ドル相場や農業生産が好調だったことが影響した。
1 . 3	アルゼンチン	ドゥアルデ新政権内閣が発足。経済財政相に就任したレニコフ (Jorge Remes Lenicov) 氏は通貨制度改革を推進する方針で、通貨ペソが切り下げられるとの見通しが広まっている。
1 . 3	アルゼンチン	政府は同日に期限を迎えたイタリア・リラ建て国債の利払い2800万ドル分を返済しなかったことを明らかにした。事実上の債務不履行となる。
1 . 4	アルゼンチン	発足したばかりのドゥアルデ政権は通貨ペソを切り下げて新為替制度に移行するため、通貨関連制度を再編する特別権限を2年間政府に与える「公共緊急法」の法案を国会に提出した。
1 . 4	キューバ	米軍がアフガニスタンで拘束したテロ組織アルカイダとタリバーンの兵士をキューバにあるグアンタナモ米海軍基地に収容する計画に関して、カストロ (Fidel Castro Ruz) 国家評議会議長がアーレン・スペクター (Arlen Specter) 米上院議員とハバナで会談、カストロ議長は基地の使用に反対しないことが明らかになった。
1 . 6	アルゼンチン	国会が公共緊急法案を可決。レニコフ経済財政相は可決後の記者会見で公定外国為替レートを1ドル＝1ペソから1.4ペソに切り下げることが正式発表した。また観光客には完全変動相場のレートが適用される二重相場制への移行も発表した。
1 . 6	ウルグアイ	通貨ペソの対ドル相場の切り下げ率を月間2.4%、変動幅を12%とし、共に現行の倍に拡大することを決定した。アルゼンチンが通貨切り下げを実施する見通しを受けたもの。
1 . 7	アルゼンチン	米シティグループは、前年買収したメキシコ銀行大手のパナメックスをアルゼンチンから撤退させると発表した。ただしシティバンクのアルゼンチンでの事業は継続する。

1・8	アルゼンチン	中央銀行は、為替取引の再開を予定よりも1日遅らせ10日にすることを決定したと発表。二重為替相場制実施のための準備が遅れているため。実際にはさらに延期され11日午前10時に為替取引が再開された。
1・8	アルゼンチン	南部チュブト州のカブラロ (Héctor Capraro) 財務局長は、民間銀行から借りた2億8000万ドルの債務の支払いを停止すると宣言した。前年末のトゥクマン州に続き、債務支払いを停止したのは2州目。
1・8	ブラジル	中央銀行が2001年の外国直接投資額(暫定値)が約230億ドルに達したと発表。
1・9	アルゼンチン	ドゥアルデ大統領が、通貨切り下げ決定に伴う業者の売り惜しみなどから医薬品の供給に深刻な影響が出ていることを受け、医療に関する非常事態を全土に宣言した。大統領は同日カファイエロ (Juan Pablo Cafiero) 副首相を保健・社会開発担当相に急遽任命した。
1・9	コロンビア	パストラーナ (Andrés Pastrana Arango) 大統領がテレビ演説で、左翼ゲリラコロンビア革命軍(FARC)に停戦や誘拐中止を求め、和平交渉の打ち切りを辞さない考えを表明した。FARC側は政府の要求を拒否する姿勢をみせている。
1・9	チリ	ラゴス (Ricardo Lagos) 大統領が内閣を一部改造、社会党の女性閣僚ミシェル・バシェレ (Michelle Bachelet) 前厚相を国防相に任命した。チリで初の女性国防相で、彼女の父はピノチェト (Augusto Pinochet Ugarte) 軍政下で獄死した人物。
1・9	メキシコ	中央銀行が、2001年のインフレ率が4.4%になり、1968年の統計開始以来最も低い水準になったことを明らかにした。
1・9	中南米	ブラジルの民間調査会社、ブラジル世論統計研究所(IBOPE)が、ブラジル、アルゼンチン、メキシコの3ヶ国で2002年にインターネット利用者が倍増して4000万人強になるという見通しを発表した。
1・10	メキシコ	メキシコ・米国外相会談がワシントンで開催され、移民、水源などの2国間問題及びラテンアメリカ情勢について協議が行なわれた。
1・11	キューバ	米軍が対アフガニスタン作戦で拘束したタリバーンとテロ組織アルカイダの構成メンバー20人をキューバのグアンタナモ海軍基地に移送した。今後の尋問強化のための移送作戦の第1弾となる。
1・13	アルゼンチン	ブエノスアイレスから西方に伸びる約55キロの高速道路運営に20%の権益を持っているマレーシアの建設会社IJMコーポレーションが、通貨ペソの切り下げで約2700万リンギ(約9億5000万円)の為替差損が発生する見通しになったと発表。
1・13	キューバ	ノーベル賞作家ヘミングウェイ (Ernest Hemingway) の傑作「老人と海」のモデルになったキューバ人グレゴリオ・フエンテス (Gregorio Fuentes) さんが、ハバナの東15キロの村コヒマルの自宅で死去した。享年104歳。
1・13	コロンビア	左翼ゲリラ組織コロンビア革命軍(FARC)が、停戦と誘拐中止を拒否、和平交渉から離脱すると発表。しかし翌14日一転して停戦交渉再開に合意、4月7日に停戦協定を締結するための交渉日程で合意した。
1・15	アルゼンチン	ドゥアルデ大統領は大統領府で初めて外国報道機関と記者会見を行ない、国際通貨基金(IMF)に対してあらためて支援を要請するとともに、二重相場制を5ヶ月以内に終わらせ、変動制1本にする意向を述べた。

1・15	アルゼンチン	中部サンタフェ州で約7000人が政府の経済政策に抗議して市街デモを行い、銀行に卵を投げつけた一部の市民に対して警官隊が催涙弾やゴム弾を発砲するなど混乱した。現金自動預け払い機(ATM)が略奪されるという被害もあった。
1・15	アルゼンチン	手持ちのペソでドルを買う場合の相場が1ドル=約1.9ペソとなったため、中央銀行がドル現金50万ドルを市中の両替所や銀行に供給、ペソ安を食い止めるため初めて市場に介入した。
1・16	アルゼンチン	国際通貨基金(IMF)の理事会で、債務不履行に陥ったアルゼンチン向け融資のうち、17日に期限を迎える9億3300万ドルの返済を1年間猶予することに決めた。危機後のアルゼンチンに対するIMFの具体的な支援はこれが初めて。
1・16	中米	ブッシュ米大統領は、今後米国と中米諸国は自由貿易協定の交渉を進めていくとの見通しを表明した。
1・17	アルゼンチン	マカロネ (Roque Macarone) 中央銀行総裁が辞任。
1・17	ペルー	トレド (Alejandro Toledo) 大統領が内閣改造を実施した。
1・17	メキシコ	パチカンのローマ法王庁は、ローマ法王ヨハネ・パウロ二世 (Juan Pablo II) が7月下旬にメキシコを訪問することを明らかにした。
1・21	ブラジル	南部の大都市を中心に大規模な停電が発生した。
1・22	アルゼンチン	中央銀行は、銀行のドル預金について、1ドル=1.4ペソの公定レートで、最高5000ドルのペソでの引き出しを許可すると発表した。同じレートで今後1ヶ月に500ドルの引出しも認めた。
1・23	アルゼンチン	ドゥアルデ政権は、月あたり3000ペソとしていた公務員給与の上限規定
1・24	ペルー	を撤廃した。同規定は前年末、ロドリゲス・サア前暫定政権が歳出削減を目指して導入していたもの。財政再建に影響が出るのが懸念されて ペルー最高裁は、フジモリ (Alberto Kenya Fujimori Fujimori) 元大統領が2000年9月に国防費の一部である1500万ドルを横領し、モンテシノス (Vladimiro Montesinos) 元国家情報局顧問に手渡ししたとして、国際刑事警察機構に逮捕を求める文書を送付した。
1・25	アルゼンチン	各地の主要都市で、政府の預金引き出し規制などに反対する抗議デモが一斉に行なわれた。ドゥアルデ政権発足後最大のデモで、首都ブエノスアイレスでは一部が官邸に向け投石を始めたため、警官が催涙ガスなどで対応、65人が拘束され、警官を含む21人が負傷した。
1・25	キューバ	米軍当局が、キューバのグアンタナモ米海軍基地に収容しているテロ組織アルカイダやタリバーン兵に対する尋問を開始した。また同日アルカイダ兵らのキューバへの移送を一時停止した。
1・25	コロンビア	ボゴタ南部で、警察署前の食堂近くにあった自転車が爆発、昼食中の警官4人と少女1人が死亡した。コロンビア革命軍(FARC)のしわざとみて捜査が進められてた。
1・26	ホンデュラス キューバ	両国が41年ぶりに国交回復。中南米諸国でキューバと外交関係がない国はエルサルバドルのみとなった。
1・27	アルゼンチン	国際決済銀行(BIS)は、日米欧23ヶ国と香港の金融機関による対アルゼンチン投融資残高が前年9月時点で817億ドルと、6月末に比べて5.4%の大幅減少をしていることを報告した。先進国の民間銀行などがアルゼンチンへの投融資を控えたのが主因。

1・27	キューバ	ロシア軍が前年閉鎖を決めたキューバ・ルルデス基地の電子情報収集施設の解体作業を完了したと発表。
1・28	エクアドル	首都キトから北部トウルカンへ向かうタメ航空のボーイング727型旅客機がトウルカンに近いコロンビアとの国境地帯で墜落した。乗客は92人は全員死亡した。
1・29	アルゼンチン	ブエノスアイレス州のソラ (Felipe Solá) 知事が、ユーロ建て州債の利払い2500万ドルを31日の期限に返済できないことを明らかにした。これにより公的債務の支払停止や停止宣言に追い込まれた州は7州目となる。
1・30	アルゼンチン	ルカウフ (Carlos Ruckauf) 外相がイタリアを訪問、ローマでベルルスコーニ (Silvio Berlusconi) 首相兼外相と会談した。ベルルスコーニ首相はアルゼンチンへの全面的な支援を約束するとともに、先進7ヶ国や国際機関内でも支援策を後押しするとの意向を示した。
1・30	南米	アンデス共同体首脳会議がボリビアで開催された。2004年1月から域外共通関税を導入することなどで同意した。
1・31	アルゼンチン	経済財務省が2001年の貿易収支が63億4300万ドル、前年比444%増の黒字となったことを発表。
1・31	ブラジル	ニューヨークで行なわれている「世界経済フォーラム」に対抗する「世界社会フォーラム」が南部ポルトアレグレで開催された。世界各国からNGOや労働組合で活動する約4万人が集まった。経済のグローバル化に伴う問題点を中心に意見を交換する。
1・31	ブラジル	中央銀行は2001年の財政赤字が428億レアル、国内総生産(GDP)の3.5%になったと発表した。前年の3.6%から少しだけ改善したことになる。
2・1	アルゼンチン	最高裁は、アルゼンチン政府による銀行の預金封鎖について、私有財産の不当な侵害にあたるとして、憲法に違反しているとの判決を下した。政府は4、5日の銀行を休業にして対策を講じる方針。
2・1	メキシコ	ベテラン新聞記者フリオ・モラレス (Julio Samuel Morales Ferrón) 氏がメキシコ市の事務所内で拷問された上、首を刺されて殺された。警察は同氏の報道などに恨みを持つ者の犯行と見ている。
2・2	アルゼンチン	オランダのウィレム・アレキサンダー (Willem Alexander) 皇太子とアルゼンチン出身のマキシマ・ゾレグエータ (Máxima Zorreguieta) さんの結婚式がアムステルダムで行なわれた。
2・3	アルゼンチン	レニコフ経済財務相がドル建ての銀行預金や金銭質貸契約をペソ化することを柱とした経済プランを発表した。
2・3	コスタリカ	大統領選が行なわれた。与党キリスト教社会連合党のアベル・パチェコ (Abel Pacheco de la Espriella) 氏が1位となったが、有効投票の40%に達せず、2位のロランド・アラヤ (Rolando Araya Monge) 氏との間で4月7日に決選投票が行われることとなった。
2・3	コロンビア	首都ボゴタの西約40キロの峡谷で女性上院議員マルタ・ダニエルス (Marta Catalina Daniels) 氏の他死体が発見された。同上院議員はコロンビア革命軍 (FARC) に誘拐された人質の解放交渉を進めようとしており、犯行はFARCによるものとみられる。
2・4	アルゼンチン	政府は、銀行預金の封鎖解除を求める訴訟を今後180日間にわたって禁止する政令を発表した。最高裁が預金封鎖を違憲とし、引き出しに応じるよう銀行に判決で命じたため、訴訟が多発することを回避する措置。

2・5	アルゼンチン	政府は全面変動相場制の実施や預金封鎖の一部解除に必要な準備が整っていないため、6、7両日を銀行と為替取引所の休業日にすると発表した。
2・5	アルゼンチン	政府は歳出総額を前年度比15%減の約428億ペソとする2002年度予算案を国会に提出した。財政赤字は前年度比7割減の約30億ペソに削減するとし、国際通貨基金からの金融支援をにらんだ緊縮型予算となった。
2・5	アルゼンチン	ドゥアルデ大統領がラジオ番組で、次期大統領選挙は翌年9月14日に行なわれると言明した。
2・5	カリブ地域	バリーズのバリーズ市で3日間にわたって行なわれた中米・カリブ首脳会議が終了。テロに反対する声明を出すとともに「中米・カリブ自由貿易地域」を2004年までに設立することで合意した。
2・5	ブラジル	南部ポルトアレグレで、途上国問題に取り組む非政府組織などによる世界社会フォーラム(WSF)が開催された。米ニューヨークで開催されていた世界経済フォーラムの年次総会の日程に合わせて開催されたもので、貧困問題などについて活発な討議が行なわれた。
2・5	ペルー	米海洋大気局(NOAA)は、ペルー沖の太平洋の表面に近い海水温の上昇が今後数週間続くと見込みであり、上昇現象が続くと3ヶ月後にはエルニーニョ現象が発生すると可能性が大きいと発表。
2・6	ベネズエラ	英米系大手格付け会社フィッチレーティングスは、ベネズエラ政府が発行・保証する債権の長期格付けを「投機的」とされる「ダブルBマイナス」から「非常に投機的」とされる「Bプラス」へ1段階格下げした。
2・7	アルゼンチン	国会下院弾劾委員会が最高裁の判事9人に対し、職務悪用、義務不履行容疑で捜査を開始した。最高裁が武器密輸容疑で起訴されたメネム元大統領を前年11月に無罪放免した判決などに関し、判事の責任を問う方針。
2・7	ベネズエラ	深刻な政情不安を背景にペドロ・ソト (Pedro Soto) 空軍大佐が、国軍幹部として初めてチャベス (Hugo Chávez Frías) 大統領に辞任要求を突きつけた。軍部にも離反の動きが出ていることを表すものとして注目される。
2・8	アルゼンチン	ドゥアルデ大統領がテレビ演説で、連邦や州政府の議員定数の削減や選挙運動期間の短縮などを柱とした政治改革を行なうことを明らかにした。
2・8	ブラジル	リオのカーニバル開幕。パレードは10日から12日まで。
2・8	ブラジル	ブラジル鉄鋼第2位のゲルダウが、同7位のアソミナスへの出資比率を65%に引き上げることで、アソミナスの筆頭株主であるシンガポールのナットスティールと合意した。実現すればゲルダウは売上高で国内首位になる。
2・11	アルゼンチン	二重為替相場制から変動相場制へ一本化され、為替取引が再開された。1ドル=2.3から2.4ペソで取引が行なわれた。中央銀行は下げ幅を見ながら、市場に介入してペソ暴落を防ぐ方針。
2・12	ベネズエラ	チャベス大統領は現行のバンド制を廃止し、完全変動相場制に移行することを発表、翌13日から実施した。
2・13	アルゼンチン	国際通貨基金(IMF)のケーラー (Horst Koehler) 専務理事が、アルゼンチンのレニコフ経済財政相と会談、「持続可能な成長を促す首尾一貫した経済政策の実行が必要との考えで一致した」との声明を発表した。

2・13	ウルグアイ	中央銀行はバンコ・デ・ガリシアに対し、90日間の業務停止を命じた。
2・13	ベネズエラ	通貨ボリバルの外国為替市場が、一定の変動幅に限定していた制度を廃止し、完全な変動相場制に移行した。ボリバルの対米レートは8日と比べて19%下落した。
2・15	アルゼンチン	ブレヘル (Mario Israel Blejer) 中央銀行総裁が、金融システムを守るために続けている銀行預金の引き出し制限を週明けにも一部緩和することを明らかにした。
2・15	メキシコ	財務省は、2001年の実質国内総生産(GDP)伸び率が前年比マイナス0.3%となったことを発表。政府見通しだったマイナス0.2%を下回った。メキシコ経済がマイナス成長に陥ったのは1995年以来。
2・16	メキシコ	工業都市モンテレイで3月18日から国連の開発資金国際会議を開催することが発表された。開発途上国の貧困解消のための資金をどのように手当てしていくかが話し合われる。
2・17	アルゼンチン	ブエノスアイレス州アベジャネーダ市のサッカー競技場近くで、インディエンテとラシングの試合前に両チームのファン同士が乱闘となり、1人が銃で撃たれ死亡、12人が負傷した。
2・18	ベネズエラ	カルロス・モリーナ (Carlos Molina Tamayo) 海軍少将がチャベス大統領の辞任を要求する声明を発表。2月7日の空軍大佐の辞任要求に引き続き、国軍内部での大統領に対する造反が表面化している。
2・18	ペルー	左翼ゲリラ組織トゥパク・アマル革命運動(MRTA)による国会占拠計画に協力したとして95年に逮捕、服役中の米国人女性ロリ・ベレンソン (Lori Berenson) 被告の再審公判で、最高裁は前年6月に出された禁固20年の一審判決を支持する判断を下した。
2・19	キューバ	米軍がアフガニスタンからキューバのグアンタナモ米海軍基地に移送したタリバーンやアルカイダの兵士のうち、英国人2人とオーストラリア人1人の家族が、拘束を続ける法的根拠がないとして、米司法省を相手取り、3人の釈放を求める訴訟を起こした。
2・19	キューバ	映画監督のオリバー・ストーン (Oliver Stone) 氏が、キューバを舞台としたドキュメンタリー映画制作の契約交渉のためハバナを訪問、米国から友好訪問中の市民150人と共に社会労働者学校でカストロ議長の教育計画に関する演説を聞いた。
2・20	コロンビア	南部ウイラ州ネイバ発ボゴタ行きのアイリス航空機が離陸直後にコロンビア革命軍(FARC)メンバーと見られる男女4人に乗っ取られ緊急着陸、同乗していたホルヘ・ヘチェン (Jorge Eduardo Gechen) 上院和平委員会委員長を拉致し逃走した。
2・20	ブラジル	カルドーゾ (Fernando Enrique Cardoso) 大統領は、電力危機を受け前年から続けてきた節電計画を2月いっぱいまで終了することを明らかにした。
2・21	コロンビア	国軍が左翼ゲリラコロンビア革命軍(FARC)の支配を容認してきた南部の緊張緩和地域に空爆を開始した。国軍地上部隊も同地域へ進攻する予定。
2・22	アルゼンチン	民間最大手銀行のガリシア銀行は、中央銀行に債務の免除などを含む救済策を打診した。同行のウルグアイ現地法人が13日に中央銀行から90日間の営業停止を命じられている。

2・23	コロンビア	政界の麻薬汚染などを告発した著書でも知られ、次期コロンビア大統領選に出馬表明しているイングリッド・ベタンクール (Ingrid Betancur) 前上院議員が、南部の旧緊張緩和地域サンピセンテデルカグアン市でコロンビア革命軍(FARC)に誘拐された。
2・25	アルゼンチン	ドゥアルデ大統領が、通貨切り下げなどにより業績を伸ばした企業を対象に新税の導入を検討していることを明らかにした。貧困層救済の財源に充てる予定だが、産業界からの反発が予想される。
2・26	中南米	米コーヒー・チェーンの大手、スターバックスが中南米地域に進出する方針を明らかにした。メキシコのファーストフード・チェーン、アルセア社の子会社と合弁会社設立で合意しており、年末までにメキシコに出店する予定。
2・27	キューバ メキシコ	ハバナのメキシコ大使館で、亡命希望者とみられるキューバ人男性21人が路線バスを奪って大使館の門を突破し館内に乱入、居座り続けた。3月1日大使館の要請を受けたキューバ治安部隊が館内に突入し強制退去させた。
2・28	キューバ	グアンタナモ米海軍基地に収容されているアルカイダとタリバーン兵士200人が米軍当局の待遇に抗議して、ハンガーストライキに入った。祈りの最中にターバンを脱ぐよう注意されたことが直接の原因。
3・2	メキシコ	制度革命党(PRI)が、党員以外も参加した初の国民投票による党首選を実施、ロベルト・マドラソ (Roberto Madrazo Pintado) 前タバスコ州知事が勝利した。しかし落選候補から不正投票だとの非難などもあり、党は分裂の危機に直面することとなった。
3・2	メキシコ	中央銀行が、メキシコの海外直接投資受け入れ額が2001年に247億3000万ドルに達したと発表した。過去最高の受け入れ額で、ブラジルを抜き、中南米諸国で最大の投資受入国となった。
3・6	アルゼンチン	政府の2002年度予算が上院で可決され成立した。
3・7	ブラジル	連立与党の中核を占める保守系の自由戦線党(PFL)が、カルドーゾ政権から離脱すると発表した。PFLから次期大統領選に出馬予定のサルネイ (Roseana Sarney) マラニョン州知事の一族を巻き込んだ汚職事件の捜査がきっかけ。
3・7	メキシコ	スペインの通信大手テレフォニカが、メキシコの中堅携帯電話会社、ペガソの発行済み株式の65%を買い取ることで同社と合意したと発表。
3・9	コロンビア	警察当局が、国軍が軍事攻撃を続けているコロンビア革命軍(FARC)の幹部14人について、人道に対する罪などで国際刑事警察機構(インターポール)に国際手配されたと発表した。
3・10	コロンビア	任期満了に伴う国会の上下両院選の投票が行なわれ、二大政党(自由党・保守党)に属さない独立系候補の躍進が目立った。
3・11	ブラジル	米州開発銀行の年次総会がフォルタレーザで開催された。(-13日)
3・12	中南米	国際通貨基金(IMF)は2002年のラテンアメリカ・カリブ海諸国のGDP成長率を0.5%、2003年が3.8%、2004年が3.8%との見通しを発表した。
3・14	グアテマラ	米ニューハンプシャー大学の考古学者グループが、マヤ文明のものとしては最古のものとなる、西暦100年頃の壁画を発見した。
3・16	コロンビア	国軍が左翼ゲリラ組織コロンビア革命軍(FARC)の部隊に大規模な攻勢をかけ、少なくともゲリラ28人が死亡したと発表。和平交渉決裂以来国軍による最大規模の攻撃となった。

3・18	ペルー	有力世論調査機関アポヨが、フジモリ元大統領がペルーの政界に復帰する可能性について、36%が肯定し、57%が否定したという調査結果を発表。
3・20	キューバ	米国防情報局のキューバ担当の女性分析官、アナ・ベレン・モンテス (Ana Belén Montes) 被告が16年間にわたって自ら知り得た極秘情報をキューバ政府に流していたとされる事件の裁判がワシントンの連邦裁判所で開始された。
3・20	ペルー	首都リマ市内にある米大使館に近い路上で車に仕掛けられた爆弾が爆発、9人が死亡、30人が負傷した。23日からのブッシュ米大統領のリマ訪問に抗議するテロとみられ、4月1日には左翼ゲリラ組織センデロ・ルミノソの残党による犯行と報道された。
3・20	ペルー	クスコ州南東部の山岳地帯で、インカ帝国の末裔が最後までスペイン人に抵抗して立てこもった16世紀頃の要塞都市とみられる、6キロ四方に及ぶ大規模な遺跡が発見されたと発表。
3・21	アルゼンチン	経済財務省は2001年実質国内総生産(GDP)の伸び率が前年比マイナス4.5%だったと発表した。マイナス成長は1999年以來3年連続。
3・21	キューバ メキシコ	キューバのカストロ国家評議会議長が、18日からメキシコ・モンテレイで開催されている国連の開発資金国際会議で演説した。議長はその後、同席することを嫌ったブッシュ (George W. Bush) 米大統領が主催国メキシコに圧力をかけたことを知り急遽帰国した。
3・22	メキシコ	ブッシュ米大統領とフォックス (Vicente Fox Quesada) 大統領がモンテレイで会談を行ない、国境警備の強化・検問の効率化などで合意した。
3・24	アルゼンチン	ドイツのゲオルグス・ケーラー (Georges Kohler) 氏との共同研究「モノクローナル抗体生産原理の発見」でノーベル医学生理学賞を84年に受賞したアルゼンチンの研究者、セザール・ミルシュタイン (César Milstein) 氏が英ケンブリッジで死去。享年74歳。
3・24	中南米	ブッシュ米大統領が中南米歴訪を終了した。メキシコ、ペルーを訪問し反テロ・麻薬の姿勢を強調、エルサルバドルでは中米7ヶ国の首脳と会談、米州自由貿易地域(FTAA)の創設に意欲を見せた。
3・27	ブラジル	サッカーの王様、ペレ (Pelé) 氏が1970年のワールドカップ決勝で着用した背番号10のユニフォームがロンドンのクリスティーズで競売にかけられ、約3000万円で落札された。サッカー選手のユニフォームとしては過去最高額。
3・29	ブラジル	地理統計院は2001年の実質国内総生産(GDP)が前年比1.51%増だったと発表した。世界経済の低迷から小幅にとどまった。
4・2	アルゼンチン	南大西洋の英領フォークランド(マルビナス)諸島をめぐるフォークランド紛争開戦から20年が経過。ウスアイアのマルビナス諸島記念公園で全国記念式典が開かれ、ドウアルデ大統領も駆けつけた。
4・2	アルゼンチン	通信大手テレコム・アルヘンティーナは債務の支払いを停止すると発表した。通貨ペソの切り下げでドル建て債務が拡大した一方、ドル建てでの徴収だった料金がペソに切り替わったのが財務状況悪化の原因。
4・3	アルゼンチン	司法当局は武器不正輸出容疑でドミンゴ・カバロ (Domingo Cavallo) 元経済財政相を逮捕した。司法当局は10日に同氏を起訴したが、6月8日、悪質な犯罪事実はなかったとして保釈された。

4・4	ニカラグア	検察当局は、国営テレビにからみ130万ドル(約1億7000万円)を着服したとして、1月まで大統領職にあったアルノルド・アレマン (José Arnaldo Alemán Lacayo) 国会議長を公金流用の疑いで告発した。
4・6	コスタリカ	同国史上初の大統領の決選投票が行なわれ、与党キリスト教社会連合党(PUSC)のアベル・パチェコ氏が勝利した。
4・6	ブラジル	日系ハリウッド女優として1950年代から活躍した女優ノブ・マッカーシー (Nobu McCarthy) さんが、ブラジルのロンドリーナで、日本人移民の歴史を扱った映画「ガイジン2」の撮影中に倒れ死去した。享年67歳。
4・7	コロンビア	ボゴタの南東約70キロの都市ビジャビセンシオで、車が繁華街の路上で爆発、近くにいた少なくとも10人が死亡、25人が負傷した。コロンビア革命軍(FARC)のしわざと考えられる。
4・7	ベネズエラ	チャベス大統領が、国営ベネズエラ石油(PDVSA)の幹部7人の更迭を発表した。PDVSAでは大統領による幹部の情実人事をめぐり抗議行動が激化していた。
4・8	メキシコ	「悪の決算」「フレンチ・カンカン」などのヒット作に主演、有名人との結婚でも知られた大女優マリア・フェリックス (María Félix) さんがメキシコ市内の自宅で死去。享年88歳。
4・9	コロンビア	ボゴタ市内や近郊で4つの連続爆弾テロ事件が発生、2人が死亡、3人が負傷した。警察当局の発表ではボゴタ近郊でトラック後部に人の遺体が縛り付けられたトラックを発見、車体から遺体を離す際に爆発が起き、警官2人が死亡した。
4・9	ベネズエラ	チャベス政権の国営ベネズエラ石油(PDVSA)への統制強化などに抗議し、労働組合の連合組織が24時間のゼネストに突入した。その後労働者総同盟はゼネストを無期限化した。11日には群衆と警官隊が衝突、10人前後が死亡した。
4・12	ベネズエラ	チャベス大統領が退陣要求に追い詰められる形で辞任、経済団体フェデカマラスのペドロ・カルモナ (Pedro Carmona Estanga) 会長が暫定政権を率いと発表された。しかし14日にチャベス大統領が政権に復帰、クーデターはわずか30時間で失敗した。
4・14	コロンビア	北部バランキージャでバスに仕掛けられた爆弾が爆発、少なくとも市民4人が死亡、警察官など約20人が負傷した。近くではアルバロ・ウリベ (Álvaro Uribe Vélez) 元上院議長が選挙キャンペーンを行なっていたが無事だった。
4・15	ベネズエラ	チャベス大統領が大統領府で会見、反乱に関わった軍幹部を排除する方針を示した。また同日検察庁報道官は反乱首謀者のバスケス (Efraín Vázquez) 氏など5人を国家秩序を乱した罪で起訴する方針であることを発表した。
4・16	グアテマラ	ラミロ・デレオン (Ramiro De León Carpio) 元大統領が滞在先の米フロリダ州マイアミで急死。享年60歳。93年から96年まで大統領職にあった。
4・17	アルゼンチン	小麦、大豆といった穀物の輸出がほぼ停止したことが報道で明らかになった。政府が輸出税の大幅引き上げを定めたことから、輸出業者が出荷を見送っているもの。

4・17	ペルー	地元考古学者らが首都リマ郊外にあるブルチュコ遺跡で約500年前のインカ帝国時代のミイラ2000体以上を発見したと発表。比較的短い期間に埋葬されたミイラがこれだけまとまって見つかったのは初めて。ペルーで発見されたものとしては過去最大。
4・17	メキシコ	世界貿易機関(WTO)は、メキシコの電気通信市場の閉鎖性が協定違反かどうかを審理する紛争処理小委員会(パネル)の設置を決めた。米国がメキシコ最大の通信事業者テルメックスの独占的地位や回線接続料の高さを不当として提訴していた。
4・18	エクアドル	アーミテージ (Richard Lee Armitage) 米務副長官が公聴会で、アルカイダとヒズボラがエクアドルで活動しており、掃討に向けた支援が必要になると証言した。しかし19日、米政府がそれを誤りと認めたことがエクアドル側から発表された。
4・18	コロンビア	ブッシュ米大統領とパストラーナ大統領がホワイトハウスで会見、麻薬撲滅に目的を限定されているコロンビアへの軍事援助の規制を緩和し、左翼ゲリラ組織コロンビア革命軍(FARC)に対する掃討作戦を後押しする方針を説明した。
4・19	アルゼンチン	中央銀行は週明けの22日以降、当分の間すべての銀行業務を停止すると発表した。預金引き出しの殺到に対応するもので、国会が預金流出に対する法的措置を週明けに決めるまで停止措置は続ける。
4・19	ベネズエラ	シルバ (Álvaro Silva Calderón) エネルギー鉱業相は、同国出身のアリ・ロドリゲス (Ali Rodríguez) 石油輸出国機構(OPEC)事務局長が、ベネズエラ国営石油総裁就任を受諾したことを明らかにした。
4・21	コロンビア	中部アンティオキア県で6人が誘拐された。22日夜までに数人は解放されたが、ガビリア (Guillermo Gaviria) 知事とエcheverria (Gilberto Echeverría) 元国防相らが捕らえられたままとなった。コロンビア革命軍(FARC)の犯行とみられる。
4・21	ブラジル	サッカーの元ブラジル代表のロマリオ (Romario) がこの日の試合で2得点をあげ、生涯得点を833点とし、831点のジーコ (Arthur Antunes Coimbra "Zico") を抜いて同国単独2位となった。第1位はペレの1281点。
4・22	アルゼンチン	預金流出に歯止めをかけるため中央銀行は全銀行と両替所がすべての営業を停止。銀行は29日に営業を再開、大きな混乱はなかった。
4・23	アルゼンチン	銀行預金の取りつけ騒ぎに対応するための法案審議が国会で行き詰まっている責任をとってレニコフ経済相が辞任した。ドゥアルデ大統領は25日に後任としてロベルト・ラバニャ (Roberto Lavagna) 欧州連合大使を任命した。
4・23	ウルグアイ キューバ	バジエ (Jorge Batlle Ibáñez) 大統領がキューバと外交関係を断ったことを発表。ウルグアイは国連人権委員会でキューバの人権侵害を非難する先頭に立つなど、キューバ批判を強めていた。
4・24	アルゼンチン	アニバル・フェルナンデス (Aníbal Fernández) 大統領府長官が為替制度を現行の変動相場制から固定相場制に戻す方針を発表。しかし27日に就任したラバニャ経済財政相は、28日に固定相場制復帰を見送り、変動相場制を維持する方針を明らかにした。
4・24	アルゼンチン	ドゥアルデ大統領と16州知事の間で、国際通貨基金(IMF)との関係重視など14項目にわたる合意が結ばれた。

4・25	アルゼンチン	国会の上下両院で、金融機関からの預金引き出しを制限する法案が次々と可決された。
4・25	アルゼンチン	政府が提出した銀行預金の流出を防ぐ法案が上下両院を通過し成立した。
4・25	ウルグアイ	ウルグアイとサウジアラビア両国政府は、経済協力、通商、投資、科学、技術、文化などに関する2国間協定に署名した。
4・25	ホンデュラス	北米の人気R&BグループTLCのメンバー、リサ・ロペス (Lisa Lopes) さんが交通事故のため、休暇先のホンデュラスで死去。享年31歳。
4・25	メキシコ	メキシコ市で多発している、タクシーの運転手が利用客を拉致して銀行に連れて行き、引き出した現金を奪う、通称「特急誘拐」に対し、メキシコ市司法委員会は最高40年の禁固刑を盛り込んだ条例案を提出した。
4・26	コロンビア	パナマ国境に近いところにあるバナナ農園が襲撃され、9人の労働者が殺害された。地元の当局者はコロンビア革命軍の犯行とみている。
4・26	チリ	欧州連合の欧州委員会は、チリとの自由貿易協定(FTA)を結ぶことで基本的合意に達した。
4・26	ベネズエラ	FTAA貿易副大臣会議がベネズエラで開催された。
4・30	アルゼンチン	政府は同日付けの官報で対外分を含む公的債務の支払いを12月31日まで延期すると発表した。延期期間が明らかにされたのは公的債務の支払いが中断してから初めて。
5・1	キューバ	カストロ国家評議会議長が首都ハバナ市内の革命広場で行なわれたメーデーの演説で、国連人権委員会で中南米諸国が主導してキューバに人権監視団を派遣する提案を採択したことを激しく非難した。
5・2	コロンビア	北西部チョコ県のボハジャ村で、コロンビア革命軍(FARC)と対抗する右翼民兵組織コロンビア自警軍連合(AUC)との間で戦闘が発生、108人が死亡、うち15歳以下の子供が39人にのぼった。
5・2	バハマ	総選挙が実施された。
5・5	アルゼンチン	ドゥアルデ大統領はアタナソフ (Alfredo Atanasov) 労相を首相に起用するなどの内閣改造を行なった。
5・5	キューバ	代表的な反体制活動家ブラデイミロ・ロカ (Vladimiro Roca) 氏が、中部シエンフエゴスのアリサ刑務所から釈放された。カーター (Jimmy Carter) 元米大統領の訪問に合わせて人権状況の改善をアピールしたと思われる。
5・5	ボリビア	71年から78年に保守的な軍事独裁政権を樹立、97年にも大統領に復帰したウーゴ・バンセル (Hugo Banzer Suárez) 前大統領が東部サンタクルス市の自宅で死去した。享年75歳。
5・7	アルゼンチン	北西部のコルドバでスペイン系の銀行の駐車場に仕掛けられていた手製爆弾が爆発、けが人はなかった。
5・8	アルゼンチン	ドゥアルデ大統領は、5月半ばに猶予期限を迎える世界銀行への債務返済のため、近隣諸国につなぎ融資を要請したことを明らかにした。チリ政府は融資に前向きな姿勢を示している。
5・10	キューバ	反体制派の市民が1万人を超す署名簿を国会に提出、市民権拡大の是非をめぐる国民投票を行なうよう求めた。

5・10	キューバ	カストロ国家評議会議長は、米国務次官の「キューバは少なくとも生物兵器の一定の攻撃に発関する研究と開発をしている」という発言を受けて、「我が国ではだれ一人、核兵器や科学兵器、生物兵器の開発計画を立てようとしたことはない」と全面否定した。
5・12	キューバ	ジミー・カーター元米大統領がカストロ国家評議会議長の招きでキューバを訪問。革命政権下のキューバを訪れた初の米大統領となった。生物兵器開発に関する米国務次官の発言について「その証拠はないと米政府から聞いた」と暴露した。(-17日)
5・13	アルゼンチン	経済財務省が、世界銀行に対する6億8000万ドルの債務を外貨準備高の取り崩しで返済したと発表した。同時に米州開発銀行(IDB)やイタリア政府からは新たな支援融資を獲得したことを明らかにした。
5・13	メキシコ	ジュネーブで行なわれていた世界貿易機関(WTO)の一般理事会は2003年の第5回閣僚会議を、9月10日から14日までメキシコのカンクンで開催することを決定した。
5・14	キューバ	カーター元大統領のキューバ訪問を受け、ブッシュ米大統領がカストロ議長を「独裁者」と呼び、対キューバ政策に変更がないことを強調した。翌15日には対キューバ制裁を強化するとの報道も出たが、「制裁堅持」にとどまった。
5・14	ブラジル	政府は、暫定金融取引拠出金(CPMF)の延長手続き遅延に伴う歳入不足等を補うため、投資予算の53億レアル削減および金融取引税(IOF)の税率引き上げにより11億レアルの税収を確保すると発表した。
5・14	ペルー	検察当局は、96年のリマ日本大使公邸占拠事件に絡み、公邸に武力突入した特殊部隊の指揮官ら12人の身柄拘束請求を行ない、裁判所が認めたため1人の身柄を拘束した。ただしこれは予防拘束で容疑が固まる前に身柄を拘束して取り調べるもの。
5・15	アルゼンチン	議会で破産法の再改正法案が可決された。
5・16	コロンビア	北部アンティオキア県で、コロンビア革命軍(FARC)と右翼民兵組織の衝突が続く。この日までに78人の死者が確認された。
5・17	ブラジル	鉄鋼製品に対する米国の緊急輸入制限(セーフガード)発動をめぐり、アマラル(Sergio Amaral)開発相が世界貿易機関(WTO)の紛争処理手続きに基づき提訴する方針を明らかにした。
5・17	中南米	第2回EU・中南米諸国首脳会議がスペインで開催された。
5・17	中南米	欧州連合(EU)と中南米諸国がスペインのマドリードで首脳会議を開催。両地域間の自由貿易協定(FTA)づくりを加速する方針を確認した。
5・19	コロンビア	北東部のシスネロスで、サッカー1部リーグのナショナル対アメリカ戦の試合後、両チームのファンによる暴動が発生、2人が死亡、12人が重傷を負った。50人が逮捕された。
5・21	チリ	ラゴス大統領が大統領教書を発表、貧困対策、投資環境整備、アジア太平洋地域との関係強化などの方針が盛り込まれた。
5・22	ブラジル	米農務省(USDA)が、ブラジルの2002-03年のコーヒー生産量が4650万袋(1袋=60キロ)と同国過去最高の生産量になる見通しを発表した。干ばつなどの以上気象が殆ど発生しなかったことが主因で、子の発表はその後コーヒー価格に影響を及ぼした。

5・23	ベネズエラ コロンビア	ベネズエラの4月の政変で暫定政権の大統領に就任し、その後自宅軟禁状態に置かれていたペドロ・カルモナ氏がカラカスのコロンビア大使館に政治亡命を求めた。26日亡命申請は受理され、29日ボゴタに到着した。
5・24	コロンビア	左翼ゲリラ、コロンビア革命軍(FARC)が北部セサル州の町役場を襲撃、近隣のボリバル州やスクレ州でも送電塔や高速道路の料金所が破壊された。いずれも2日後に迫った大統領選挙を妨害する目的があったと考えられる。
5・25	キューバ	カストロ国家評議会議長は中部サンクティ・スピリトゥスで演説し、米國務省から国際テロ支援国に指定されたことに対し反論した。
5・26	アルゼンチン	国際サッカー連盟(FIFA)理事会は、マラドーナ (Diego Armando Maradona) 選手の功績を称えて背番号10を永久欠番にしたいというアルゼンチン協会の申し出を却下した。前日のW杯組織委員会では例外的に認める方針が出されたが、理事会が覆した形となった。
5・26	コロンビア	大統領選挙が実施され、アルバロ・ウリベ元上院議員が52.9%の得票率で当選した。
5・26	ブラジル	第86回インディアナ・ポリス500マイル(インディ500)の決勝戦がインディアナ州インディアナポリス・モータースピードウェイで行なわれ、ブラジルのエリオ・カストロネベス (Helio Castroneves) が前年に引き続き2連覇を果たした。
5・28	ブラジル	地理統計院(IBGE)は、本年第1四半期のGDP成長率が対前年同期比で0.73%減と発表した。
5・29	ウルグアイ	下院は、財政安定化法案を可決した。
5・30	アルゼンチン	上院は、経済攪乱法の破棄案を可決した。
5・30	ブラジル	「アウロラ」「アメリアの郷愁」など40年代にサンバのヒット曲を書き、後に俳優としても活躍、共産主義活動家としても知られたマリオ・ラゴ (Mário Lago) 氏が呼吸器疾患のため、リオデジャネイロの自宅で死去した。享年90歳。
5・31	アルゼンチン	ドウアルデ大統領は、預金引出制限緩和策の大統領令に署名。
5・31	コロンビア	カケタ州で2日間にわたり、政府軍とコロンビア革命軍(FARC)が断続的に衝突、双方の計33人が死亡した。同じ頃別の州でもコロンビア革命軍による爆弾テロで幼児を含む16人が死亡した。
5・31	メキシコ	メキシコ大統領府が汚職追放キャンペーンのために使用していたリンゴのロゴマークに対し、米アップル・コンピュータ社から「社のシンボルマークに酷似している」とクレームが付き、ロゴ使用が中止された。
6・3	ウルグアイ アルゼンチン	ウルグアイのバジェ大統領が番組の中で「アルゼンチンの政治家は皆泥棒だ」と発言。翌日バジェ大統領は急遽アルゼンチンに向かい、ドウアルデ大統領に謝罪した。
6・4	ペルー	フェルナンド・ベラウンデ (Fernando Belaúnde Terry) 元大統領が死去。
6・5	アルゼンチン	ブエノスアイレス南東約20キロのキルメス市の市長が「経済危機下で市内の貧困層の人たちは、馬やカエル、ネズミまで食べることを余儀なくされている」と発表した。
6・5	アルゼンチン	経済省は、5月の消費者物価上昇率が対前月比で4%増加したと発表した。

6・6	ベネズエラ	国軍幹部有志を名乗る特命のグループが、チャベス大統領を厳しく糾弾する声明をビデオを通じて発表した。ビデオは著名新聞記者に送りつけられ、民放2局が放送した。
6・7	パナマ	パナマ運河庁のアレマン (Alberto Alemán Zubieta) 総裁が運河の通航料を10月1日から平均13%値上げすると発表した。運河返還後、通航料が値上げされるのは初めて。
6・9	ベネズエラ	ランヘル (José Rangel) 副大統領が、反政府勢力との対話を促進するため、カーター元米大統領に協力を要請する書簡を送ったことを明らかにした。カーター氏は要請を受理するかどうか検討中。
6・10	エクアドル	本年1月ガラパゴス諸島近海でタンカーが座礁し大量の石油が流出した事故の影響で、ウミイグアナが大量死したことが米プリンストン大学の調査で判明した。当初ウミイグアナなど希少動物への影響は少ないとされていた。
6・11	アルゼンチン	政府は国際通貨基金(IMF)の調査団が13日にアルゼンチンを訪問することを明らかにした。
6・12	ブラジル	上院で、暫定金融取引拠出金(CPMF)(小切手税)延長に関する第2回投票が行なわれ、賛成59、反対7、棄権1で可決した。
6・14	アルゼンチン	中央銀行は一連の経済危機で外貨準備高が100億ドルを割りこみ、99億7400万ドルになったことを明らかにした。
6・14	メキシコ	メキシコの米国大使館が、W杯で米国とメキシコが対戦する17日は大使館を閉館すると発表した。暴動などに備えるため。
6・15	キューバ	政府主導のもと、社会主義の不変をうたう文言を憲法に盛り込むことを求める署名運動が始まった。反体制派市民から出された民主化の是非を問う国民投票要求の署名運動に対し、政府側が同じ手で反撃に出たもの。18日まで全国12万ヶ所で行なわれた。
6・16	ペルー	南部アレキパで電力の民営化に反対する労働者や市民の抗議行動が激しくなり、トレド大統領が非常事態を宣言し、鎮圧のため軍を派遣した。翌日までに催涙弾により1人が死亡、100人以上が負傷した。
6・17	ブラジル	カルドゾ大統領が、治安強化を目的として、連邦警察官約6000人を増員する方針を明らかにした。
6・18	ブラジル	国際通貨基金(IMF)の理事会で、通貨レアルの急落に見舞われたブラジルに対し、総額100億ドルの融資の実行を決定した。
6・19	アルゼンチン	経済省は2002年第1四半期のGDP成長率が対前年比でマイナス16.3%と発表した。
6・19	カリブ地域	ブッシュ米大統領が、アフリカやカリブ海諸国でのエイズの蔓延を防止するため、総額5億ドルの対策費を拠出すると発表した。
6・19	ペルー	政府は、南部アレキパ周辺の国営電力組織を外資系企業に売却する民営化策について、「裁判所の判断が出るまで売却の手続きなどを凍結する」と発表した。これに対して民間企業からの信頼低下を危惧したロスピグリオン (Fernando Rospigliosi) 内相は辞意を表明した。
6・20	ウルグアイ	ベンシオン (Alberto Bensión) 経済相は、外国為替の変動相場制への意向を発表した。

6・20	ホンデュラス ニカラグア	ホンデュラスのマドゥロ (Ricardo Maduro) 大統領が、ニカラグアで開催中の中米諸国首脳会議出席を取りやめ出国し、行方不明となった。24日イタリア滞在中であることが判明、スペイン人モデルの恋人と密会していたのではないかと疑念が広がった。
6・20	南米	国際サッカー連盟 (FIFA) が、インターネット上で世界中のファンから投票を受けつけた「ドリームチーム」のイレヴンを発表、最多得票はアルゼンチンのディエゴ・マラドーナの111,035票、それにブラジルのペレの107,539票が続いた。
6・23	ブラジル	環境団体コンサベーション・インターナショナルが、アマゾン中央部で新種のサル2種を発見したと発表した。それぞれ「ベルナルディ」「ステフェナーシ」と命名された。
6・24	ブラジル	リオデジャネイロの市庁舎に何者かが数百発の銃弾を撃ち込む事件があった。また庁舎近くから不発手榴弾2個も見つかった。けが人はなかった。
6・25	アルゼンチン	元大統領で野党の有力者でありながらドゥアルデ政権の協力姿勢を示していた急進市民連盟のアルフォンシン (Raúl Ricardo Alfonsín) 上院議員が党内の批判を受け辞意を表明。政局流動化の懸念から、通貨ペソが1ドル=3.9ペソの最安値を更新した。
6・26	アルゼンチン	首都ブエノスアイレス郊外で反政府のデモ隊と警官隊が衝突、2人が死亡した。翌日には政府の対応を非難する6000人のデモが行なわれ、28日検察当局は死亡した1人の射殺に関与した疑いで警官2人を逮捕した。
6・26	キューバ	人民権力会議(国会)は憲法の国家規定条項を改正し、社会主義体制を変えることは出来ないとの文言を盛り込む法案を満場一致で採択した。
6・27	アルゼンチン	英科学雑誌ネイチャーで、アルゼンチン・ラパンパ大学などの研究チームが、アルゼンチン北部ラリオハ地方の約2億1000万年前の地層から鳥の足跡にそっくりの足跡群が見つかったと発表。鳥であれば、始祖鳥より5500万年も前にさかのぼる発見となる。
6・27	メキシコ	政府は、石油輸出国機構(OPEC)の決定に追随し、協調減産を9月末まで継続すると発表した。
6・29	キューバ	カストロ国会評議会議長が首都ハバナで演説を行ない、その中で「ロシアは米国と同盟してキューバとの合意をすべて破棄し、キューバを裏切った」と強い口調で非難した。
6・30	コロンビア	北西部メデジン市のペレス (Luis Pérez Gutiérrez) 市長が、パストラーナ大統領に対し、民主主義の危機に対処するため軍予備役の召集を要求した。コロンビア革命軍が自治体首長に辞任を要求、応じない首長を殺害し、自治体機能が麻痺している事態を受けたもの。
6・30	チリ	チリ、シンガポール、ニュージーランドの3国による自由貿易協定(FTA)締結の検討が始められた。
6・30	ブラジル	日本と韓国の共同主催で行なわれたサッカー・ワールドカップが閉幕。ブラジルが5度目の優勝を果たした。
6・30	ボリビア	総選挙が行なわれた。
7・1	チリ	最高裁判所は1973年の左派弾圧事件で起訴されたアウグスト・ピノチェト元大統領の裁判を最終的に停止すると発表した。ピノチェト氏が裁判を受けられる精神状態にないと判断したため。

7・1	ブラジル	ブラジルの航空機メーカー、エンブラエルが、中国航空工業第二集団と合併で中国に航空機工場を建設することで合意した。実現すれば同社初の海外拠点となる。
7・2	アルゼンチン	ドゥアルデ大統領が記者会見で、翌年9月に予定していた大統領選挙を繰り上げて翌年3月に実施するとの方針を発表した。
7・4	エクアドル	ガラパゴス諸島沖で地元の電力会社が所有するタンカーが沈み、約6700リットルの石油が流出した。前年1月にもタンカーが座礁して動植物に影響が出ており、懸念が広がっている。
7・4	キューバ	キューバ出身の米脚本家、アイバン・モファット (Ivan Moffat) 氏がロサンゼルスで死亡した。享年84歳。
7・4	ペルー	フジモリ元大統領の側近だったモンテシノス元国家情報部顧問に対しリマの裁判所が、権力乱用などの罪で9年の禁固刑と285万ドル相当の罰金支払いを命じる判決を言い渡した。
7・5	キューバ	2001年の国内総生産(GDP)の対前年伸び率が3%と、当初見通しの5%を下回ったことが明らかになった。ハリケーンによる農作物被害や米同時テロによる観光客の減少が影響した。
7・5	メキシコ	グアダラハラ出身の女優ケティ・フラード (María Cristina "Katy" Jurado García) さんが、メキシコ市郊外クエルナバカで死亡した。1951年からアメリカの映画界で活躍した。享年78歳。
7・5	南米	南米南部共同市場(メルコスル)の首脳会議がブエノスアイレス郊外で行なわれ、経済危機が深刻化するアルゼンチンへの連帯を訴える共同宣言を採択し閉幕した。
7・6	ベネズエラ	チャベス政権と反対派勢力の対話を促すため、カーター元米大統領が首都カラカスに到着。10日まで滞在し、チャベス大統領や労組幹部らと会談した。
7・8	ペルー	ガルシア・サヤン (Diego García Sayán) 外相が辞表を提出。長引く不況や電力民営化策への国民の反発などで支持率が低迷するトレド政権には大きな痛手となった。
7・10	アルゼンチン	国際通貨基金(IMF)は、アルゼンチンの金融支援に関して、同国政府とIMFに助言する顧問団の設置を発表した。主要国の中銀総裁経験者らを採用した。
7・10	キューバ	カストロ議長は、3ヶ月以内に人民権力全国会議(国会)の議員選挙と地方自治体の首長選挙を実施すると発表した。
7・10	キューバ	ジェフ・ブッシュ (Jeff Bush) フロリダ州知事は、かつてのキューバの独裁者で革命時に亡命したバチスタ (Fulgencio Batista) 大統領の孫であるラウル・カンテロ (Raúl Cantero) 氏を州最高裁の判事に任命した。
7・11	アルゼンチン	司法当局が、1980年代初頭に左翼ゲリラ組織メンバー約20人の誘拐、拷問、殺害に関与した疑いで、ガルティエリ (Leopoldo Fortunato Galtieri) 元大統領を逮捕した。
7・11	コロンビア	南東部山岳地帯トリビオで、コロンビア革命軍(FARC)の部隊約300人がロケット砲などで警察署を襲撃、警察官14人の身柄を拘束した。しかし翌12日に地元住民の要求に応じて警官14人の身柄を無条件で釈放した。ゲリラ側としては異例の措置になる。

7・11	ペルー	ダニーノ (Roberto Dañino) 首相とクチンスキー (Pedro Pablo Kuczynski) 経済相が辞意を表明した。9日にはガルシア・サヤン外相が辞表を提出しており、トレド大統領は支持率急落に加え、主要閣僚の相次ぐ辞任に頭を痛めている。
7・11	ボリビア	大統領選挙が実施され、ゴンサロ・サンチェス (Gonzalo Sánchez de Lozada) 元大統領とエボ・モラレス (Evo Morales) 氏の得票率が僅差で並び、8月上旬に決選投票で当選者が決められることになった。モラレス氏はコカ栽培推進を公約に掲げている。
7・12	アルゼンチン	米財務省は、ポール・オニール (Paul O'Neill) 財務長官が7月末に、経済危機に陥っているアルゼンチンと、危機の波及が懸念されるブラジルを歴訪すると発表した。
7・12	ペルー	トレド大統領は、ルイス・ソラリ (Luis Solari) 前保健相を首相に任命するなど、閣僚のほぼ半数を入れ替える内閣改造を実施した。
7・12	メキシコ	メキシコ市の新国際空港建設に絡んで、農地収容に反対した農民約1000人が武装決起、検察官や警察幹部ら約10人を人質に取り、逮捕された農民の解放を要求した。
7・14	ドミニカ共和国	1960-61年、1966-78年、1986-96年の3期にわたって大統領を務めたホアキン・バラゲール (Joaquín Balaguer) 元大統領が死去した。享年95歳。その強権統治は「ラテンアメリカ最後の首領」と呼ばれた。
7・15	アルゼンチン	ラバニャ経済財政相は、米州開発銀行に対する債務5億5000万ドルを返済したと発表した。結局外貨準備を切り崩したものと推測される。
7・15	パラグアイ	ルイス・ゴンザレス (Luis González Macchi) 大統領は全土に非常事態宣言を出した。経済政策に不満を持つ市民らが道路封鎖などの抗議行動に出、治安当局との衝突で2人が死亡、50人以上が負傷、100人以上が逮捕された。17日に非常事態宣言は解除された。
7・16	エクアドル	南部モロナ・サンティアゴ地方で大規模な土砂崩れがあり、約60人が生き埋めになった。
7・16	パナマ	20年に一度行なわれるパナマ運河の閘門の補修作業が実施された。
7・17	ブラジル	中央銀行が開いた金利政策決定会議で、短期金利の誘導目標となる翌日物の銀行間貸出金利を0.5%引き下げ、18%とすることを決めた。
7・17	ブラジル	英鉄鋼のコーラスは、ブラジル最大の鉄鋼メーカーCSNを48億ドルで買収することで合意したと発表した。粗鋼生産量で世界4位に浮上する。
7・17	ペルー	南部山岳地帯で7月上旬から厳しい寒波が続き、この日までに59人が死亡、66000人が被害を受けたとトレド大統領が発表した。政府は南東部プーノ県などに非常事態を宣言、またアルパカなどの家畜にも大きな被害が出ている。
7・18	ペルー	フジモリ元大統領の広報担当、カルロス・ラフォ (Carloso Raffo) 氏は、7月28日の独立記念日に通信社「フジプレス」を設立することを明らかにした。政治的メッセージを配信する他、フジモリ氏の著書の出版も手がける予定。
7・18	メキシコ	英国の大手金融グループHSBCが、メキシコの手銀行グループ・フィナンシエロ・ビタル(GFB)を買収する交渉を進めていることを明らかにした。GFBは資産規模でメキシコ第5位の銀行。

7・20	ペルー	リマ市内のディスコで火災が発生、店内にいた客ら20人以上が死亡した。バーテンダーが店内で火を使った芸を披露していた燃え移ったのが原因。
7・21	アルゼンチン	米有力紙ニューヨーク・タイムズが、1994年7月に首都ブエノスアイレスで起きたユダヤ人協会本部ビルの爆破事件にイラン政府が組織的に関与したという事実を覆い隠すため、イラン側が当時のメネム大統領に1000万ドルを支払っていたと報じた。
7・22	ブラジル アルゼンチン	国営石油会社ペトロブラスは、アルゼンチンのエネルギー大手ペレス・コンパニクを買収することで同社と合意したと発表した。
7・23	ウルグアイ	ベンシオン経済相が辞任。後任はアチュガリ (Alejandro Atchugarry) 上院議員。
7・23	ベリーズ	米大手食品会社ハーシー社の研究者たちが、ベリーズ北部の先古典期(約2600万年前)のマヤ遺跡で世界最古のチョコレートの痕跡を発見したと発表。遺跡で見つかった陶磁器の内部にあった残滓にカカオの成分物質が確認されたもの。
7・24	南米	米財務省は、次週初めに予定されていたオニール財務長官のアルゼンチン・ブラジル・ウルグアイ訪問を1週間延期すると発表した。企業改革法の施行で議会が重要な時期にさしかかっているため。
7・25	アルゼンチン	経済財務省が、本年5月時点での失業率が21.5%と発表、史上最悪の数字となった。
7・25	エクアドル	麻薬対策当局が、エクアドルが南米各地のコカインを国際市場に密輸する際の集積センターになっていると発表。
7・25	プエルトリコ	首都サンファンで、自由連合州として内政自治権を獲得してから50年目を迎えた記念式典が行なわれた。その他各地で独立を求める集会など抗議行動も行なわれた。
7・26	アルゼンチン	イタリア・ローマの裁判所が、イタリアのアルゼンチン国債保有者の訴えに応じアルゼンチン政府の国外資産を差し押さえるよう命じた。アルゼンチン政府は8月14日にこの判決を不服として控訴したことを明らかにした。
7・26	キューバ	米下院がキューバへの渡航制限緩和を盛り込んだ予算関連法案を可決した。ブッシュ大統領は拒否権発動を辞さない構え。
7・26	ブラジル	通貨レアルの対ドル相場が1ドル=3.015レアルで取引を終了、5日連続で最安値を更新した。1994年に現行通貨を導入して以来、終値で3レアルを割りこんだのは初めて。
7・26	ボリビア	6月の大統領選挙の投票で上位だった2名による決選投票(国会議員のみ)が行なわれ、民族革命党(MNR)のゴンサロ・サンチェス元上院議員が大統領に選出された。政権につくのは2度目。
7・27	中南米	エクアドル南西部グアヤキルで行なわれていた、南米大陸12ヶ国による首脳会議はグアヤキル宣言を採択して閉幕した。宣言では米国の保護主義的な政策に懸念が表明された。
7・30	ウルグアイ	政府が国内銀行の営業を全面的に停止した。銀行からの預金流出を防ぐため約70年ぶりの措置となった。
7・31	ブラジル	通貨レアルが8営業日連続で最安値を更新、1ドル=3.47レアルとなった。10月の大統領選挙で左派候補の勝利の可能性が高まったことが原因。

7・31	南米	サッカーの南米クラブ王者を決定するリベルタドーレス杯の決勝第2戦がサンパウロで行なわれ、パラグアイのオリンピアがブラジルのサン・カエタノを下し、3度目の優勝を果たした。
8・1	中南米	国連の中南米カリブ経済委員会(ECLAC)は中南米とカリブ諸国がこの年マイナス成長になるとの見通しを発表した。同委員会が6月に示した経済見通しを下方修正したもので、アルゼンチンの金融不安が波及したものの。
8・2	ウルグアイ	米州開発銀行のイグレスias (Enrique V. Iglesias) 総裁が、米政府によるウルグアイに対する緊急支援の実施を明言。
8・2	メキシコ 中南米	ローマ法王ヨハネ・パウロ2世がカナダと中南米諸国を歴訪、最後の訪問国メキシコで16世紀に聖母マリアを見たといわれるフアン・ディエゴ (Juan Diego) を聖人に列した。先住民団体や考古学者はフアン・ディエゴの实在の証拠がないとして反発している。
8・2	南米	欧州連合(EU)の欧州委員会が、アルゼンチン・ブラジルなどメルコスル加盟の4ヶ国に対し2006年までの5年間で総額2億ユーロを供与すると発表した。
8・4	ウルグアイ	国会が国立銀行の定期預金の引き出しを最長3年間凍結することを認める法案を可決した。
8・4	ウルグアイ	米国政府が、ウルグアイに対して15億ドルの緊急つなぎ融資を実施した。
8・4	ボリビア	大統領選挙の決選投票が実施され、サンチェス・デ・ロサダ (Ximena Iturralde de Sánchez de Lozada) 候補が当選した。
8・5	中米	台湾の游錫コン (Yu Shyi-kun) 行政院長が、財界人らと外交関係のあるハイチ、パナマ、コスタリカ、ベリーズの中米4ヶ国訪問に出発した。開発援助で外交関係の縮小を避ける目的。
8・5	ウルグアイ	7月30日から停止されていた銀行営業が再開した。預金引き出しを求める行列が出来たが、大きな混乱はなかった。
8・5	キューバ	米CNNスペイン語放送のインタビューで、ロベルト・ロバイナ (Roberto Robaina) 前外相が、3年前に外相職を解任されたのは外国人企業家との職権外の契約を結び、メキシコの元州知事から25000ドルを受領したことが原因だと告白した。
8・6	メキシコ	中部ミチョアカン州シナペクアロで、宗教団体の貸し切りバスが高速道路料金所のコンクリート壁に激突、子供10人を含む33人が死亡、20人が負傷した。老朽化したバスだったため、ブレーキの故障が原因だった。
8・7	コロンビア	ボゴタ中心部の数ヶ所で、ロケット弾や爆弾が爆発、14人が死亡、40人以上が負傷した。ウリベ新大統領の就任式とほぼ同時刻に起こっており、コロンビア革命軍(FARC)による犯行とみられる。
8・7	ブラジル	国際通貨基金(IMF)のケーラー専務理事が、ブラジルに対して300億ドルの追加融資を実施することで合意したと発表。IMF史上最大規模の融資となる。
8・8	ウルグアイ	国際通貨基金(IMF)が、ウルグアイに対して4億9400万ドルの融資枠を追加すると発表した。世界銀行も同日約2億ドルのウルグアイ向け融資の実施を発表した。

8・9	コロンビア	北部ボリバル県ラセラニアデサンルカスで、コロンビア革命軍(FARC)、民族解放軍(ELN)、コロンビア自警軍連合の間で激しい戦闘があり、あわせて50人以上が死亡した。この地域はコカの葉の栽培地で、ELNの事実上の支配地だった。
8・9	メキシコ	政府はスペインの通信大手テレフォニカによるメキシコの携帯電話会社ペガソの買収を正式に承認した。
8・10	ブラジル	北部パラ州の飛行場で、小型機が使用されていない滑走路に着陸しようとしてジョギング中の女性に接触、死亡させる事故が起こった。小型機はそのまま飛び去ったが、地元警察は100km以上離れたベレンで操縦していた男を逮捕した。
8・12	コロンビア	ウリベ大統領が内戦の拡大を受けて非常事態を宣言した。また戦力と治安の強化のため増税も発表された。
8・12	ドミニカ共和国 ハイチ	国連児童基金(ユニセフ)は、年間4000人を超す子供がハイチから不法に連れ出され、ドミニカ共和国の農場や建設現場で働かされているという調査結果を発表した。
8・12	ブラジル	米格付け会社ムーディーズ・インベスターズ・サービスが、ブラジルの政府や企業が発行する外債建て債券の信用力を示すカントリーシーリングについて「B1」から「B2」に引き下げると発表した。
8・14	メキシコ	フォックス大統領は、米テキサス州当局がメキシコ人のハビエル・スアレス(Javier Suárez Medina) 死刑囚の刑を執行したことに抗議して8月下旬に予定されていたテキサス州訪問を取りやめたと発表した。
8・15	パラグアイ	国際通貨基金(IMF)が、パラグアイに対して2億ドルの融資枠を設定する方針を発表。アルゼンチンの金融危機が周辺諸国に影響するのを防ぐ措置の一環。
8・15	ベネズエラ	本年4月の政変劇に関わったとされ、軍人反乱容疑を持たれていた4人の軍人に対し、最高裁判所は「裁判にかけ罪に問う必要なし」との決定を下した。これに反発した大統領支持派に市民が市中心部で抗議行動を行なった。
8・16	アルゼンチン	ラバニャ経済財政相は、国際通貨基金(IMF)との合意時に交わす趣意書の原案をIMF側に提示したことを明らかにした。政府は対IMF債務の返済繰り延べでの9月中の合意を目指している。
8・19	コロンビア	西部チョコ県バイアソラノ近郊の国立公園で観光客80人が左翼ゲリラ組織民族解放軍(ELN)に襲われ、うち27人がボートで太平洋沖に連れ去られた。
8・19	ブラジル	カルドゾ大統領は、次期大統領選挙の主要候補者4名と個別に会談を行なった。
8・19	ブラジル	石油化学最大手コペネなど同業5社が合併して新会社プラスケンを設立したと発表した。中南米最大の石油化学企業となる。
8・20	ブラジル ウルグアイ	ブラジルのカルドゾ大統領がウルグアイを訪問した。(・21日)
8・21	メキシコ	英国の大手金融グループHSBCはメキシコの手銀行グループ・フィンシエロ・ビタル(GFB)を買収することで、GFBの経営陣、主要株主と合意したと発表した。買収金額は最大で11億4000万ドル。
8・21	アルゼンチン	一般の債務者や労働者を保護するための法律が成立する見通しとなった。いずれも銀行側に負担を強いる内容で、金融業界は反発を強めている。

8・21	ペルー	リマの裁判所は、フジモリ元大統領の公金横領疑惑に関わったとして逮捕状が出ていたビクトル・アリティミ (Victor Aritomi Shinto) 前駐日大使について、証拠不十分として事実上無罪の決定を下した。9月2日に司法当局は逮捕命令を取り消した。
8・22	アルゼンチン	最高裁は、歳出削減法が違憲であるとの判決を下した。
8・22	コロンビア	政府は農民2万人を新たに徴兵する計画を明らかにした。地方で頻発する左翼ゲリラの襲撃に備えた兵力増強策。
8・23	アルゼンチン	選挙裁判所が、翌年3月の大統領選挙に向け11月に予定している党内予備選挙を中止する命令を出した。
8・23	ベネズエラ	チャベス大統領は、9月19日に大阪で開催される石油輸出国機構(OPEC)総会で生産枠の現状維持を主張することを明らかにした。
8・26	メキシコ	世界保健機関やメキシコの民間医療機関の調査により、メキシコの国民の32%に相当する310万人の成人が肥満であることが発表された。
8・30	ブラジル	西部のリオブランコ付近で、乗客ら28人が乗った旅客機が離陸直後に墜落、24人の死亡が確認された。
8・30	メキシコ 南米	メルコスルとメキシコ政府が自由貿易協定の締結に向けた交渉を正式に開始した。
8・31	ブラジル	ブラジル・サッカーのスター・ロナウド (Ronaldo) 選手が、イタリアのインテル・ミラノからスペインのレアル・マドリードに移籍することが発表された。4年契約で移籍金は推定4500万ユーロ(約53億円)。移籍期限の締切1時間前に決定した。
9・2	エクアドル	北京のエクアドル大使館に朝鮮民主主義人民共和国(北朝鮮)住民とみられる男女12人が駆け込もうとして警察当局に取り押さえられた。大使館の中に入れた者はいないという。
9・2	ブラジル ベネズエラ	ベネズエラの国営石油会社(PDVSA)はブラジルでガソリンを自社ブランドで販売する意向を明らかにした。2000年にPDVSAとペトロプラスはガソリン販売の合弁会社設立で合意していたが具体化できなかった。
9・5	アルゼンチン	国際通貨基金(IMF)の理事会で、近く期限を迎えるアルゼンチン向け融資28億ドルの返済期限を1年間延長することを決定した。
9・5	ブラジル	独ダイムラー・クライスラーは、ブラジルでバス・トラック向け変速機の量産を始めると発表した。9月にサンベルナルドカンポに量産ラインを新設する。
9・6	コロンビア	南部メタ県で国軍とコロンビア革命軍(FARC)との間で戦闘があり、FARCメンバー100人近くが死亡した。
9・6	ブラジル	国際通貨基金(IMF)はブラジルに対する304億ドルの融資計画を承認した。2003年末までの予定で、アルゼンチンの経済危機が中南米全体に広がることを防ぐための措置。
9・9	南米	イタリアの最大手銀行インテーザBCIが、南米から完全撤退する意向を表明。不採算が続く南米の子会社を売却し、国内事業を強化する予定。ブラジルの子会社はイタウ銀行への売却が決まっている。
9・10	アルゼンチン	ラバニャ経済財政相は、銀行の残高7000ペソ以下の小口の定期預金について、10月1日から引き出し制限措置を解除すると発表した。対象は64万口座にのぼり、制限を受けた定期預金の60%以上にあたるとしている。

9・10	コロンビア	ウリベ政権が、国土の一部を国軍管理下に置き、逮捕状なしに容疑者を拘束することを可能にする政令を出した。前月発令された非常事態宣言に基づくもの。
9・11	トリニダッド・トバゴ	ゼーリック (Robert B. Zoellick) 米通商代表部代表がトリニダッド・トバゴを訪問。カリブ諸国の貿易担当相との間でFTAAをはじめとする通商問題につき協議した。
9・12	アルゼンチン	ピアニスト・指揮者ダニエル・バレンボイム (Daniel Barenboim) 氏がアストリアス皇太子協調賞を受賞した。対話を進めるために若い音楽家たちと取り組んだワークショップ「西東詩集」の活動が高く評価されたもの。
9・12	グアテマラ	西部エルポルベニルで豪雨による土砂崩れが発生、17人が死亡、20人が行方不明となった。
9・12	ブラジル	ブラジル出身のセルジオ・デ・メロ (Sergio de Mello) 氏が国連人権高等弁務官に就任した。
9・13	アルゼンチン	ブエノスアイレスで国家公務員が賃金の13%カットに抗議して、オフィスの窓から紙片を投げ捨てるデモを13分間行なった。
9・17	パラグアイ	アスンシオン選挙裁判所が、オビエド (Lino César Oviedo) 氏を党首とする新党UNACEの政党化を承認した。
9・18	ウルグアイ	バジェ大統領が閣議を召集、経済的安定、外貨準備高の回復および財政赤字削減を優先事項とする政府方針を決定した。
9・19	パラグアイ	サッカーのパラグアイ代表主将のチラベルト (José Luis Chilavert) 選手が、所属先のフランス1部リーグ、ストラスブールから虚偽の契約書を作成したとして解雇された。
9・20	ドミニカ共和国	首都サントドミンゴ北西125キロにあるラベガの刑務所で暴動が発生、煙にまかれた受刑者28人が死亡、30人が重傷を負った。職員が所持品検査を実施しようとしたところ、受刑者がマットレスなどに火をつけて抗議行動を起こしたもの。
9・23	パナマ	ミスユニバース・コンテスト主催団体が、5月にミスユニバースに選ばれたロシア代表からタイトルを剥奪、2位だったパナマ代表のジャスティン・パセク (Justine Pasek) さんを新ミスに任命すると発表。
9・23	パラグアイ	コルデイジェーラ県、アルトパラナ県などで、水道料金値上げや経済改革法案の見直しを訴える運輸業者、生産セクター、市民団体などによる抗議デモが行なわれた。
9・23	ブラジル	通貨レアルの為替相場が前の週末比で4.8%下落、1ドル=3.57レアルとなり、最安値を更新した。
9・24	コスタリカ	嵐で遭難し、太平洋を米カリフォルニアロングビーチから3ヶ月半も漂流していたベトナム系米国人リチャード・バン・ファム (Richard Van Pham) さんがコスタリカの海上約510キロで米海軍の飛行機に見えられ救助、ロサンゼルスに帰国した。
9・25	ブラジル	リオデジャネイロの中心街で6階建てホテルのビルが倒壊、3人が負傷、数人が下敷きになっている可能性があるかと伝えられた。
9・26	キューバ	米企業が中心となった食料・農業フェアが5日間の日程で開幕した。米政府は前年末から、ハリケーン被害に見舞われたキューバに対する特別措置として食糧輸出を許可している。
9・26	チリ	米アトランタで第12回チリ・米国FTA交渉が開催された。(10月2日)

9・26	パラグアイ	第1回パラグアイ・ポルトガル合同委員会がアスンシオンで開催された。 (-27日)
9・30	アルゼンチン	図書館のない地域へ本を運んで行く移動図書館を中心とした活動で、 コルドバのNGO団体「児童文学研究センター」が第15回国際児童図書 評議会(IBBY)・朝日国際児童図書普及賞に選ばれ、授賞式が行なわ れた。
9・30	ウルグアイ アルゼンチン	オペルティ(Didier Operti)ウルグアイ外相がアルゼンチンを訪問。(-10 月1日)
9・30	メキシコ	新聞報道で、コカインを常用するメキシコ市の女子学生(12-22歳)が、7 年前の3倍にあたる5.2%を占めていることが明らかになった。麻薬密売 人が学生をターゲットにし始めたことが原因と考えられる。
10・2	エクアドル	2001年1月、ガラパゴス諸島の近海でエクアドル船籍のタンカー「ヘシカ 号」が座礁、60万リットル以上の石油が流出した事故で、司法当局は英 国の保険会社テラノバに対し、国立公園当局に1000万ドルの賠償金を 支払うよう命じた。
10・3	アルゼンチン	サッカーのスター、マラドーナが1994年2月に報道陣に空気銃を発砲し4 人が負傷した事件で、傷害罪での執行猶予付き禁固2年の有罪判決が 確定した。最高裁判所がマラドーナの上告を棄却したもの。
10・3	キューバ メキシコ	メキシコ北部で開催中のアマチュア野球の米州シリーズに参加中の キューバ代表のエース、ホセ・コントレラス(José Ariel Contreras Camejo) 投手ら2名が行方不明になっていることが判明した。入管当局は亡命の 可能性もあるとして調査している。
10・6	ブラジル	大統領選挙が実施されるが、規定の得票数に至らず、上位2名による決 選投票が行なわれることとなった。
10・7	キューバ	国営通信プレンサ・ラティーナの報道によると、政府は核拡散防止条約 (NPT)を批准したことを明らかにした。これにより未加盟国はイスラエル、 インド、パキスタンの3ヶ国となった。また中南米核兵器禁止条約も同時 に批准したことも明らかになった。
10・7	キューバ	キューバのアマチュア野球チームのエース、ホセ・コントレラス投手が滞 在先のメキシコ北部で逃げ出していた事件で、米入管当局筋はカリフォル ニア州サンディエゴに滞在していることを明らかにした。
10・7	ブラジル	大統領選でルラ(Luiz Inácio Lula da Silva)候補が圧勝する見込みを受 けリアル売りが加速、通貨レアルの対ドル相場が3.3%が下落、1ドル＝ 3.74レアルで取引を終えた。
10・8	トリニダード・トバゴ	総選挙が行なわれ、中道左派の与党人民国家運動が下院36議席のうち20議席を 獲得し勝利した。
10・9	アルゼンチン	政府は15日に償還期限を迎える国債2億5000万ドルを返済しないことを 明らかにした。この国債を保証する世界銀行が支払いを肩代わりする。
10・10	ウルグアイ チリ	1972年10月13日、ウルグアイの空軍機がチリに向かう途中、高度3800 メートルの雪の斜面に墜落、乗客45人のうち16人が約70日後に救助さ れた事件から30周年を記念して、生存者らがチリの首都サンティアゴに 集まり、救助関係者に感謝の気持ちを表した。

10・10	ブラジル	通貨レアルの対ドル相場が1ドル=3.99レアルとなり、現行通貨導入以来の最安値を更新した。6日の連邦議会選で左派の野党労働党が躍進したことが嫌忌されたもの。
10・10	ベネズエラ	首都カラカスでチャベス大統領の辞任と大統領選の前倒しを要求する反政府デモが行なわれた。約1400万人がデモに参加した。
10・11	アルゼンチン	下院議会が、最高裁判所の全判事に対する弾劾審議の中止を決定。弾劾の見送りは国際通貨基金(IMF)が求める司法の正常化に道を開くとみられる。
10・11	ブラジル	中央銀行が、大統領選挙の決選投票を前に下落傾向を強めている通貨レアルの対ドル相場に歯止めをかけるため、新たな外国為替取引規制を導入した。
10・11	メキシコ	ロペス (Andrés Manuel López Obrador) メキシコ市長が、ジュリアーニ (Rudy Giuliani) 前ニューヨーク市長経営の警備顧問会社に、メキシコ市の実態調査を依頼、犯罪一掃のアドバイスをもらうことで合意したことが明らかになった。
10・14	ブラジル	中央銀行が、緊急の金利政策決定会議を開き、短期金利の誘導目標となる翌日物の銀行間貸出金利を18%から21%に引き上げた。通貨レアルの下落に応じたもの。
10・16	ジャマイカ	総選挙が実施され、与党人民国家党が過半数を制して勝利した。これによりパターソン (Percival James Paterson) 首相は同国初の4期目の政権を担うことになる。
10・18	ブラジル	格付情報投資センター(R&I)は、ブラジルの外債建て長期債務の格付けを、ダブルBマイナスからシングルBプラスに1段階引き下げたと発表。
10・19	メキシコ	メキシコ市出身のモダニズムを代表する写真家、マヌエル・アルバレス・ブラボ (Manuel Álvarez Bravo) 氏が老衰で死去。享年100歳。
10・20	キューバ	文豪ヘミングウェイが晩年までの21年間を過ごしたハバナ近郊の自宅地下室から、オリジナル原稿、草稿、英語やスペイン語で書かれた私信などが発見された。11月11日にこれらの遺品を米国の団体と協力して保存・管理することが合意された。
10・21	エクアドル	大統領選挙が行なわれ、投票の過半数を得た候補はなく、ルシオ・グティエレス (Lucio Gutiérrez Borbúa) 元陸軍大佐と実業家のアルバロ・ノボア (Álvaro Novoa) 氏の間で決選投票が行われることが決まった。
10・22	アルゼンチン	ドゥアルデ大統領は、自身の任期を来年5月25日までに短縮する法案を議会に提出した。
10・22	コロンビア	首都ボゴタにある首都圏警察本部近くで、車に仕掛けられた爆弾が爆発、3人が死亡、30人以上が負傷した。コロンビア革命軍の犯行と見られている。
10・22	ベネズエラ	4月のクーデターに反チャベスの姿勢を打ち出し、その後閑職に追いやられていたエンリケ・メディーナ (Enrique Medina Gómez) 陸軍中將ら軍幹部15人がテレビを通じて声明を読みあげ、軍や国民に大統領辞任を求めるよう呼びかけた。
10・24	チリ	韓国政府が、チリとの自由貿易協定(FTA)締結交渉が妥結したと発表した。早ければ翌年上半期の発効となる。
10・26	メキシコ	ロスカボスで行なわれていたアジア太平洋経済協力会議(APEC)首脳会議が閉幕。「反テロ声明」を含むAPEC声明が採択された。

10・27	ブラジル	大統領選挙の決選投票が行なわれ、野党労働党(PT)の名誉総裁、ルラ氏が当選した。1980年創設の労働党が政権を取るの初めてのこと。
10・29	ハイチ	米フロリダ州マイアミの海岸で、木造船で近づいてきたハイチ難民約200人が上陸を図り、一部が観戦道路を逃げ回り、道路を封鎖するなど混乱した。
11・1	アルゼンチン	アルゼンチンへの金融支援策をめぐって、ラバニャ経済財政相と国際通貨基金(IMF)のケーラー専務理事らがワシントンのIMF本部で交渉したが、合意に達しなかった。
11・1	エクアドル	第7回FTAA貿易相会合がエクアドルで開催された。
11・3	エクアドル	北部にあるエルレベントドル火山が噴火、首都キトを含め、周辺の街が大量の火山灰に覆われた。1人が死亡、16人が負傷。ノボア大統領は同日ピチンチャ州などに非常事態を宣言した。
11・4	キューバ	著名なアメリカの映画監督スピルバーグ (Steven Spielberg) 氏が初めてキューバを訪問、約8時間にわたってカストロ国家評議会議長と会談を行なった。その後の記者会見でスピルバーグ氏は米国の対キューバ経済制裁の解除を訴えた。
11・4	チリ	絶滅の恐れがある野生動植物の国際取引を規制するワシントン条約の第12回締約国会議が首都サンティアゴで開催した。
11・5	メキシコ	フォックス大統領が「きっぱりノーと言おう」を合い言葉に麻薬撲滅キャンペーンを開始した。
11・7	ニカラグア	検察庁がボラニョス (Enrique Bolaños Geyer) 大統領とリゾ (José Rizo Castellón) 副大統領を、公金410万ドルの横領と選挙違反の罪で最高裁に起訴した。同国憲政上、現職大統領の起訴は初めて。
11・7	コロンビア	世界最大の麻薬組織とされたカリ・カルテルの幹部で、95年から服役中のヒルベルト・ロドリゲス (Gilberto Rodríguez Orejuela) 服役囚が釈放された。模範囚として刑期が短縮されたのが理由。ウリベ大統領は4日に釈放を認めない命令を下していた。
11・12	チリ	首都サンティアゴでワシントン条約締約国会議の委員会が開かれた。この委員会では象牙の国際取引を1回に限って認めるよう求めた修正提案を可決している。
11・13	ウルグアイ	サッカー元ウルグアイ代表のスキアフィーノ (Juan Alberto Schiaffino) 氏が首都モンテビデオで死去した。享年77歳。1950年のワールドカップでは母国の優勝に貢献、ウルグアイ史上最良のサッカー選手と呼ばれていた。
11・14	アルゼンチン	政府は14日が返済期限だった世界銀行への8億ドルの債務について、元本返済は見送り、金利分の約8000万ドルだけを返済する決定をした。
11・16	中南米	計21ヶ国によるイベロアメリカ諸国首脳会議がドミニカ共和国の保養地パバロで行なわれ、55項目のパバロ宣言を採択して終了した。
11・17	ベネズエラ	反チャベス大統領派のペニャ (Alfredo Peña) カラカス市長が指揮下に置く首都圏警察の管轄地域が、国家警備軍によってほぼ掌握されたことが発表された。
11・17	ペルー	統一地方選挙が行なわれた。25の州知事選ではアメリカ革命人民同盟 (APRA)が11州、独立系が9州を占め、与党ペルー・ポシブレは惨敗した。

11・18	コロンビア	コロンビア政府による軍用機調達をめぐって、米国が「ブラジルから調達すれば米議会でのコロンビア追加支援の承認にマイナスに働くだろう」という書簡によって妨害工作をした疑惑が浮上した。コロンビア側は計画そのものを否定している。
11・19	ベネズエラ	政府が首都圏警察掌握のため軍を出動させたことに対する、大規模なデモが労組や野党のメンバーなどによって行なわれた。
11・20	アルゼンチン	消費低迷が続くアルゼンチンで、ダイムラー・クライスラーが、仏穀物メジャーのドレイファスの関連会社と提携した販売促進策「シリアル・プラン」を発表した。顧客は収穫した穀物と引き換えにベンツなど同社の自動車を購入できるというもの。
11・20	エクアドル	中部リオバンバ近郊の陸軍基地で大きな爆発があり、少なくとも5人が死亡、180人が負傷した。
11・20	パラグアイ	ラウル・ベラ (Raúl José Vera) 中央銀行総裁が辞任。国際通貨基金(IMF)が求める経済改革の実行で議会からの支持が得られなかったため。後任はガブリエル・ゴンサレス (Gabriel González Cáseres) 金融調査庁長官。
11・21	ブラジル	地理統計院が10月の失業率(季節調整前)が前月比0.1ポイント低下して7.4%になったと発表。
11・22	アルゼンチン	ラバニャ経済財政相は、銀行預金の引き出し制限措置を当座預金と普通預金に限って25日に解除することを約束した。引き出し制限に批判的だった国際通貨基金(IMF)に歩み寄り、支援交渉に弾みをつけるのが目的。
11・24	アルゼンチン	午後から夜にかけ、首都中心部のほか、12州で大規模な停電が発生。全人口の36%が影響を受けた。電気料金値上げに慎重な政府に対する、電力会社側の意図的な停電ではないかとの憶測が広がった。
11・24	エクアドル	大統領選挙の決選投票が行なわれ、ルシオ・グティエレス元陸軍大佐が当選した。翌年1月の就任で任期は4年。
11・24	チリ	「最後のシュールレアリスト」と称されたサンティアゴ出身の画家・彫刻家、ロベルト・マッタ (Roberto Matta Echaurren) 氏がローマ近郊の病院で死去。享年91歳。
11・25	キューバ	米国フロリダ沖で、沿岸警備隊が密航船から14歳のキューバ人少年を保護した。
11・26	ブラジル	リオデジャネイロ市の海岸に沿って並ぶ売店でクレジットカードの使用が可能になることが発表された。大手カード会社と売店を経営する会社が契約を交わし、無線通信を結んだもの。
11・29	コロンビア	右翼民兵組織コロンビア自警軍連合が、その声明の中で一方的な停戦を実施、政府との和平交渉にはいる用意があることを明らかにした。
12・1	ベネズエラ	首都カラカス中心街のナイトクラブで火災が発生、少なくとも47人が死亡した。
12・2	メキシコ	南東部チアパス州で、パレンケ遺跡に向かう途中のバスが150メートル下の谷底に転落、乗客18人が死亡、23人が負傷した。
12・3	チリ ブラジル	ルラ次期大統領がチリを訪問、ラゴス大統領と会談を行なった。ルラ次期大統領はメルコスルの強化に向けた協力を要請したが、チリ側の反応は消極的だった。
12・3	ベネズエラ	全国選挙評議会が、チャベス大統領の辞任の是非を問う国民投票を翌年2月2日に行なうと発表した。

12・5	アルゼンチン	ピニャネリ中央銀行総裁が、政府関係者に辞意を伝えた。ラバニャ経済財政相とこれまでも度々対立してきた人物。
12・5	南米	メルコスール首脳会合がブラジルで開催された。
12・6	ベネズエラ	カラカス中心部に近いフランシア広場でチャベス大統領の辞任を求めて集まっていた市民に突然乱入した数人の男たちが発砲、少なくとも3人が死亡、20人以上が負傷した。
12・6	メキシコ	米科学誌が、南北アメリカで最古の文字と見られる文様の入った印章などがタバスコ地域のオルメカ文明遺跡から見つかったと発表した。文字が刻まれた約1650万年前の陶器や石の飾りが見つかった。オルメカ族が残したものと考えられ、米大陸最古の文字と考えられる。
12・6	南米 ベネズエラ	メルコスール首脳会議が行なわれる。終了後加盟国はゼネストが続くベネズエラへの連帯を表明した。しかし反政府勢力を刺激することを避けるため支持声明は文書としてまとめられなかった。
12・7	メキシコ	メキシコ市で通話料無料の電話によるロペス市長の信任投票が行なわれた。投票結果に法的拘束力はないが、不信任票が半数を超えた場合辞任することを宣言していた。結果は9割近くが信任票で、野党は「税金の無駄使い」「人気取り」と非難した。
12・9	ブラジル	リオデジャネイロ州アングラドスレイス市で、豪雨のため大規模な土砂崩れが発生し、貧困家庭が多く住む地区の住宅を押し流し、少なくとも30人が死亡、50人が行方不明となった。
12・9	南米	南米サッカー連盟のニコラス・レオス (Nicolás Leos) 会長は、ワールドカップへの南米出場枠を現行の「4.5」から「5」に広げるべきだとの認識を示した。アジア・オセアニアの出場枠拡大を求める声をけん制したものと考えられる。
12・11	チリ	米通商代表部がチリとの間で自由貿易協定(FTA)の締結に合意したことを発表した。この協定は南米地域で初めてのものとなる。
12・11	ベネズエラ	反大統領派市民を中心とした10回目のゼネストが始まった。市民生活への影響も広がり、政情不安も増加している。石油産業の稼働率は3割まで低下している。
12・12	ブラジル	ルラ次期大統領は、次期中央銀行総裁に米銀大手フリードボストン・ファイナンシャル元幹部のエンリケ・メイレルス (Enrique Meirelles) 氏を任命した。
12・15	ベネズエラ	チャベス大統領は、反大統領派の2週間におよぶゼネストのため国内史上で不足したガソリンや食糧を緊急輸入することに踏み切ったと発表した。年末にブラジルのペトロbrasからガソリン52万バレルを輸入した。
12・17	ブラジル	翌年1月発足のルラ次期政権で、有名シンガーソングライターのジルベルト・ジル (Gilberto Gil) 氏が文化相への就任要請を受け入れたことが明らかとなった。音楽活動は継続する。
12・17	メキシコ	メキシコで低迷気味の映画産業テコ入れのため、大人50ペソの入場料を1ペソ値上げすることが発表された。
12・18	ブラジル	国際通貨基金(IMF)が、ブラジルに対して31億ドルの融資を実行することを承認した。9月に設定した総額307億ドルの支援融資枠内での実施となる。

12・18	ブラジル	中央銀行は、金融政策決定会議を開き、短期金利の誘導目標となる翌日物の銀行間貸出金利を22%から25%に引き上げた。インフレ再燃の兆しを受けて一気に3%の利上げとなったもの。
12・19	ベネズエラ	最高裁判所は国営石油会社PDVSAの職員に対し、ストを解除し職務への復帰を求める仮処分を申請を決定した。
12・25	南米	ペルー・サッカー協会のブルガ (Manuel Burga Seane) 会長が、2014年ワールドカップ (W杯) をペルー、ボリビア、エクアドル、コロンビア、ベネズエラのアンデス地域5ヶ国で共同開催することを提案した。
12・30	ベネズエラ	ランヘル副大統領が、チャベス大統領の辞任を求めるゼネストを主導しているベネズエラ石油幹部について、すでに解雇した90人のほか、今後多数を更迭する方針を明らかにした。

参考文献

- (1)『朝日新聞縮刷版』『日本経済新聞縮刷版』(2002年各月号)。
- (2)日経ニュース・テレコン。
- (3)イペロアメリカ研究所新聞切抜き(2002年)。
- (4)「ラ米における主なできごと」『ラテン・アメリカ時報』2002年2月－2003年2月

Sophia-R

Sophia University Repository for Academic Resources

Title	〈資料〉 ラテンアメリカ日誌—2003年—
Author(s)	
Journal	イペロアメリカ研究, 26(1)
Issue Date	2004-08-03
Type	紀要/Departmental Bulletin Paper
Text Version	出版者/Publisher
URL	http://repository.cc.sophia.ac.jp/dspace/handle/123456789/9536
Rights	



上智大学
Sophia University

<http://www.sophia.ac.jp>

《資料》

ラテンアメリカ日誌－2003年－

月 日	国名	記事
1 . 1	ブラジル	2002年10月の大統領選挙で当選した左派・労働者党のルイス・イナシオ・ルラ・ダシルバ (Luiz Inácio Lula da Silva) 名誉総裁が大統領に就任した。
1 . 3	ベネズエラ	首都カラカスで、チャベス (Hugo Chávez Frías) 大統領辞任を求める反政府勢力のデモ隊と大統領支持者が衝突、少なくとも78人の死傷者が出た。
1 . 7	キューバ	米マイアミのディスクジョッキーが、キューバのカストロ (Fidel Castro Ruz) 国家評議会議長の会話をもとに作ったテープで偽電話をかけ、ベネズエラのチャベス大統領をだましたことが明らかになった。
1 . 7	コロンビア	ボゴタ首都圏クンディナマルカ県で、幹線道路にしかけられた爆発物が爆発、国家警察の警備車両2台が爆破され、警察官ら5人が死亡した。その直後に武装集団が車両に乱射し、別の警官ら3人が死亡、5人が負傷した。
1 . 7	パラグアイ	パラグアイ出身の人気サッカー選手、ホセ・ルイス・チラベルト (José Luis Chilabert) が、パラグアイのサッカークラブ、セロ・ポルテーニョへの入団を取りやめた。1985年以来チラベルトは本国でプレーしていない。
1 . 7	ベネズエラ	ゼネストが続く中、大統領選の早期実施を求める市民数千人が、カラカスの税務署まで行進を行い、チャベス大統領が辞任するまで納税を拒否する姿勢を見せた。
1 . 8	ブラジル	サッカーのブラジル代表監督に、1994年のワールドカップ米国大会でチームを優勝に導いたカルロス・アルベルト・パレイラ (Carlos Alberto Parreira) 氏の復帰が決まった。
1 . 8	ベネズエラ	有力労組である銀行労働者同盟が緊急総会を開き、反政府勢力が呼びかけている9、10日のゼネストに合流することを決めた。
1 . 9	チリ	中央銀行が、短期金利の誘導目標となる翌日物の銀行間貸出金利を3%から2.75%に引き下げることを決めた。これは史上最低の水準となる。
1 . 9	ペルー	北部チクラヨ発チャチャボヤス行きの国内線タンス航空フォッカーF28型機が行方不明となった。11日、北部で残骸が見つかった。生存者はいなかった模様。

1・10	メキシコ	フオックス (Vicente Fox) 大統領は、カスタニェダ (Jorge Castañeda Gutman) 外相の辞表を受任、後任にデルベス (Luis Ernesto Derbez Bautista) 経済相を任命した。
1・12	アルゼンチン	レオポルド・ガルティエリ (Leopoldo Fortunato Galtieri) 元アルゼンチン大統領が心不全のため、ブエノスアイレスの軍病院で死去した。享年76歳。同元大統領はフォークランド紛争時の大統領で、その後反体制活動家の拷問や殺人に関わった容疑で起訴されていた。
1・15	アルゼンチン	アルゼンチン政府は、この日に償還期限を迎えた米州開発銀行向け債務6億8000万ドルの返済を実行しなかった。昨年11月の世界銀行への債務不履行に続く、国際金融期間に対する債務不履行となった。
1・15	エクアドル	前年11月の大統領選で当選したルシオ・グティエレス (Lucio Edwin Gutiérrez Barbúa) 元陸軍大佐が大統領に就任した。任期は4年。
1・15	ベネズエラ	米州機構(OAS)のセサル・ガビリア (César Augusto Gaviria Trujillo) 事務総長が、ゼネストが続くベネズエラの混乱收拾のため、ブラジル、メキシコ、チリ、米国、スペイン、ポルトガルの6ヶ国による「友好国グループ」を発足させ、調停に乗り出すことを発表した。
1・16	アルゼンチン	アルゼンチン政府が、債務返済などに関する国際通貨基金(IMF)との交渉が基本合意に達したと発表した。2003年前半に償還期限を迎えるIMF向け債務66億ドルの返済が繰り延べられることとなった。
1・16	ペルー	フジモリ (Alberto Fujimori Fujimori) 元大統領が制定した一連の反テロ法により終身刑判決を受けた、左翼ゲリラ組織、トゥパクアマル革命運動(MRTA)の元最高指導者、ビクトル・ポライ (Victor Polay Campos) 服役囚の母が、高等裁判所に再審請求を行ったことを明らかにした。
1・17	ブラジル	ルラ・ダシルバ政権の担当相は、公約の貧困対策を実施するため、レストランなどで余った食べ物を集めて食料銀行を創設し、貧困層に配給する方針を打ち出した。ルラ政権は41項目の貧困対策に18億レアルの費用を投じる予定。
1・17	ベネズエラ	国軍は北部カラボボ州バレンシアで、米国の大手飲料会社「コカ・コーラ」の関連会社の倉庫に突入、清涼飲料水を接収した。ゼネストで市販用の飲料水が不足していることを受けて、チャベス大統領がスト破りのため実力行使したもの。
1・18	コロンビア	北西部メデジンのショッピングセンター駐車場で車爆弾が爆発し、4人が死亡、約30人が負傷した。検察当局は左翼ゲリラ・コロンビア革命軍(FARC)の犯行とみている。

1・19	キューバ	人民権力全国会議（国会）と県議会選挙が実施され、政府指名の全員が当選した。1999年に米フロリダ州沖で救助され、米国とキューバ間で送還をめくり話題となったエリアン君の父、フアン・ゴンサレス (Juan Miguel González) 氏が新議員となった。
1・20	ベネズエラ	首都カラカス近郊で、チャベス大統領支持派と反政府市民との間で衝突があり、警察当局が排除に乗り出し混乱、若者1人が死亡、警官を含む27人が負傷した。
1・21	ベネズエラ	ジミー・カーター (Jimmy Carter) 元大統領が、政府と反大統領派の双方に打開案を提示した。憲法改正による大統領選挙の前倒し実施か、今年8月に大統領の信任を問う国民投票を実施するかで合意するよう呼びかけたもの。
1・21	メキシコ	南西部コリマ州、首都メキシコ市などで強い地震が発生した。マグニチュード7.3で、28人が死亡、約800人が負傷した。
1・21	中南米	米国勢調査局が、米国内のヒスパニック系人口が初めて黒人を上回り、非白人で最大の人種グループになったことを発表した。ヒスパニック系人口は全米人口の13%にあたる3700万人。
1・22	エルサルバドル 中南米	第3回OAS米州反テロ委員会が開催された。
1・22	ベネズエラ	中央銀行が外国為替取引を5営業日停止すると発表した。ゼネストの長期化で通貨ボリバルが下落し、外国資本が流出し始めていることに対応したもの。
1・22	ベネズエラ	最高裁が、2月2日に予定されていたチャベス大統領の辞任の是非を問う国民投票を行わないと発表した。前月の国民投票実施を決めた全国選挙評議会に反政府勢力寄りの委員が含まれているため、決定は無効であるとする政権側の主張を認めたもの。
1・23	ベネズエラ	カラカスでチャベス大統領支持者がストに反対して数万人規模のデモを行っていたところ、手榴弾とみられる爆弾が爆発、男性1人が死亡、14人が負傷した。
1・23	ペルー	エクアドル国境に近いツンベスの国軍基地で大規模な爆発があり、兵士7人が死亡、80人がけがをした。
1・24	アルゼンチン	国際通貨基金 (IMF) が理事会を開き、経済危機に陥っているアルゼンチンに対し、総額67億8000万ドル規模の金融支援を実施することを決めた。
1・26	ボリビア チリ	第11回ボリビア・チリ政治協議委員会会合がボリビア・サンタクルスで開催された。
1・27	パラグアイ 南米	南米南部共同市場 (メルコスル) グループ会合がパラグアイで開催された。

1・27	メキシコ	政府が住宅不足や経済的理由から成人後も実家で暮らす若者の独立を支援するプログラムを発足させた。仕事や住宅ローンのあっせんや、社会教育なども実施される。
1・30	ベネズエラ	政府は2月6日から外国為替の変動相場制を固定相場制に変えることを発表し、2月6日予定通り実施した。
1・31	ベネズエラ	カラカスで新聞やテレビの記者やカメラマンなどの報道関係者が、表現の自由を求める反政府デモを行い、数万人が参加した。
2・1	キューバ	キューバ出身の打楽器奏者で、アメリカのラテン・ジャズやラテン・ロックの分野で広く活躍したモンゴ・サンタマリア (Ramón "Mongo" Santamaría) 氏が米フロリダ州の病院で死去した。享年85歳。
2・2	ベネズエラ	ゼネストを主導してきた反大統領派の労働者総同盟幹部が談話を発表、営業を短縮した上でほぼすべての分野で活動を再開することを明らかにした。
2・3	メキシコ	新聞報道で、メキシコ国民の貧富の差が拡大していることが明らかになった。富裕層と極貧層がそれぞれ全体の10%、貧困層が全体の30%を占める。また極貧層の国内総生産の水準は16年間変化していない。
2・5	メキシコ	オランダの国際司法裁判所は、米国内で死刑判決を受けたメキシコ人3人について、刑の執行を一時停止するよう米政府に対して命令した。国際条約で定められた領事の保護を充分受けられなかったとして、メキシコ政府が提訴していたもの。
2・6	ブラジル	中南米最大の航空会社バリグ・ブラジル航空と、ブラジル2位のTAM航空が経営を統合することで合意した。統合にコスト削減効果で経営基盤を強化する考え。
2・7	コロンビア	首都ボゴタ北部の社交クラブ「エルノガル」で大きな爆発があり、27人が死亡、160人以上が負傷した。同クラブ3階駐車場の車に爆弾がしかけられた。後にFARCの犯行と断定された。
2・9	チリ	極端に保守的な土地柄で知られるチリ南部マガリャネス州で、エイズウイルス感染者が50人にのぼり、保健当局がエイズ撲滅対策に乗り出すことが明らかになった。
2・9	ベネズエラ	チャベス大統領は自身がホストを務めるテレビ番組で、ゼネストに参加した国営ベネズエラ石油の元職員を投獄する方針を発表した。
2・10	メキシコ	メキシコ市で、交通違反者から賄賂を受け取った警官と、贈賄側の違反者双方に禁固刑などの厳罰を科す新法が施行された。市内各所にある交通整理用の監視カメラ172台を汚職摘発に活用するとしている。

2・12	ボリビア	ラパスの大統領官邸近くで、待遇に不満を持った警察官や増税に反対する市民らと軍の間で衝突が発生、32人が死亡した。サンチェス (Gonzalo Sánchez de Losada) 大統領は増税法案を撤回する意向を表明、警察官と市民らに自宅や職場に戻るよう呼びかけた。
2・13	ボリビア	ラパスや近郊のエルアルトで、サンチェス大統領辞任を求めるデモが起き、国軍兵士がデモ隊に発砲、市民ら9人が死亡した。
2・14	コロンビア	南部のネイバの民家で爆発があり、警察官ら少なくとも15人が死亡、約30人が負傷した。ウリベ (Álvaro Uribe Vélez) 大統領のネイバ訪問に先立ってテロ計画の家宅捜査をしていた最中に爆発が起きた。
2・14	ベネズエラ	ペレス (Felipe Pérez Martí) 企画開発相が、2002年度の国内総生産 (GDP) が前年比8.9%減となったことを明らかにした。2002年12月からのゼネストの影響が原因。
2・14	メキシコ	財務省が2002年の国内総生産の前年比伸び率が0.9%だったと発表した。2001年のマイナス0.3%からは回復したものの、小幅の伸びに留まった。
2・15	チリ	チリ・韓国両政府が、韓国のソウルで二国間自由貿易協定に署名した。
2・18	ベネズエラ	政府と反政府派が暴力や違法な公権力行使の排除をうたった合意文書に調印した。
2・18	ボリビア	閣僚18人が全員、サンチェス大統領に辞表を提出、内閣が総辞職した。増税策に反対する警官らと国軍との衝突の責任を取ったもの。
2・19	ベネズエラ	政治混乱が続くベネズエラで、反政府派の経済団体連合会会長カルロス・フェルナンデス (Carlos Fernández Liria) 氏が捜査当局に身柄を拘束された。反政府派は「不当逮捕」として反発している。
2・21	キューバ	カストロ国家評議会議長がベトナムを公式訪問した。政府首脳と会談し、24日には非同盟諸国会議に出席するためマレーシアに向かった。
2・22	メキシコ	米ノースカロライナ州の大学病院で、肺を患ったメキシコ人少女が誤って血液型の違う心臓と肺を移植され、拒絶反応を起こしたのち、再移植を行ったが死亡した。
2・25	ベネズエラ	首都カラカスにあるスペインとコロンビアの外交施設近くで爆弾が爆発、少なくとも5人が死傷した。政治的動機に基づく犯行と考えられる。
2・26	キューバ	カストロ国会評議会議長が北京を訪問、江沢民国家主席と会談した。カストロ議長の訪中は1995年以来。
2・28	エルサルバドル	フィデル・サンチェス (Fidel Sánchez Hernández) 元大統領が死去。享年85歳。陸軍将校出身で1967年から72年まで大統領を務めた。

2・28	ブラジル	ブラジルを代表する祭典、「リオのカーニバル」が始まった。ギャング団が警察当局によるカーニバル期間の麻薬取り締まり強化に反発し、警察署や商店を襲撃した。
3・5	コロンビア	北東部ククタ市のショッピングセンター地下駐車場で、車に仕掛けられた爆弾が爆発、7人が死亡し、66人が重軽傷を負った。爆発で建物の一部も崩壊し、火災も発生した。
3・6	キューバ	人民権力全国会議（国会）は、最高指導機関にあたる国家評議会メンバーを改選し、フィデル・カストロ議長の再任を決めた。任期は5年間。
3・8	ペルー	アルバラド (Fausto Alvarado) 法相は、国際刑事機構（インターポール）が日本滞在中のフジモリ元ペルー大統領を殺人容疑などで国際手配したことを明らかにした。
3・10	キューバ	欧州連合が、キューバに外交代表部を開設した。キューバ政府が先にEUと途上国間の協力協定への加盟を申請したことに呼応した措置。
3・10	メキシコ	大統領府は、フォックス大統領が椎間板ヘルニアの手術のため入院することを明らかにした。その期間中の国連安保理でのイラク問題における対応はデルベス外相に一任される。
3・12	チリ	国連安保理理事会で、非常任理事国を務めるラゴス (Ricardo Lagos Escobar) 大統領が、イラクが武装解除に応じる可能性は少なく、米国などによるイラク攻撃は回避できないとの見通しを示した。14日、イラクの武装解除に3週間の期限を与える妥協案を提案したが、米政府は拒否した。
3・14	コスタリカ ベネズエラ	政府は南米ベネズエラの反政府ゼネストを主導したベネズエラ労働者連盟のオルテガ (Carlos Ortega) 委員長の亡命を受け入れると発表した。
3・22	コロンビア	民間航空会社コロンビア航空（アビアンカ）が、米小会社を通じニューヨーク州の裁判所に米連邦破産法に基づく会社更生手続きを申請した。負債は1億3000万ドル、85%はリース会社などへの対外債務だった。
3・31	チリ	マサド (Carlos Massad) 中央銀行総裁が、秘書による内部情報漏洩問題の責任を取って辞任した。
4・1	キューバ	キューバの「青年の島」(Isla de la Juventud)を飛び立ったキューバ航空機がハイジャックされ、フロリダ州キーウエストの空港に着陸、容疑者の男性が米当局に拘束された。乗客・乗員にけがはなかった。
4・2	キューバ	首都ハバナとハバナ湾の対岸の町を結ぶ小型連絡船が短銃やナイフを持った集団に乗っ取られ、犯人側は米国行きを要求した。その後犯人は逮捕され、11日に主犯格3人の死刑が執行された。

4・3	南米	オランダの小売業、ロイヤル・アホールドが、南米市場から撤退すると発表した。ブラジル、アルゼンチンにも出店しているが、すべて売却する方針。
4・5	ホンデュラス	北部のラセイバ近郊にあるエルポルベニール刑務所で受刑者同士の抗争から暴動が発生、86人が死亡、数十人が負傷した。脱獄者も多数あったとみられる。
4・8	中南米	国連ラテンアメリカ・カリブ経済委員会が「ラ米・カリブにおける外国直接投資2002年版」を発表した。
4・10	ブラジル	経済社会開発審議会(CDES)は、社会保障制度改革に関する提案を作成した。
4・10	ペルー ブラジル	ペルーのトレド(Alejandro Toledo Manrique)大統領がブラジルを訪問した。(-11日)
4・16	メキシコ	メキシコ市議会が、水道水の無駄遣いをした住民に高額の罰金刑を科す新条例を可決した。下水道に規定量を超える排水を流したり、有毒物質などを捨てた場合、最高13万950ペソの罰金が科せられる。
4・16	メキシコ	米大リーグ、エンゼルスを保有するウォルトディズニー社と、広告会社を経営するメキシコ系の実業家アルトゥーロ・モレーノ(Arturo Moreno)氏が、球団譲渡で基本合意したことが明らかになった。正式決定すれば筆頭オーナーとしては初のメキシコ系米国人となる。
4・21	ブラジル	南部のリゾート地カボフリオ近くで観光客ら64人が乗った船が沈没し、少なくとも12人が死亡した。
4・25	南米	メルコスル=インド第1回通商会議がパラグアイで開催された。(-26日)
4・27	アルゼンチン	大統領選挙が行われたが、いずれの候補も当選に必要な45%の得票を得られず、5月18日に決選投票が行われることとなった。
4・27	パラグアイ	大統領選挙が行われ、与党コロラド党のニカノール・ドゥアルテ(Nicanor Duarte Frutos)氏が当選した。
4・29	コロンビア	ウリベ大統領がアメリカ合衆国を訪問した。(-5月2日)
4・29	ブラジル	政府が10億ドルのドル建てグローバル債を発行した。
5・1	ベネズエラ	カラカスでメーデーに合わせたチャベス大統領の進退を問う国民投票を求める数千人のデモ隊に向けて何者かが発砲、市民1人が死亡、数人が負傷した。

5・4	ブラジル	リオデジャネイロ州で、軍警察の警官が、自分の盗難車両の犯人と勘違いして、そばにいた警官に銃弾15発を発砲、殺害する事件が起きた。結局その車両は別の車とわかり、撃った警官は逃亡したが、警察当局に逮捕された。
5・5	コロンビア	政府当局者が、左翼ゲリラ組織FARCが、誘拐していたエチェベリア (Gilberto Echeverría Mejía) 元国防相、ガビリア (Guillermo Gaviria Correa) アンティオキア県知事、国軍兵士8人の計10人を殺害したと発表した。遺体は北部ウラオで発見された。
5・8	コロンビア	南西部カリで浄水施設が爆発、近くにいた警官ら3人が死亡した。警察当局はFARCのメンバーが爆弾を仕掛けたものと見ている。
5・8	ベネズエラ	ベネズエラの政治危機打開のため1月に結成された「友好国グループ」が首都カラカスでチャベス大統領の進退を問う国民投票実施に向けた調停を再開、6ヶ国の政府高官がチャベス政権幹部らと会談した。しかし投票実施方法に関する合意には至らなかった。
5・12	コロンビア	コロンビア出身の有名F1レーサー、フアン・モントーヤ (Juan Pablo Montoya) 選手がスピード違反でフランス警察に免許証を没収された。F1レース用の運転とは関係がないため、レースへの出場には支障はない。
5・13	キューバ	米務省が、スパイ行為を行っていた在米キューバ外交官14人を国外追放すると発表した。うち7人は国連代表部、7人はワシントンの利益代表部の勤務で、10日以内の退去を求めた。
5・14	アルゼンチン	4月27日に行われた大統領選挙第1回投票で1位になり決選投票に進出を決めていたカルロス・メネム (Carlos Saúl Menem) 元大統領が決選投票の辞退を表明した。その結果、2位のネストル・キルチネル (Néstor Carlos Kirchner) サンタクルス州知事の当選が決まった。
5・14	アルゼンチン	刑務所運営の交付金をめぐりアルゼンチン連邦政府とサルタ州司法当局とのあつれきが深刻化していることが明らかとなった。連邦政府からの交付金は1997年から滞り、刑務所の収容もいっぱいとなっている。
5・19	南米 パラグアイ	第17回メルコスル都市会議がパラグアイで開催された。
5・20	パナマ	政府はSARS感染を防ぐため、中国、香港、フィリピンにある大使館と領事館を感染が食い止められるまで閉鎖し、外交官を全員召還すると発表した。
5・21	チリ	チリのラゴス大統領が教書を発表した。
5・23	ブラジル	新聞報道で、年収のうち133日分が税金として支払われていることが明らかになった。2000年以降の大幅な増税で国民の負担が大きくなったことを象徴している。

5・23	ペルー 中南米	リオ・グループ首脳会議がペルーで開催された。
5・27	チリ	サッカーの元チリ代表だったスター選手、サモラノ (Iván Zamorano) 氏が年内に引退することを発表した。
5・27	ペルー	トレド大統領が緊急のテレビ演説を行い、全土での非常緊急事態宣言発令を決定したことを明らかにした。反政府デモや自治体庁舎などの選挙が相次いでいることに対する措置。期間は5月28日から30日まで。
5・27	メキシコ	メキシコ市商工会議所のアリアガ (Juan Manuel Arriaga) 会頭が、メキシコにおけるコンパクトディスクやパソコンソフトなどの違法複製品の総売上高は年間360億ドルに達し、国内総生産の6-7%に相当すると発表した。
5・28	ペルー	給与引き上げを求めてスト中の教職員が北部チクラヨなどで国軍と衝突、教職員ら40人が負傷し、95人が拘束された。トレド大統領の公約違反や縁故採用疑惑などで政治不安が高まったため。
5・28	メキシコ	フォックス大統領が主要国首脳会議(エビアン・サミット)の場でサミットの正式メンバー入りを要請する予定であることが明らかになった。
5・29	ベネズエラ	反大統領派と政府側が、憲法順守や暴力の排除などをうたった合意文書に調印した。しかし大統領罷免国民投票については憲法規定を再確認するにとどまった。
5・29	ペルー	南部プノ県でストライキに同調した大学生と、軍や警察などの治安部隊が衝突、学生1人が死亡、20人以上が負傷した。
6・3	南米	アンデス共同体とインド政府は、政治・協力対話の設置に関する合意文書に署名した。
6・4	ペルー	ソラリ (Luis Solari) 首相と教職員組合のロペス (Nilver López) 書記長がリマで共同会見を行い、トレド大統領の任期が切れる2006年7月までに給与を倍増させるなど40項目で基本合意に達したことを発表した。
6・5	メキシコ	東部バラストレラで、河川の氾濫によりガスパイプラインが損傷し爆発した。少なくとも2人が死亡、28人が行方不明、80人が負傷した。
6・6	チリ	米国とチリが自由貿易協定(FTA)に調印した。米国が南米諸国を相手にFTAを結ぶのは初めて。
6・7	エクアドル	2002年のサッカー・ワールドカップ日韓大会の韓国対イタリア戦で疑惑の判定をしたモレノ審判が、エクアドル・サッカー協会に辞表を提出した。国内のリーグ戦でロスタイムを12分も取るなど能力を疑問視されたため。
6・8	メキシコ	内務省が、未成年者へのアダルト雑誌や成年コミックなどの販売規制を強化する方針を固めたと発表した。

6・8	中南米 チリ	第33回米州機構(OAS)総会がチリで開催された。(-10日)
6・9	チリ	パウエル (Colin Powell) 米国務長官がチリでラゴス大統領と会談した。この会談により、国連安保理でのイラク戦争前の対立関係が和解したものとみられている。
6・12	メキシコ	フォックス大統領はブレイディ債の繰上げ償還を実施した旨発表した。
6・13	ベネズエラ	首都カラカスで数千人規模の反政府デモが行われ、大統領支持派と衝突しそうになったため、警察当局が介入、市民ら16人が負傷した。
6・17	アルゼンチン	オランダ・ハーグに創設された国際刑事裁判所(ICC)の主任検察官にアルゼンチンの弁護士ルイス・モレーノ・オカンポ (Luis Moreno Ocampo) 氏が就任した。
6・18	南米 パラグアイ	メルコスルの首脳会議が、パラグアイの首都アスンシオンで開催され、2006年までに共通市場の創設を目指すことで合意した。
6・20	ブラジル	ワシントンのホワイトハウスでブッシュ米大統領とルラ・ダシルバ・ブラジル大統領が会談、米州自由貿易地域(FTAA)構想について高官レベルの作業委員会を作り、対立点解消のため協議を続けていくことで合意した。
6・21	中南米	米商務省・国勢調査局がヒスパニック系の人口がアフリカ系(黒人)を抜き、米国の少数民族の中で初めて最大勢力になったと発表した。
6・23	ペルー	ソラリ首相が、低迷しているトレド政権の支持率回復を狙って、内閣改造を行なうと発表した。
6・24	アンティグア・ バーブーダ	政府はインターネット上でギャンブルができるオンラインカジノへの米国の規制を不当とし、世界貿易機関に紛争処理小委員会の設置を申し立てた。
6・24	チリ	チリ南部プエルトモン近郊の太平洋岸に全長12メートルに及ぶゼラチン質の巨大生物の死骸が漂着した。その後専門家によって確認が行われ、7月11日にマッコウクジラの死骸の一部であることが判明した。
6・25	ブラジル	首都ブラジリアで黒人の文化人8人がテレビや映画で出演者の3割以上を黒人に割り当てることを求める提案を行った。ルラ・ダシルバ政権が11月に人種差別撤廃のプログラムを公表することに呼応したものの。
6・25	ウルグアイ	イエロ (Luis Hierro López) 副大統領が、1月の債務危機の際に国際通貨基金がウルグアイの経済スタッフを信用せず、債務の借り換えではなく、デフォルトに陥るよう勧めていたことを明らかにした。

6・25	ブラジル	国立宇宙研究所(INPE)の調査で、2001年7月からの1年間に、アマゾン地域の約25500平方キロの森林が焼失したことが発表された。前年の調査より焼失面積は4割近く増加、山焼きや違法伐採の拡大が懸念される。
6・25	メキシコ	レフォルマ紙の報道で、1月から5月に約23000件の児童虐待が政府系団体に報告され、前年の倍以上のペースで児童虐待が急増していることが明らかとなった。
6・26	チリ	チリ政府と欧州自由貿易連合(EFTA)は、ノルウェーで自由貿易協定に署名した。
6・27	アルゼンチン	ナサレノ (Jorge Nazareno) 最高裁長官が辞任。キルチネル新政権が国会に同長官の弾劾審議を要求しているが、それに対する十分な反論の機会を与えられていないとの理由で辞任したもの。
6・28	ペルー	トレド大統領が閣僚16人のうち8人を交代させる内閣改造を実施、首相に同国で初めて女性のベアトリス・メリノ (Beatriz Merino) 元国会議員を起用した。
6・28	メキシコ アルゼンチン	メキシコ政府が、リカルド・カバロ (Ricardo Cavallo) 元アルゼンチン海軍少将の身柄をスペイン政府に引き渡した。軍事政権下での虐殺や拷問に関与した疑いがあるとして、スペインの判事が身柄の引渡を要求していた。
6・28	南米 パラグアイ	国際サッカー連盟(FIFA)理事会が開催され、2006年ドイツ大会の出場枠について、南米連盟の提案で南米枠が0.5増えることとなった。
6・28	南米	アンデス共同体の首脳会議がコロンビア北西部キラマで開かれ、メルコスルとの自由貿易協定締結交渉を進めることを決めた「キラマ宣言」を採択して終了した。
7・1	ブラジル	開発商工省は、2003年上半期の貿易収支が104億ドルの黒字に達したと発表した。
7・4	コロンビア	検察当局は、左翼ゲリラ組織FARCのマヌエル・マルランダ (Manuel Marulanda) 最高司令官と側近のホルヘ・ブリセニョ (Jorge Briceño) 司令官を身柄未確保のまま麻薬不正取引の罪で司法当局に起訴した。
7・6	グアテマラ	1980年代の人権侵害で悪名高いリオス・モント (José Efraín Ríos Mont) 元大統領が大統領経験者の立候補を禁じた憲法規定を無視する形で大統領に名乗りをあげたところ、最高裁判所が資格不適との決定を出した。同氏は決定を不服として憲法裁判所に提訴する意向を示した。

7・7	ブラジル	ブラジル・オリンピック委員会(COB)は、2012年の夏季オリンピックに向けた国内候補地の最終選考を行い、リオデジャネイロがサンパウロをおさえて候補地に選ばれたことを発表した。15日に国際オリンピック委員会に正式に立候補の意思を伝えた。
7・10	ペルー	首都リマから約350キロ南東に位置する山岳地帯で軍治安部隊がゲリラに襲撃され、兵士5人と住民2人が死亡した。治安当局は左翼ゲリラ、センドロ・ルミノソの武闘派グループによる犯行とみている。
7・10	ペルー	ウェブ (Richard Webb) 中銀総裁が辞任した。
7・13	キューバ	映画「ブエナ・ビスタ・ソシアル・クラブ」への出演で一躍世界的に有名になった、キューバの歌手・ギタリスト・作曲家、コンパイ・セグンドことフランシスコ・レピラード (Compay Segundo / Francisco Repilado) 氏がハバナの自宅で死去した。享年95歳。
7・14	メキシコ	メキシコ中央選管が、7月6日に実施した実施した下院選挙の結果を明らかにし、与党の国民行動党が49議席を減らし153議席と大敗、野党の制度的革命党は17議席を増やし224議席、革命民主党は95議席に倍増した。
7・15	コロンビア	極右武装集団・コロンビア自警軍連合(AUC)が2005年末までに武装解除することで政府と合意したことが明らかとなった。
7・16	キューバ	「サルサの女王」と呼ばれ、キューバ出身で亡命後は長くアメリカで活躍した歌手、セリア・クルース (Celia Cruz) 氏が米ニュージャージー州の自宅で死去。享年77歳。
7・18	メキシコ	社会保険機構の調査結果で、小学生の15%が自殺を考え、このうち5%が実行に移したことが明らかとなった。動機には親の暴力や性的虐待、成績不振などが挙げられている。
7・20	ベネズエラ	チャベス大統領の辞任を求める国民投票の実施を要求する有権者約250万人の署名を、反大統領派市民組織が選挙管理当局に提出した。
7・21	ハイチ	プチアゴープで夜野外で行われたバスケットボールの試合中に2500ボルトの高圧線が観客席に落下、15人が感電死し、2人がやけどを負った。
7・22	キューバ	中央銀行は、国営企業が国内取引で米ドルを使用することを禁じるなどの規制を導入した。
7・22	メキシコ	反政府組織サパティスタ国民解放軍(EZLN)のリーダー、マルコス副司令官 (Comandante Marcos) が、政府との和平交渉を見限る声明を発表したことが明らかになった。
7・23	アルゼンチン	キルチネル大統領が訪米し、ブッシュ大統領と会談した。

7・24	アルゼンチン	司法当局が、1976-1983年の軍政時代に行われた人権侵害事件に関与したとして、ホルヘ・ビデラ (Jorge Rafael Videla) 元大統領ら46人に対する拘束命令を出した。スペイン司法当局からの引き渡し要請を受けたもの。25日にはキルチネル大統領が引き渡しに前向きの意向を示した。
7・24	グアテマラ	グアテマラ市でかつての独裁者であるリオス・モント元大統領を支援する集会が開かれ、それを取材しようとした報道陣を集会参加者が襲い、テレビ局のリポーター1人が死亡した。
7・25	コロンビア	警察当局が、首都ボゴタの北西190キロのソンソン近くで1.1トン、首都から北東へ約800キロのウリビア付近から1トンのコカインと400キロのマリファナを発見したことを明らかにした。
7・26	キューバ	キューバ革命のさきがけとなった1953年のモンカーダ兵営襲撃事件50周年を迎え、フィデル・カストロ国家評議会議長が東部サンティアゴ・デ・クーバで記念演説を行い、欧州連合に対して批判を行った。
7・27	メキシコ	アステカ競技場でサッカー・ワールドカップ (北中米カリブ海選手権) の決勝戦が行われ、メキシコが延長戦の末、ブラジルを破り、1998年大会以来の優勝を勝ち取った。
7・28	ドミニカ共和国 エクアドル	グスタボ・ノボア (Gustavo Novoa Bejarano) 前エクアドル大統領が、ドミニカ共和国に亡命申請を行ったことが明らかになった。前大統領に対しては2000年の対外債務の借り換えの際に、不利な条件を設定して国庫に約90億ドルの損害を与えた容疑が浮上している。
7・30	ブラジル ガイアナ	ジャグデオ (Bharrat Jagdeo) ガイアナ大統領がブラジルを訪問、ルラ・ダシルバ大統領と会談した。
7・30	メキシコ	ドイツの国民車フォルクス・ワーゲン「ビートル」の生産を世界で唯一続けてきたメキシコのプエブラ工場で最後の旧型ビートルが生産ラインを出た。これで1938年以来世界中で親しまれてきたビートルの生産が終了する。
7・30	メキシコ	米マイクロソフト社のビル・ゲイツ (Bill Gates) 会長がメキシコの大手メディア・グループ、グルーボ・テレビサに出資したことが明らかになった。ヒスパニック系人口の増加に伴うスペイン語放送の需要増加を見込んだものと推測される。
7・31	グアテマラ	1982年から1年半大統領をつとめ、先住民大量虐殺の責任者とされているリオス・モント元大統領が2003年11月に予定されている大統領選挙の与党候補として正式に認められた。米国政府や人権団体が強く反対している。

7・31	コロンビア ブラジル	ドビルパン (Dominique de Villepin) 仏外相が、左翼ゲリラに誘拐されたコロンビアの元大統領候補イングリッド・ベタンクール (Ingrid Betancourt) 氏の救出作戦をブラジル＝コロンビア国境で独自に展開し失敗、ブラジルとの外交関係が悪化していた件で、ブラジルのアモリン (Celso Amorim) 外相に電話で謝罪した。
8・1	メキシコ	北部国境地帯のヌエボ・ラレド中心部で、軍が麻薬組織が乗っているとみられる車にバズーカ砲を発射した。乗っていた3人が死亡、6人が負傷した。
8・7	パナマ パラグアイ	台湾の呂秀蓮副総統が、パナマとパラグアイを訪れるため出発した。日程は14日間の予定。
8・7	ジャマイカ	政府は著名なレゲエ音楽家ジミー・クリフ (Jimmy Cliff) 氏に国家栄誉勲章を授与すると発表した。
8・8	コロンビア	北東部アラウカ県サラベナで国軍部隊がパトロール中、自動車に仕掛けられた爆弾が爆発、周辺にいた民間人5人が死亡した。軍当局はFARC等左翼ゲリラの犯行の可能性があるとみている。
8・8	パナマ	台湾経済部が、パナマとすすめてきた自由貿易協定(FTA)締結交渉がまとまり、8月21日にモスコソ (Mireya Elisa Moscoso de Arias) 大統領が台北を訪問し調印式を行うことを発表した。
8・8	ベネズエラ	反政府勢力が、チャベス大統領の罷免国民投票を求める署名を8月20日に全国選挙評議会に提出することを決めた。
8・9	アルゼンチン	政府は約29億ドルの対IMF債務を不履行とした。翌々11日にIMFとの新規プログラムに合意、9月11日に全額返済した。
8・14	メキシコ	南東部チアパス州の先住民系武装組織サパティスタ解放軍(EZLN)が、州内の支配地域を独自に統治するとして「自治政府」樹立を宣言した。
8・15	パラグアイ	ニカノール・ドゥアルテ新大統領が就任した。
8・16	ガイアナ	北部アマゾン地域でマデイラ川を運航していた客船が転覆、子供を含む10人が死亡、約20人が行方不明となった。
8・17	コロンビア	北西部アンティオキア県グラナダ近郊で、ウリベ大統領を乗せたヘリコプターが地上から銃撃を受け、近くの空港に緊急避難した。FARCによる犯行と見られている。
8・17	コロンビア	イギリスの調査会社、世界市場調査センターが、「世界テロリズム」指数をまとめ、もっとも大規模なテロ攻撃を受ける可能性があるのはコロンビアと発表した。
8・18	アルゼンチン	米国、カナダ、アルゼンチンの3ヶ国が、欧州連合(EU)による遺伝子組み換え食品の輸入規制が世界貿易機関(WTO)のルール違反だとして、WTOに紛争処理小委員会の設置を求めた。

8・19	ブラジル	バグダッドで国連現地本部を狙った爆弾テロ事件が発生、ブラジル人のセルジオ・デメロ (Sergio Vieira de Mello) 国連事務長特別代表が死亡した。ブラジルで葬儀が行われた後、家族と暮らしたジュネーヴでも葬儀が行われ、同地に埋葬された。
8・21	ブラジル	ルラ・ダシルバ大統領が、新アマゾン開発庁(SUDAM)設立法案に署名した。
8・22	ブラジル	北東部マラニョン州アルカンタラ宇宙基地で、打ち上げ前のロケットが爆発し、21人が死亡、20人以上が負傷した。
8・24	コロンビア	メタ県プエルトリコのアリアリ川で、客船から下船した女性の所持品が爆発、さらに船内でも爆発があり、7人が死亡、約40人が負傷した。FARCのしわざと考えられる。
8・24	コロンビア	FARCと民族解放軍(ELN)が軍事同盟の締結で合意していたことが明らかとなった。
8・24	ハイチ	北部カパイシアン郊外で、トロピカル航空の国内線小型旅客機が離陸直後に爆発、サトウキビ畑に墜落した。乗員・乗客21名は全員死亡した。
8・25	セントクリストファー・ネビス	パリ郊外のフランス競技場で行われた陸上の世界選手権男子100メートル決勝戦が行われ、セントクリストファー・ネビスのキム・コリンズ (Kim Collins) 選手が10秒07で優勝し金メダルを獲得した。内閣は8月25日を「キム・コリンズ記念日」に制定することを決めた。
8・25	ペルー	ペルーのトレド大統領が、ブラジルのルラ・ダシルバ大統領とともにリマで、ペルーやブラジルなど6ヶ国が正式・準加盟するメルコスルに準加盟する文書に署名した。
8・25	ペルー	ペルー・米国犯罪人引渡条約改正に関する批准書の取り交わしが米国で行われ、同日発効した。
8・26	アルゼンチン チリ	アルゼンチンとチリの外相・国防相が会談し、ビーグル海峽における共同作業を定めた軍事協力協定に署名した。
8・26	メキシコ	「自宅に空き巣がいる」との通報を受けて民家に入った警官2人が泥棒をはたらき逮捕された。
8・27	ペルー	民間調査会社の発表によると、2006年に予定される次期大統領選挙での投票行動調査で、日本滞在中のフジモリ大統領が18%の支持を集め、2位となったことが明らかとなった。
8・28	キューバ	ベテラン葉巻職人ホセ・カステラル (José Castelar Cairo) 氏が5日ばかりで作った約14メートルの葉巻がギネスブックに世界最大の葉巻として認定された。
8・28	ペルー	米輸出入銀行は、ペルー山間部にある南米最大級のカミセア天然ガス田の開発に対する2億1400万ドルの融資計画を白紙撤回した。

8・30	ホンデュラス	北部サンペドロスーラで、路線バス3台が相次いで武装集団に襲撃され、計13人が死亡、10人以上が負傷した。事件に関与した4人が逮捕されたが、動機や背景は不明。
8・31	メキシコ	携帯電話最大手アメリカモバイルが、ブラジルの同業大手BCPを買収することで合意に達したことが明らかとなった。
9・2	メキシコ	フォックス大統領は、マルテンス (Ernesto Martens) エネルギー相とリチティンヘル (Victor Lichtinger) 環境・天然資源相を更迭した。
9・4	ブラジル	ペトロブラスが、サンパウロ沖で大型天然ガス田を発見した旨発表した。
9・9	アルゼンチン	政府が、この日に償還期限を迎えた国際通貨基金(IMF)向けの債務約29億ドルを返済しなかった。債務不履行の額としては過去最大規模。
9・10	メキシコ	カンクンで世界貿易機関(WTO)の閣僚会議が開幕。メキシコの先住民や世界各地から参加した農民ら約5000人が反WTOを主張し抗議デモを行った。一部が治安部隊と衝突し、デモ隊の1人が抗議自殺をした。また、もみ合いにより自分のナイフで胸を刺した韓国の農民が死亡した。
9・12	ベネズエラ	全国選挙評議会はチャベス大統領の罷免国民投票を実施を求めて反大統領派が提出した約320万人分の署名簿を無効とする決定を下した。判断は「大統領の任期6年の半分が経過した8月19日以降に集めた署名でない」と無効」との憲法の解釈によるもの。
9・12	メキシコ	メキシコ・カトリック教会のトップである枢機卿が麻薬組織と関係している疑いで検察当局に取調べを受けている事実が明らかになった。教会側は政府を非難している。
9・13	アルゼンチン	政府は今後3年間に償還期限を迎える国際金融機関向けの債務約210億ドルについて返済を繰り延べることなどで、国際通貨基金と合意したと発表した。
9・15	中米 ニカラグア	第7回米国・中米自由貿易協定交渉がニカラグアで開催された。 (-19日)
9・17	ペルー	リマ郊外で爆発物製造会社の倉庫内で爆発があり、作業員4人が死亡、11人が負傷した。
9・17	中南米	米州機構が、麻薬密輸に絡む南北アメリカの逮捕者は、米国が一番多く、ついでアルゼンチン人10万2000人、ペルー人9万1000人、チリ6万8000人、メキシコ6万4000人となっていることが明らかになった。
9・19	ベネズエラ	ドイツやベネズエラなどの共同研究チームが米科学誌に、ベネズエラの約800万年前の地層から牛ほどの大きさのモルモットの化石が見つかったことを発表した。

9・22	ドミニカ共和国	北部でマグニチュード6.5の強い地震が発生、ショックで心臓発作を起こした2人が死亡したほか、ガス爆発などで10数人が負傷した。その後も余震が続き、数千人が非難する騒ぎとなった。
9・22	南米 ウルグアイ	第2回メルコスル＝アンデス共同体技術会合がウルグアイで開催された。
9・23	アルゼンチン	政府がアラブ首長国連邦のドバイで、約943億ドルの対民間債務のうち、75%を削減することを柱とする債務返済案を民間債権者に提案した。債権者側の反対は必至と見られる。
9・23	チリ	最高裁が、チリ企業によるカナダ及びEU製の自動車に対する奢侈税の適用除外を求めた上告を棄却した。
9・24	ペルー	リマの裁判所が、フジモリ元大統領の義弟で、日本滞在中の元駐日大使のビクトル・アリティミ (Victor Aritomi) 氏の逮捕状を出した。
9・26	ブラジル キューバ	ブラジルのルラ・ダシルバ大統領がハバナでカストロ国家評議会議長らキューバ政府高官と会談、経済・医療・教育分野の協力で合意した。
9・28	コロンビア	南西部カケタ県フロレンシアで、オートバイに仕掛けられた爆弾が爆発、少年を含む11人が死亡、約50人が負傷した。FARCの犯行と見られる。
9・29	トリニダード・トバゴ カリブ地域	第15回FTAA貿易交渉委員会がトリニダード・トバゴで開催された。(・10月3日)
9・30	ペルー	ディエス・カンセコ (Raúl Diez Canseco) 第1副大統領兼商観光相が、米国議会がペルーとのFTA交渉につき前向きな見方をするよう期待していることを述べ、来年交渉が再開されるようゼリック (Robert Zoellick) USTR代表と話し合っていることを明らかにした。
10・2	メキシコ	日用品大手のヘンケル (ドイツ) は、メキシコの複合企業DESCグループから接着剤・建設資材事業部門を買収したことを明らかにした。
10・3	キューバ	反体制民主化運動を率いるオスバルド・パヤ (Osvaldo Payá Sardiñas) 氏が、市民権の拡大の是非を問う国民投票を行うよう求める14384人の署名簿を国会に提出した。
10・4	南米	メルコスル臨時共同市場審議会(CMC)がウルグアイで開催された。
10・8	コロンビア	首都ボゴタにある商店街で車に仕掛けてあったとみられる爆弾が炸裂し、警官2人と民間人2人が死亡、少なくとも10人が負傷した。

10・9	メキシコ	国営石油会社ペメックスが北部の天然ガス開発に関して、スペイン系企業レプソルYPFにプラント建設などの業務を委託すると発表した。
10・10	キューバ	ブッシュ米大統領がホワイトハウスで演説し、キューバのカストロ政権への圧力を強化するため、米国民の対キューバ渡航規制の徹底やキューバから米国への亡命者受け入れを増大する方針を発表した。
10・12	ボリビア	西部エルアルトで米国への天然ガス輸出計画に反対してサンチェス大統領の辞任を求めるデモ隊が治安部隊と衝突、デモ参加農民ら少なくとも70人が死亡、250人以上が負傷した。13日に大統領は混乱收拾のためガス輸出計画中断を発表した。
10・14	ペルー	アンデス共同体外相理事会は、次期事務局長にバグネル (Alan Bagner) ペルー外相を指名した。
10・15	ウルグアイ メキシコ	メキシコ・ウルグアイ両国大統領が、自由貿易協定に指名した。
10・17	ボリビア	サンチェス大統領が辞任を発表。天然ガス輸出計画に反対する大規模なデモが各地で発生、辞任に追い込まれたもの。後任はカルロス・メサ (Carlos Mesa Gisbert) 副大統領。
10・20	ボリビア	カルロス・メサ大統領がラパスで農民約5000人と集会を開き、先住民主体の農民団体代表は、3ヶ月間の反政府運動停止を約束した。
10・20	中米	第8回米国・中米自由貿易協定交渉が米国のヒューストンで行われ、協定発効から10年以内の関税撤廃等につき大筋で合意した。
10・21	ブラジル	ブラジルとウクライナ両政府は、共同宇宙開発計画にかかわる協定に調印した。
10・23	アルゼンチン	政府は国民に読書を勧めるため、サッカーをテーマにした冊子計40万部を試合会場で配布する計画を発表した。「読めば勝利のプログラム」と名付けられた。
10・23	ブラジル メキシコ	国連安全保障理事会は、2004年1月からの次期非常任理事国としてアルジェリア、ベニン、ブラジル、フィリピン、ルーマニアの5ヶ国を選出した。現在の10非常任理事国のうち、任期が切れるメキシコなど5ヶ国と交代する。
10・24	メキシコ	地元非政府組織(NGO)が、北部の都市シウダーフアレスで、10年間に375人の若い女性が相次いで殺される事件が起こったことを明らかにした。11月24日には全国人権委員会が調査報告書を議会に提出した。
10・25	コロンビア	憲法改正に関する国民投票が実施された。
10・26	コロンビア	統一地方選挙が行われた。

10・27	中南米	米州機構(OAS)西半球安全保障会議がメキシコで開催された。 (-28日)
10・28	メキシコ	米カリフォルニア州南部で発生した山火事が、メキシコ国境を越え、メキシコ側でも2人の死者が出た。
10・30	ボリビア チリ	シーレス (Juan Ignacio Siles del Valle) ボリビア外相がチリとの自由貿易協定交渉の年内合意を断念する旨発表した。
10・31	メキシコ	下院が、連邦選挙委員会(IFE)の委員を改選した。
11・3	ウルグアイ メキシコ	メキシコ・ウルグアイ両国は、自由貿易協定の内容全体に関する交渉を終了した。
11・3	パナマ	パナマ市で独立100周年記念式典が行われた。出席した台湾の陳水扁総統とパウエル米国务長官が言葉を交わし話題となった。
11・4	ブラジル	政府はIMFの金融支援を2004年以降も受け入れる考えを明らかにした。
11・6	コロンビア	ロンドーニョ (Fernando Londoño Hoyos) 内務法務相が辞任した。前日にウリベ大統領が大統領選挙を前倒し実施すると発言、その後すぐ打ち消すなどして混乱をまねいた責任を取った。
11・8	ブラジル	ルラ大統領が、南アフリカのプレトリアでムベキ (Thabo Myuyelwa Mbeki) 南アフリカ大統領と会談、途上国連合を強化し、世界貿易機関で共闘していく方針を明らかにした。
11・9	ドミニカ共和国	国際バレーボール連盟が、W杯に出場しているドミニカ共和国代表、ヌリス・アリアス (Nurys Arias Done) 選手がドーピング検査で陽性反応を示したと発表した。2年間の資格停止処分が科せられる。
11・9	ブラジル	サンパウロの刑務所で、受刑者87人が刑務所内から外部の下水溝につながる約120メートルのトンネルを通過して脱走を図った。途中でトンネルが崩れ、8人が生き埋めとなり死亡、1人が警官に射殺された。脱走したうち48人が拘束された。
11・10	グアテマラ	大統領選挙が実施され、いずれの候補も過半数を占めることが出来ず、中道右派「国民大連合」のオスカル・ベルシェ (Oscar Berger)氏と中道左派「国民希望党」のアルバロ・コロム (Álvaro Colom) 氏の上位2名による決選投票が行われることとなった。内戦時代の独裁者リオス・モント候補は敗北した。
11・10	ペルー	ディエス・カンセコ第1副大統領兼貿易相が辞任、後任にはアルフレド・フェレーロ (Alfredo Ferrero) 貿易次官が就任した。
11・11	ドミニカ共和国	首都サントドミンゴなど主要都市で、メヒア (Hipólito Mejía) 政権の経済政策に抗議するデモ隊が治安当局と衝突、6人が発砲を受け死亡、約70人が負傷した。

11・12	ペルー	軍事法廷最高会議(CSJM)戦時法廷は、日本大使公邸占拠事件の救出作戦で、MRTAメンバーを超法規的に処刑したとして訴えられていた100名以上の軍人に対して無罪とする判決を下した。
11・12	南米	メルコスル・EUの閣僚級会合がベルギー・ブリュッセルで開かれ、自由貿易協定の交渉スケジュールについて合意した。
11・14	中南米	イベロアメリカ首脳会議が、ボリビア東部サンタクルスで開幕した。2005年発足予定の米州自由貿易地域(FTAA)交渉で争点となっている農業補助金問題が最優先課題となった。(15日)
11・15	コロンビア	首都ボゴタでパブ2店で手榴弾が爆発し、1人が死亡、70人以上が負傷した。犯人1人を逮捕、FARCのメンバーとみられる。
11・15	メキシコ ウルグアイ	メキシコ、ウルグアイの両大統領が自由貿易協定に署名した。両国議会での批准を経て正式に発効する。
11・18	中南米	ゼーリック米国USTR代表は、コロンビア、ペルー、エクアドル、ボリビアのアンデス4ヶ国、パナマ、ドミニカ共和国との自由貿易協定交渉を開始するというブッシュ大統領の意図を上下両院に通報した。
11・20	中南米	米州自由貿易地域(FTAA)貿易相会議が米国のマイアミで開催された。
11・20	メキシコ	「米国はメキシコを裏庭としか思っていない」と発言し、本国政府から召還を言い渡されたアギラール・シンセール(Adolfo Aguilar Zinser)国連大使が、政府に辞表を提出し国連を去った。
11・21	ペルー	トレド大統領が、2003年8月に真相究明和解委員会(CVR)が大統領に提出した最終報告書に関する政府の見解および今後の方針について発表した。
11・22	メキシコ	第20回メキシコ・米国二国間委員会が米国ワシントンで開催された。
11・25	コロンビア	コロンビア最大の極右武装集団、コロンビア自警軍連合のメンバーが北西部メデジンで政府による武装解除に応じた。
11・26	ブラジル	開発商工省は、工業・科学技術・貿易に関する新政策の指針を発表した。
11・27	アルゼンチン	ラバーニャ(Roberto Labaña)経済相は、アルゼンチンが経済危機から脱したと宣言した。
11・28	南米	メルコスルとアンデス共同体は、自由貿易協定を近く署名することで基本合意に達した。
11・29	コロンビア	バグダッド北方で軍関係業者の車列が襲撃を受け、コロンビア人1人が殺害された。
12・2	ブラジル	ルラ・ダシルバ大統領が中東諸国を歴訪した。

12・8	キューバ	映画「ブエナ・ビスタ・ソシアル・クラブ」にも出演したキューバの伝説的ピアニスト、ルベーン・ゴンサレス (Rubén González) 氏がハバナの自宅で死去。享年84歳。
12・9	メキシコ	米食品医薬品局は、ペンシルバニア州などで9月から相次いで発生した3件のA型肝炎の集団感染について、原因食材とされるねぎ類がいずれもメキシコの生産業者から輸入されたものだと発表した。
12・9	メキシコ	メリダで「腐敗の防止に関する国際連合条約署名会議」が開催された。
12・10	チリ	政府はニュージーランドおよびシンガポールとの自由貿易協定交渉を中断すると発表した。
12・12	ブラジル	IMF理事会はブラジルに対する140億ドルの新規借款を全会一致で承認した。
12・12	ブラジル	世界貿易機関(WTO)の途上国グループ会合がブラジルで開催された。
12・12	ペルー	トレド大統領がメリノ首相ら全閣僚の辞任を要求した。全閣僚の交代を決断したのは異例のこと。15日にカルロス・フェレロ (Carlos Ferrero) 国会議員が首相に任命された。
12・12	メキシコ	独フォルクスワーゲンは、2008年までにメキシコに20億ドルを投資する。2005年からメキシコ市の南東側プエブラにある工場で主力の新小型車を生産する予定。
12・15	南米	アンデス共同体と欧州連合はローマで、両者間の政治対話および協力に関する合意文書に署名した。
12・16	ペルー 南米	南米4ヶ国で構成するメルコスルが、ウルグアイのモンテビデオで首脳会議を開き、ペルー、ボリビアなど5ヶ国で構成されるアンデス共同体と自由貿易協定を締結した。
12・17	中米	アメリカとエルサルバドル、グアテマラ、ホンデュラス、ニカラグアの中米4ヶ国が中米自由貿易協定 (CAFTA)の締結に最終合意した。2004年前半の発足を目指す。
12・19	アルゼンチン	連邦地裁は、海外の銀行口座を申告していなかった罪で、カルロス・メネム元大統領を在宅起訴した。
12・19	ブラジル	サッカーの世界ユース選手権で、ブラジルがスペインを破り、5大会ぶりに優勝した。
12・22	ブラジル	上下両院合同予算会は、2004年度の予算を可決した。
12・23	ボリビア	中部コチャバンバ県でチャパレ川が豪雨で氾濫して橋が崩壊、通行中のバスなど車両数台が川に転落、約50人が行方不明となった。

12・24	メキシコ	食糧衛生担当者が、米国でBSE（牛海綿状脳症、狂牛病）感染の疑いのある牛が見つかったことを受け、米国産牛肉の輸入を一時的に停止したことを明らかにした。
12・28	グアテマラ	グアテマラで大統領選挙の決選投票が行われ、中道右派の国民大連合のオスカル・ベルシエ氏が当選した。任期は4年。

参考文献

- (1)『朝日新聞縮刷版』『日本経済新聞縮刷版』(2003年各月号)。
- (2)日経ニュース・テレコン。
- (3)イペロアメリカ研究所新聞切抜き(2003年)。
- (4)「ラ米における主なできごと」『ラテン・アメリカ時報』2003年2月－2004年2月

Sophia-R

Sophia University Repository for Academic Resources

Title	〈資料〉 ラテンアメリカ日誌—2004年—
Author(s)	
Journal	イペロアメリカ研究, 27(1)
Issue Date	2005-07-29
Type	紀要/Departmental Bulletin Paper
Text Version	出版者/Publisher
URL	http://repository.cc.sophia.ac.jp/dspace/handle/123456789/9551
Rights	



上智大学
Sophia University

<http://www.sophia.ac.jp>

ラテンアメリカ日誌－2004年－

月 日	国名	記事
1・1	パナマ	パナマ・台湾自由貿易協定が発足した。
1・1	ブラジル	連邦警察は入国する米国市民に対し、指紋と顔写真の登録を始めた。米政府が1月5日からビザを取得して入国するすべての外国人に指紋と顔写真の登録を行うことへの報復措置。
1・6	ドミニカ	ピエール・チャールズ(Pierre Charles)首相が、心不全のため首都ロゾーの病院で死去。49歳。2000年に死亡した故ダグラス(Rosie Douglas)首相の後をついで首相に就任していた。
1・7	ブラジル	政府が米国人のみを対象に顔写真撮影と指紋採取を始めた事に対し、在ブラジル米国大使館が抗議声明を出したと報じられた。テロ対策として米国で始められた同様の措置に反発して取られた政策だが、急な決定だったため準備が間に合わず、入国手続きで最高9時間も待たされる米国人が続出したため。
1・7	メキシコ	ブッシュ(George W. Bush)米大統領は、メキシコなどから不法に米国に入国してすでに職を得ている労働者に対し、3年間の期限付きで合法的就労資格を与える方針を発表した。
1・9	ブラジル	米国政府のテロ対策に対抗し、ブラジル政府が米国人だけを対象として入国時に空港などで顔写真撮影と指紋採取をしていた問題で、リオデジャネイロにあるブラジル連邦裁判所は対抗措置取りやめを命じる決定を出した。同市が「カーニバルなどを前にして、観光への打撃が大きい」と取りやめを求めて訴えていた。
1・12	中南米	米州機構(OAS)特別首脳会議がメキシコのモンテレイで開催され、米大陸34カ国の首脳が参加した。米国が難航している米州自由貿易圏(FTAA)の交渉促進を呼びかけた一方、ブラジルやベネズエラなどの首脳はFTAA構想を相次いで批判した。(13日)
1・19	コロンビア	2002年2月に左翼ゲリラに誘拐され、いまだに解放されていない元大統領候補、イングリッド・ベタンクール(Ingrid Betancourt)氏が、2004年のノーベル平和賞候補に推薦されたことが明らかになった。
1・21	アルゼンチン	経済の混迷が始まった1998年4月から景気が上向きに転じた2003年4月までの5年間で、民間企業19万8000社が倒産に追い込まれていたことが、労働・雇用・社会保障省の調査で分かった。
1・21	ブラジル	リオデジャネイロのスラム街で麻薬組織同士の抗争による発砲事件が相次ぎ、組織のメンバーら少なくとも13人が死亡した。鎮圧にあたらうとした警察官にも数人の負傷者が出ている。
1・22	キューバ	ギリシャ正教など世界の東方正教会を代表するコンスタンチノーブル総主教庁のワルフォロメオス(Bartholomew)1世総主教は、カストロ(Fidel Castro)国家評議会議長の招きに応じてキューバを公式訪問した。正教会の指導者がラテンアメリカを訪れたのは、史上初めて。
1・22	セントルシア	東カリブ諸国機構(OECS)首脳会議が開催された。(23日)
1・22	ブラジル	中央銀行は2003年度の経常収支が40億5100万ドルの黒字だったと発表した。輸出拡大を主要因に1993年以来初の経常黒字を計上した。

1・23	ブラジル	ルラ(Luiz Inácio Lula da Silva) 大統領が、5閣僚を入れ替え、2省を新設する内閣改造を実施した。これまで閣外協力にとどまっていたブラジル民主運動党からは、アミル・ランド(Amir Lando) 社会保障相とエウニシオ・オリベイラ(Eunício Oliveira) 通信相が入閣した。
1・25	コスタリカ	政府は、米国政府との間で米国・中米自由貿易協定(CAFTA)に関する二国間交渉を行い、合意に達した。
1・25	ブラジル パラグアイ	サッカー男子のアテネ五輪南米最終予選がチリのビニャデルマルで行われ、ブラジルが0-1でパラグアイに敗れアテネ五輪の出場権を逃した。ブラジルが五輪に出場できないのは、1992年のバルセロナ五輪以来3大会ぶり。
1・30	ブラジル	中央銀行は、2003年の財政収支が661億7000万レアルの黒字だったことを発表した。国民総生産(GDP)比では4.32%と、国際通貨基金(IMF)と合意した目標値である4.25%を上回った。
2・2	メキシコ	スペイン第2位のビルバオ・ビスカヤ・アルヘンタリア銀行(BBVA)は、傘下のメキシコ最大のバンコメル銀行を完全子会社にする計画を発表した。株式公開買い付け(TOB)によりバンコメル株の40.6%の追加取得を目指す。買収規模は33億ユーロ。
2・3	ブラジル	2004年に入って約1ヵ月間の中に集中豪雨が頻発し、3日までに死者84人、負傷者111人、家屋を失った人は4万1000人あまりに達することが国防省の調べで分かった。
2・6	アルゼンチン	米メリーランド州の判事が、同州内にあるアルゼンチン国軍の施設の使用を禁じる命令を出していたことが分かった。対民間債務の再編問題で債務元本の75%を削減する案を発表したアルゼンチン政府に対し、2億7000万ドルの損害賠償を請求していた米国の投資ファンドの訴えを認めたもので、政府資産の差し押さえに道を開いた。
2・7	ブラジル パラグアイ	国際サッカー連盟(FIFA)のブラッター(Joseph Blatter) 会長は、パラグアイで開かれた南米サッカー連盟の会合で、2014年のワールドカップ開催地が「ブラジルになるだろう」との見解を示した。2014年大会の開催地が正式決定するのは2008年だが、FIFA会長がお墨付きを与えた形だ。
2・10	コロンビア	イングリッド・ベタンクール元大統領候補の誘拐事件に関連し、仏ルモンド紙に元夫のファブリス・ドロワ(Fabrice Delloye) 氏のインタビューが掲載され、コロンビア政府の反発を呼んでいる。在エクアドル大使館員のドロワ氏がウリベ政権を「人質解放の交渉をしない」などと批判したことから、コロンビア政府は仏政府に「受け入れられない発言」と抗議した。
2・13	メキシコ	財務省は、スペインのBBVAが2月2日に発表していた、TOBによるバンコメル銀行株式追加取得計画を承認した。
2・16	チリ	韓国国会はチリとの自由貿易協定(FTA)批准同意案を可決した。韓チリFTAは昨年2月に署名されたが、韓国内の反対が強く採決が見送られていた。韓国が他国とFTAを結ぶのは初めて。
2・16	ハイチ	アリスティド(Jean- Bertrand Aristide) 大統領は米州機構に、5日から続く反政府武装集団の暴動を鎮圧するための支援を要請した。
2・16	ペルー	トledo(Alejandro Toledo) 大統領は、クチンスキー(Pedro Pablo Kuczynski) 経済財務相ら新閣僚7人の宣誓・就任式を行った。閣僚の相次ぐ疑惑などで支持率が史上最低の7%に下落した政権が人気回復を狙ったもので、内閣改造は今回で5度目。
2・17	ベネズエラ	中央銀行は、2003年の実質国内総生産(GDP)の伸び率が前年度比でマイナス9.2%と史上最悪だったと発表した。ゼネストで石油生産が低迷したことが響いた。

2・17	メキシコ	ロベス・ポルティージョ(José López Portillo) 元大統領(1976-82)が死去した。
2・20	ハイチ	米国やカリブ諸国などが合同で和平案を作成し、政府側と反政府側に提示した。和平案は、大統領の諮問機関として暫定評議会を設置し、反政府側も合意する人物を首相に任命するとの内容。
2・20	ブラジル	リオデジャネイロのカーニバルが始まった。観光当局が欧米で展開した宣伝やブラジルの経済回復が手伝って、昨年比約1割増の40万人の観光客が国内外から訪れる見込み。(24日)
2・21	ハイチ	アリストイド大統領は米国などが提示した和平案に合意すると表明した。しかし、同大統領の退陣を強く要求している野党や武装勢力は、和平案に難色を示している。
2・22	ハイチ	アリストイド大統領の退陣を要求する反政府武装勢力が、第2の都市カップハイシャンを武力で制圧した。これで、同国北部の大半が反乱側の手に落ちた。
2・23	ハイチ	米海兵隊当局者は、首都ポルトープランスにある米大使館とその周辺の治安維持のため、ハイチに海兵隊50人を派遣することを明らかにした。
2・27	ハイチ	反政府武装勢力は第3の都市レカイを制圧した。これで、首都を除く主要都市はすべて反政府勢力の手に落ちた。
2・27	ブラジル	国立地理統計院は、2003年の実質国内総生産(GDP)成長率が前年比0.2%減であったと発表した。インフレ抑制と財政健全化を目指す経済政策により、景気が冷え込んだ。マイナス成長は1992年以来11年ぶり。
2・27	ベネズエラ	チャベス(Hugo Chávez)大統領罷免の国民投票を求めて首都カラカスをデモ行進していた反大統領派市民3万人に対し、治安当局が催涙ガスなどを発射、デモ隊の一部が投石した。この衝突で市民2人が死亡、20人以上が負傷した。
2・29	ハイチ	アリストイド大統領が亡命のため出国し、政権が崩壊した。憲法の規定に従い、後任の大統領にはボニファス・アレクサンドル(Boniface Alexander) 最高裁長官が就任し、武装勢力側は戦闘停止を表明した。しかし、首都では民兵が暴徒化し略奪を繰り返すなど事実上、無政府状態が続いている。
2・29	ハイチ	国連安全保障理事会が緊急協議会を開き、ハイチへの多国籍軍派遣を認める決議案を全会一致で採択した。
3・1	ハイチ	アリストイド政権の崩壊を受け、反政府派の武装勢力が首都ポルトープランスに入った。首都に入ったのは北部で蜂起したフィリップ(Guy Philippe)氏が率いる数10人の重武装部隊。
3・1	ハイチ	ハイチを出国したアリストイド大統領は、中央アフリカの首都バンギの空港に夫人とともに到着した。
3・3	ハイチ	アリストイド前政権に対し武装蜂起した武装集団のリーダー、フィリップ氏は、武装集団を武装解除する方針を明らかにした。
3・3	メキシコ	政府はBSE(牛海綿状脳症=狂牛病)の発生に伴う米国産牛肉の禁輸措置を一部解除した。2003年12月末の米国でのBSE発生確認以降、米国産牛肉の主要輸入国が禁輸を解除するのは初めて。
3・4	コロンビア	国軍は4日までに、1996年から国内で誘拐された外国人が324人に上ることを明らかにした。この中にはコロンビア革命軍(FARC)に誘拐され2003年11月に殺害された現地合弁企業副社長、村松治夫さんも含まれる。
3・4	ニカラグア	日米欧などの主要国政府で構成する主要債権国会議(パリクラブ)は、ニカラグアの公的債務のうち9億200万ドルを削減することでニカラグア政府と合意した。ニカラグアは重債務貧困国に該当するため、債務の繰り延べではなく債務削減の手続きが適用された。

3・5	ハイチ	弁護士やジャーナリストら7人からなる「賢人会議」が発足し、首都ポルトープランスのOAS事務所で初会合を開いた。合議により近く新首相を選出する。
3・5	メキシコ	フォックス(Vicente Fox)大統領はブッシュ米大統領とテキサス州クロフォードの牧場で会談を行った(-6日)。会談でブッシュ大統領は、メキシコ側の要請に応じてメキシコ国民に対する入国管理を簡素化する方針を伝えた。
3・8	ハイチ	アレクサンドル暫定大統領が、正式に大統領に就任した。
3・9	アルゼンチン	9日が返済期限となっていた国際通貨基金(IMF)への債務31億ドルを返済する方針を明らかにした。直前まで返済しない方針を示していたため、債務不履行状態に陥るのは確実と見られていた。
3・10	ハイチ	新首相に指名されているジェラルド・ラトルチュ(G�rard Latortue)元外相が米国から帰国した。
3・12	ペルー	最高検察当局は、1990年代初頭の人権侵害事件に絡む殺人事件などで、日本滞在中のフジモリ(Alberto Fujimori)元大統領に対し、禁固30年を求刑した。ただ、フジモリ氏が出廷していないため、判決は言い渡されない。
3・16	ホンデュラス	マドゥーロ(Ricardo Maduro)大統領は、イラクに派遣している兵士を6月末までに完全撤兵する方針を明らかにした。
3・17	アルゼンチン	経済財務省は2003年の国内総生産(GDP)が前年比8.7%増加したと発表した。第4四半期は前年同期比で11.3%の高成長だった。
3・21	エルサルバドル	大統領選挙が行われ、親米派で自由貿易の推進を掲げる与党の右派・民族主義共和同盟(ARENA)のアントニオ・サカ(Elfas Antonio Saca Gonz�lez)党首が、過半数の票を得て圧勝した。
3・23	カリブ地域	アンティグア・バーブーダで総選挙が実施され、野党・統一進歩党(UPP)が下院17議席中12議席を獲得した。
3・23	チリ	中央銀行は、2003年の国内総生産が前年比3.3%増加したと発表した。2004年の成長率は4.5%から5.5%と予測している。
3・24	ペルー	トレド大統領が国家中央情報局(CNI)の解散を決定したと報じられた。CNIは、フジモリ元大統領の元側近で公金横領容疑で拘束されているモンテシノス(Vladimiro Montesinos)氏が顧問を務めた国家情報部(SIN)の後継組織。組織改革後もスキャンダルが絶えず、約3年間で7人の長官が辞職するなど、大統領の人選に批判が集まっていた。
3・29	ドミニカ	スケリット(Roosevelt Skerrit)首相は、台湾との国交関係を断絶し、中華人民共和国との外交関係を樹立すると発表した。
3・30	ボリビア	ラパスにある国会議事堂内で爆発があり、3人が死亡、数人が負傷した。元鉱山労働者が退職金や年金の支払いを求めて乗り込み、ベルトに縛り付けていたダイナマイトに火をつけたという。死亡したのは、労働者と、取り押さえようとした警察官ら2人と見られている。
4・4	ブラジル	北部パラ州のアマゾン川流域で、異常発生した吸血コウモリにかまれた住民が狂犬病に感染し、4日までに少なくとも13人が死亡した。
4・5	ハイチ	ラトルチュ暫定首相は、大統領選挙を2005年に実施する旨を表明した。
4・8	アルゼンチン	ネストル・カルロス・キルチネル(N�stor Carlos Kirchner)大統領が、胃の不調を訴え入院した。
4・10	ペルー	マチュピチュ遺跡付近で豪雨による地すべりが発生。遺跡近くまで延びる鉄道が土砂に埋まり、日本人28人を含む観光客約1500人が11日まで足止めされた。

4・13	ボリビア	カルロス・メサ(Carlos Mesa) 大統領が内閣改造を実施した。
4・18	アルゼンチン	元サッカー選手のディエゴ・馬拉ドーナ(Diego Maradona)氏が、高血圧と拡張型心筋症の症状でブエノスアイレスの病院に入院した。病院は、同氏が重体で集中治療室で手当を受けていると発表した。
4・19	ホンデュラス	マドゥーロ大統領は、イラクに駐留するホンデュラス軍の撤退を発表した。
4・20	アルゼンチン	司法当局は、メネム(Carlos Saúl Menem) 元大統領が大統領在職中に刑務所建設に絡み約6000万ドルの横領に関与したとして、国際刑事警察機構(インターポール)に元大統領の拘束を要請したことを明らかにした。メネム氏は妻の母国チリに滞在し、容疑が政治的迫害であるとしてアルゼンチンの裁判所への出頭を拒否していた。
4・20	ドミニカ共和国	ソト(José Miguel Soto) 国防相は、イラクに駐留している約300人の部隊について「メヒア(Hipólito Mejía) 大統領ができるだけ早い撤退を決定した」と発表した。
4・20	ペルー	全国選挙管理委員会は、アルベルト・フジモリ氏を2006年の大統領選挙出馬を目指す政治団体Sí Cumpleが、その前身のMovimiento Independiente Vamos Vecinoの綱領に反する手続きにより団体の改名を行ったとして、政治団体としての登録を無効とする旨の決定を下した。
4・21	アルゼンチン ボリビア	アルゼンチンとボリビアの首脳会談がアルゼンチンで開催され、天然ガスの売買に関する協定(第三国への転売禁止条項付)に署名した。これにより天然ガス輸入が妨げられるチリ政府は、ボリビア政府に抗議している。
4・26	ペルー	南部のイラベ市で、市長の汚職に抗議していた住民が暴徒化し、市長を殺害した。
4・29	アルゼンチン	心臓疾患などでブエノスアイレスの病院に入院していた元サッカー選手馬拉ドーナ氏が退院した。
4・30	ハイチ	国連安全保障理事会は、国連ハイチ安定化派遣団を創設する決議を採択した。
5・2	パナマ	モスコソ(Mireya Moscoso) 大統領の任期満了に伴う大統領選挙の投票があり、かつて軍事政権を率いた故オマル・トリホス(Omar Torrijos) 将軍の息子で民主革命党書記長のマルティン・トリホス(Martín Torrijos) 候補が、元大統領のギジェルモ・エンダラ(Guillermo Endara) 候補ら3人を引き離して当選した。
5・5	アルゼンチン	4月29日に退院したばかりの元サッカー選手馬拉ドーナ氏が、ブエノスアイレス市内の病院に再入院した。
5・6	キューバ	米国のブッシュ大統領は、キューバの反体制勢力に対する支援を強化することで、カストロ政権の終結やキューバの民主化を目指す考えを表明した。今後2年間に最大で5900万ドルを支出し、亡命キューバ人団体や反体制派の宣伝活動を支援するほか、米国からキューバへの送金や渡航に対する規制も強める。
5・12	パナマ	パナマ政府は米国政府との間の、米国によるパナマ船籍の船舶に対する公海上の臨検を認める協定に署名した。
5・12	ホンデュラス	国防省はイラク南部に駐留していた部隊の大半にあたる312人が出国し、クウェートの米軍基地に到着したと発表した。
5・14	キューバ	送金規制や反政府派への支援など米国の反カストロ政策強化に抗議する、キューバ政府主催の大規模なデモがあり、120万人の市民が参加した。
5・14	ブラジル	マナウス西方約15キロのアマゾン川流域で、リコ・リニャス・アエレアス航空の航空機が墜落、乗員3人と乗客30人全員が死亡した。

5・16	ドミニカ共和国	任期満了に伴う大統領選挙が行われ、前大統領で野党ドミニカ解放党のレオネル・フェルナンデス(Leonel Fernández) 候補が、再選を狙った与党ドミニカ革命党のイボルト・メヒア候補を破り、4年ぶりの振り返りを決めた。
5・22	コロンビア	北西部アンティオキア県のディスコで深夜、爆発があり、6歳の少女を含む5人が死亡、90人以上が負傷した。20日以降、爆破テロが続発しているが、政府軍と内戦を続ける左翼ゲリラ組織、コロンビア革命軍(FARC)が5月下旬に創設40周年を迎えることから、FARCがこれにあわせて一連の犯行に及んだと見られている。
5・23	ドミニカ共和国 ハイチ	両国国境付近が局地的な豪雨に見舞われた。ドミニカ共和国南西部ヒマニで河川が氾濫、住民が濁流に流され、26日までに300人の遺体が収容された。ハイチ側の死者は1660人に達している。
5・24	キューバ	政府は、大半の商品販売の凍結を命じていたドルショップで、ほとんどの商品を平均15%値上げした上で販売を全面再開した。ブッシュ米政権がキューバ経済の締め付け強化の新方針を6日に打ち出したのを受け、多くの店で2週間近く閉店が続く異例の事態に陥っていた。
5・26	ハイチ	米国防省は、ハイチに駐留している米海兵隊の主力部隊約1900人を6月末までに撤退させる方針を明らかにした。
5・28	中南米	中南米・カリブ諸国と欧州連合(EU)の計58か国による首脳会議が、メキシコのグアダハラで開催された。国際的な懸案処理の「多国間主義」を強調し、米国の一国主義を強くけん制する内容の「グアダハラ宣言」を採択して閉幕した。
5・28	中米	米国政府はエルサルバドル、グアテマラ、コスタリカ、ニカラグア、ホンデュラスの中米5か国との中米自由貿易協定(CAFTA)に調印した。ドミニカ共和国も近く調印する予定。
5・29	プエルトリコ	ギネスブックで世界最高齢に認定されていた114歳の女性、ラモナ・イグレシアス(Ramona Trinidad Iglesias)さんが、肺炎のため死亡した。
5・29	ブラジル	リオデジャネイロ北部にあるベンフィカ拘置所に収容されている被疑者ら約800人が暴動を起こした。6月1日までに鎮圧されたが、3日間で少なくとも30人が死亡した。
5・31	ハイチ	ハイチのアリステイド前大統領が、亡命先の南アフリカに到着した。前大統領は「南アはハイチに戻るまでの仮の家だ」と語り、将来の帰国に向けた意思を改めて表明した。
6・1	エルサルバドル	アントニオ・サカ大統領の就任式が行われた。
6・3	ベネズエラ	全国選挙評議会は、チャベス大統領の罷免国民投票を求める署名を集計した結果、法定必要数(有権者の2割にあたる約243万)を上回る有効署名があったと発表した。
6・4	コロンビア メキシコ	メキシコ政府は、コロンビア政府と民族解放軍(ELN)との和平プロセスの仲介役となることを申し入れた。
6・6	アルゼンチン	テニスの全仏オープンで決勝戦が行われ、アルゼンチンのガストン・ガウディオ(Gastón Gaudio)がフルセットの末、同じくアルゼンチンのギジェルモ・コリア(Guillermo Coria)を下し四大大会初優勝を果たした。
6・6	エクアドル	OAS総会がエクアドルの首都キトで開催された(-8日)。
6・8	コロンビア メキシコ	コロンビア政府とELNは、メキシコ政府による和平プロセス仲介役の申し入れを受け入れた。
6・8	ベネズエラ	全国選挙評議会は、チャベス大統領を罷免するかどうかを問う国民投票を、8月15日に行うと発表した。

6・11	アルゼンチン ペルー	アルゼンチン、ペルー両国政府はブエノスアイレスで、犯罪人引渡条約と移民協定追加議定書に署名した。
6・13	ブラジル	第11回国連貿易開発会議(UNCTAD)がブラジルで開催された(-18日)。
6・16	メキシコ コロンビア	メキシコ政府は、コロンビア政府とELNの仲介役として、バレンシア(Andrés Valencia Benavides) 駐イスラエル大使を任命した。
6・24	ペルー	検察当局が、フジモリ元大統領の長女で、米ニューヨーク在住のケイコ・ソフィア(Keiko Sofia Fujimori) 氏に対し、職権乱用で禁固5年を求刑した。
6・25	メキシコ ウルグアイ	メキシコ・ウルグアイ自由貿易協定発効。
6・29	ペルー	反汚職法廷は、フジモリ元大統領の側近だったモンテシノス元国家情報部顧問がフジモリ政権当時、政府に有利な報道をするよう民放テレビ局幹部に依頼し、流用した公金を支払ったとして、禁固15年の実刑判決を言い渡した。
6・29	中米	中米統合機構(SICA)首脳会議がグアテマラで開催された。
7・2	コロンビア キューバ	コロンビア最大の麻薬密売組織「北バジェ・カルテル」の中心人物のひとり、ルイス・エルナンド・ブスタマンテ(Luis Hernando Gómez Bustamante) 容疑者が、キューバで逮捕された。コロンビアはキューバと犯罪人引渡し条約を結んでいるため、今後、身柄の引渡しを求める。
7・4	メキシコ	北部サカテカス州で知事選が行われ、中道左派の民主革命党(PRD)のアマリア・ガルシア(Amalia García) 氏が当選した。制度的革命党(PRI)下野後の公正な選挙のもとでは、初めての女性知事。
7・5	ジャマイカ	シャラー(Hugh Lawson Shearer) 元首相(1967-72年)が死去した。
7・8	中南米	アルゼンチンで開催されているメルコスル(南米南部共同市場)の首脳会合で、議長を務めるアルゼンチンのキルチネル大統領はメキシコとベネズエラの準加盟を承認することに加盟各国が合意したことを明らかにした。
7・12	メキシコ	フォックス大統領のマルタ・サアグン(Marta Sahagún) 夫人はメキシコ市内で会見し、2006年大統領選への立候補を断念する考えを明らかにした。野党から夫婦間の権力継承案に対して批判が高まっていた。
7・12	南米 エクアドル	アンデス共同体首脳会議が、エクアドルの首都キトで開催された。
7・14	ベネズエラ	ラミレス(Rafael Ramírez) エネルギー・鉱業相は、8月から日産50万バレルの生産枠引き上げを打ち出した石油輸出国機構(OPEC)の決定について「価格を低下させないためなら、どんなことでもする」と述べ、増産決定の無効に向け加盟各国の理解を求めていく考えを示した。
7・14	ペルー	労働団体が組織する「ペルー一般労働者同盟」がトレド政権の退陣などを求めてゼネストを呼びかけ、一部交通機関がマヒするなどの混乱が起きた。ゼネストはフジモリ政権末期の1999年以來、5年ぶり。
7・22	キューバ	20日に67歳で死去したスペインのフラメンコダンサー、アントニオ・ガデス(Antonio Gades)の遺灰が、故人の遺志によりハバナに到着した。キューバ革命戦士の墓のそばに埋葬される。
7・22	ペルー	創業者の麻薬組織との関与が取りざたされ12日から運行を全面停止していた航空最大手アエロコンチネンテは、同社の全株式を従業員に売却することを明らかにした。
7・22	メキシコ	イグナシオ・カリオ(Ignacio Carrillo) 特別検察官は、1971年に学生数10人が虐殺された事件に関与したとして、ルイス・エチエベリア(Luis Echeverría) 元大統領の逮捕状を請求した。

7・25	中南米	サッカーの南米選手権(コパ・アメリカ)の決勝戦が行われ、ブラジルが2-2からのPK戦でアルゼンチンを4-2で下し、7度目の優勝を決めた。
7・27	コスタリカ チリ	コスタリカのチリ大使館で、警護担当の警察官が大使館員を人質に立てこもり、人質3人を殺害する事件が発生した。
7・29	パラグアイ	ボルダ(Dionisio Borda)財務大臣は、歳入不足を補うため年度内に赤字国債を発行することを表明した。
8・1	パラグアイ	首都アスンシオン郊外の大型スーパーで爆発を伴う火災が発生し、約7時間にわたり燃え続けた。地元警察は、少なくとも283人が死亡、約300人が負傷したことを確認した。
8・3	パラグアイ	1日に起きたスーパーマーケット火災で、司法当局は商品の持ち逃げを恐れた店が出火後に出入り口を封鎖したため多数の客が焼死したと断定、経営者や警備員ら計5人を過失致死罪で訴追することを決定した。
8・5	中米 ドミニカ共和国	米国ワシントンDCで、中米・ドミニカ共和国・米国自由貿易協定が調印された。
8・7	メキシコ	「サン・プラスの動乱 大砂塵の女」(1959年)などで知られる映画監督のイスマエル・ロドリゲス(Ismael Rodríguez)氏が、呼吸不全などのためメキシコ市内の病院で死去した。86歳。
8・14	エルサルバドル	カリリナ近郊の山岳地帯でバスが道路から約25メートル下の谷に転落し、子供9人を含む46人が死亡、約20人が負傷した。
8・15	ベネズエラ	チャベス大統領を罷免するかどうかを決める国民投票が行われ、全国選挙評議会は即日開票の結果、罷免反対票が賛成票を上回り大統領は信任されたと発表した。
8・16	ベネズエラ	首都カラカス近郊で、大統領罷免を問う国民投票の結果に不満を叫んで集まっていた市民に向かって何者かが発砲、1人が死亡し10人が負傷した。
8・18	ベリーズ	ムサ(Said Musa)首相が内閣改造を実施した。
8・19	エルサルバドル	イラク派兵の第3陣の先遣隊150人が、イラク中部ナジャフに向けて出発した。第3陣の計380人の部隊が、今年2月に派遣された第2陣と交代する。
8・21	ベネズエラ	空軍の双発プロペラ機が北部のマラカイ近くの山中に墜落、子供5人を含む25人全員の死亡が確認された。同機はカリブ海のオルチラ島からマラカイにある空軍基地に向かう途中で、軍当局者のほか同島で休暇を過ごした民間人10人が乗っていた。
8・25	キューバ	キューバ政府は、パナマとの国交断絶を発表した。パナマ政府が、2000年に同国で開催されたイベロアメリカ・サミットでカストロ国家評議会議長暗殺を企てたとして逮捕、勾留していたキューバ反体制活動家4人に恩赦を認めたことを受けての措置。
8・25	キューバ	アテネ五輪野球決勝が行われ、キューバがオーストラリアを6-2で下し、96年アトランタ大会以来、2大会ぶり3回目の金メダルを獲得した。
8・26	チリ	最高裁は1970-80年代の軍政下で起きた左翼活動家の失踪事件をめぐる、ピノチエト(Augusto Pinochet)元大統領の元大統領としての免責特権を剥奪する決定を下した。
8・27	ブラジル	ビール業界世界第3位のベルギーのインターブリューと同6位のブラジルのAmBev(アンベビ)は、それぞれ開いた株主総会で両社の経営統合を正式に承認し、世界最大のビール会社が誕生した。新会社の名称はInBev(インベブ)で、世界市場シェアは約14%となる。

8・27	ベネズエラ	全国選挙評議会は、先のチャベス大統領罷免国民投票で罷免が否決されたとする正式証書を大統領に手渡した。投票で不正があったと主張する野党側の評議委員2人は欠席した。
8・28	アルゼンチン	アテネ五輪男子バスケットボール決勝が行われ、アルゼンチンがイタリアを84-69で破り、初の金メダルを獲得した。
8・28	アルゼンチン パラグアイ	アテネ五輪サッカー決勝が行われ、アルゼンチンがパラグアイを1-0で破り、史上初の全試合無失点で初優勝を果たした。
8・28	エルサルバドル	首都サンサルバドルで、イラク派兵に反対する野党ファラブンド・マルティ民族解放戦線(FMLN)の呼びかけで数千人規模のデモが行われた。
8・29	ブラジル	アテネ五輪男子バレーボール決勝が行われ、ブラジルがイタリアを3-1で下し、3大会ぶり2度目の優勝を果たした。
8・29	ブラジル	アテネ五輪男子マラソンで、終盤までトップを独走していたブラジルのバンデルレイ・デリマ(Vanderley de Lima)選手が、36キロ付近でコースに乱入した男の妨害を受け失速し3位でゴールするというハプニングがあった。
8・30	メキシコ	メキシコ国営石油(PEMEX)が、メキシコ湾で計約540億バレルの埋蔵量を持つと見られる油田を発見したと報じられた。実際に確認されれば、メキシコの推定原油埋蔵量は約1200億バレルとなり、世界有数の確認埋蔵量を誇るサウジアラビアやイラクなどに次ぐ規模となる。
9・1	パナマ	トリホス大統領の就任式が行われた。
9・7	ウルグアイ	ウルグアイのアルフィエ(Issac Alfie)経済相とゼーリック(Robert B. Zoellick)米国通商代表部代表は、両国の2国間投資協定に関する交渉が合意に至ったと発表した。
9・8	コスタリカ	最高裁は、政府がイラク戦争の開始に際し米国を支持した行為に対して、違憲判決を下した。
9・9	コスタリカ	トバル(Roberto Tovar)外相は、イラク戦争を支持する「有志連合」のリストから自国を削除するよう、米政府に外交文書で要請したことを明らかにした。最高裁判所が8日、政府のイラク戦争支持表明は、軍事行動参画を禁じた憲法に違反するとの判決を下したことを受けた措置。
9・20	アルゼンチン キューバ	元サッカー選手マラドーナ氏が、心臓疾患の治療や薬物中毒のリハビリを行うためキューバに到着した。
9・28	アルゼンチン	中部の町カルメン・デ・パタゴネスの学校で、15歳の男子生徒がピストルを乱射し、生徒3人が死亡、6人が負傷した。
9・28	チリ	アルベアル(María Soledad Alvear Valenzuela)外相は、ルイス=タグレ(Emilio Ruiz-Tagle)在ラパス総領事(大使)がボリビアの雑誌インタビューで2国間問題(「海への出口」問題)に関して不適切な発言をしたとして、同総領事の解任を発表した。
9・28	ペルー	クスコの中心部にあるサントドミンゴ教会で、日本人5人を含む外国人観光客20人が、政府のコカ栽培規制に抗議する農民約100人に約1時間に渡って監禁され、警察当局が催涙弾を使って救出した。
10・2	キューバ	米国で10月7-9日に開催されるラテンアメリカ学会にキューバから参加予定だった研究者65人の入国が、学会直前の9月末になり拒否されたと報じられた。ブッシュ政権が5月、カストロ政権締め付け強化策の一環として渡航の規制を強めたためとみられる。
10・3	ブラジル	連邦区を除く全国5562市で、市長および市議会議員選挙が実施された。

10・4	コスタリカ	議会はロドリゲス(Miguel Angel Rodríguez) 前大統領に対するOAS事務局長職辞任を要求する決議案を採択した。ロドリゲス氏には、大統領在任中の携帯電話事業の入札に絡み収賄容疑が浮上していた。
10・8	コスタリカ	前コスタリカ大統領のロドリゲスOAS事務総長が、辞任を表明した。
10・11	コスタリカ	国立交響楽団芸術監督で指揮者の小松長生氏が、首都サンホセで強盗に襲われ、鼻の骨を折る怪我をした。小松氏は今年1月、政府の世界公募で同交響楽団の芸術監督に就任していた。
10・12	ベネズエラ	チャベス大統領の支持者らがコロンブスを「大量虐殺者」として非難し、銅像を引き倒すなど激しい抗議行動を行った。チャベス大統領は2002年、コロンブスが新大陸に上陸した10月12日を「インディオ抵抗の日」と命名している。
10・15	コスタリカ	司法当局は、ロドリゲス前OAS事務総長を収賄容疑で逮捕した。コスタリカ大統領時代の2001年、携帯電話事業の入札に絡み、仏通信機器大手アルカテルから現金など50万ドル以上を受け取った疑い。
10・15	コロンビア エクアドル	コロンビア・エクアドル首脳会談がエクアドルで開催された。
10・18	中南米	第13回ラテンアメリカ統合連合(ALADI)外相理事会が開催され、ウルグアイのオペルティ(Didier Operti Badán) 外相が次期事務局長(2005-07)に選出された。
10・19	ブラジル	国際原子力機構(IAEA)は、政府が査察を一部拒否しているリオデジャネイロ近郊のウラン濃縮施設に査察に入った。
10・20	キューバ	中部サンタクララの学校で卒業式の演説をしたカストロ国家評議会議長が、演壇から降りる際に転倒し、左ひざを骨折、右腕の骨にもひびが入った。
10・22	チリ	仏パリ検事局は、チリのピノチェト元大統領とチリ軍の元幹部約20人を、軍政時代にフランス人5人の誘拐などに関与した容疑で刑事裁判所のパリ重罪院に書類送致した。アジェンデ(Salvador Allende) 元大統領の政治顧問だったフランス人が73年の軍事クーデター後に行方不明になった事件などが対象。
10・24	ブラジル	サンパウロでF1のブラジル・グランプリ決勝が行われ、フアン・モントーヤ(Juan Pablo Montoya) が今期初優勝した。日本の佐藤琢磨は6位となり、今期9度目の入賞。
10・25	キューバ	政府は国内の商取引における米ドル使用を11月8日から停止すると発表した。ドル所有自体は引き続き認められるが、同日以降にペソと交換した場合は10%が課税される。
10・25	セントクリスト ファー・ネビス	総選挙が実施され、労働党が第一党となった。
10・31	ウルグアイ	バジエ(Jorge Batlle) 大統領の任期満了に伴う大統領選挙があり、左派・進歩会議代表のタバレ・バスケス(Tabaré Vázquez) 氏が当選した。同国で左派勢力が政権を担当するのは初めて。
11・4	ブラジル 中南米	第18回リオグループ首脳会議が、ブラジルのリオデジャネイロで開催された。(5日)
11・11	チリ	政府内に設置された「政治犯拘禁および拷問に関する調査委員会」は、約3万5000人の関係者の証言を元に作成した調査報告書を、ラゴス(Ricardo Lagos Escobar) 大統領に提出した。
11・11	ベネズエラ	米大リーグ機構は、ア・リーグのサイ・ヤング賞(最優秀投手賞)に、ツインズのヨハン・サンタナ(Johan Santana) 投手を選出したと発表した。ベネズエラ出身の選手として初の受賞となる。

11・16	ドミニカ共和国	米大リーグは、ア・リーグの最優秀選手賞(MVP)にエンゼルスの上野智也・ゲレロ(Vladimir Guerrero) 外野手が選ばれたと発表した。ドミニカ共和国出身の MVP受賞者は4人目。
11・17	アルゼンチン	首都ブエノスアイレス市内で、米大手銀行シティバンクの支店など3つの銀行に仕掛けられた爆弾がほぼ同時刻に爆発し、警備員1人が死亡、1人が負傷した。
11・18	ブラジル	ルラ大統領は、ブラジル経済開発銀行のレッサ(Carlos Lessa) 総裁を更迭し、後任にマンテガ(Guido Mantega) 企画相を指名した。
11・18	ベネズエラ	2002年のクーデター未遂事件の捜査を指揮していた検察幹部の車が爆破、現場でこの幹部と見られる遺体が見つかった。
11・19	チリ	アジア太平洋経済協力会議(APEC)首脳会議開催やブッシュ米大統領の訪問に反対する大規模デモが首都サンティアゴで行われ、約3万人が参加した。一部が暴徒化し、警官隊は約180人を拘束、警官などに約10人の負傷者が出た。
11・19	中南米 コスタリカ	第14回イベロアメリカサミットがコスタリカで開催された。(-20日)
11・20	チリ	21カ国・地域の首脳が参加するアジア太平洋経済協力会議(APEC)首脳会議が、首都サンティアゴで開催された。(-21日)
11・22	アルゼンチン	サンマルティン連邦裁判所は、「(軍政時代の人権侵害を不問にする免責2法の)終結法および服従法の遡及的無効を規定する法律」は法的安定性を損なうとして違憲判決を下した。
11・24	ブラジル	科学技術省は、リオデジャネイロ郊外の核施設で年内にもウラン濃縮を開始すると発表した。
11・25	ペルー	司法当局は左翼ゲリラのトゥパク・アマル革命運動(MRTA)のリーダー、ビクトル・ポライ(Victor Polay) 服役囚ら収監中のメンバー24人に対する再審を12月6日から開始することを明らかにした。1996年に発生した日本大使公邸人質事件では、MRTAメンバーがポライ服役囚らの釈放を要求した。
11・28	チリ	ラゴス大統領は、1973-90年のピノチェト軍事独裁政権下で収監されたり拷問を受けたりした被害者に対する補償を検討していることを明らかにした。大統領は議会に対し、被害者1人あたり月額190ドルの補償金支給などの承認を求める考えを示した。
12・2	キューバ パナマ	在パナマ・キューバ領事館が業務を再開した。
12・6	アルゼンチン	第10回気候変動枠組条約締約国会議が開催された。(-17日)
12・8	南米 ペルー	第3回南米諸国首脳会議がペルーのクスコで開催された。(-9日)
12・9	アルゼンチン	サンタフェ州の銀行で爆発事件が発生した。
12・13	キューバ パナマ	在キューバ・パナマ領事館が業務を再開した。
12・13	チリ	サンティアゴ控訴裁のグスマン(Juan Guzmán) 予審判事は、軍事政権下で反体制派活動家10人が死亡したり行方不明になったりした事件に関連し、誘拐と殺人の罪で起訴されているピノチェト元大統領について、「精神鑑定の結果、痴呆症状はあるが裁判には耐えうる」との判断を下し自宅軟禁を命じた。
12・15	中米	中米サミットがエルサルバドルで開催された。

12・20	チリ	サンティアゴ控訴裁はピノチェト元大統領の弁護側から出されていた「自宅軟禁と起訴は無効」とする申し立てを退ける決定を下した。弁護側は「痴呆症などで裁判を受けることは不可能」としており、最高裁に上訴した。
12・20	ブラジル ハイチ	FIFAによる世界最優秀選手に、ブラジル代表のロナウジーニョ(Ronaldinho)が初めて選ばれた。また、新設されたフットサルの世界最優秀選手にブラジル代表のファルカン(Paulo Roberto Falcão)、FIFA会長賞には平和を訴える国際親善試合を行ったハイチ、フェアプレー賞にハイチと対戦したブラジルが選出された。
12・21	アルゼンチン	代表的な株価指数メルバルは、前日終値比1.48%高い1325.29で引け、過去最高値を更新した。市場は、政府が先週末にデフォルトに陥っている同国債務の新債権との交換業務を大手米銀バンク・オブ・ニューヨークが担当することを正式に発表したことを好感、全銘柄で株価が2日連続で上昇した。
12・22	コロンビア	横浜で12日にあったサッカーのトヨタカップで南米代表チーム「オンセ・カルダス」を率いて来日したフェルナンド・montジャ(Luis Fernando Montoya) 前監督が、北西部アンティオキア県の自宅近くで強盗に襲われ、意識不明の重体になった。
12・23	キューバ	カストロ国家評議会議長は、10月に転倒して骨折して以来始めて公の場で立って歩く姿を見せ、健在振りを示した。
12・23	ホンデュラス	北部サンペドロスラで、クリスマスの買い物客ら約50人を乗せた路線バスが武装集団に銃撃され、子供6人を含む少なくとも28人が死亡した。バスのフロントガラスには、凶悪犯罪に対して死刑制度の復活を訴えるポルフィリオ・ロボ(Porfirio Lobo)国会議長らを非難するメッセージが残されていた。
12・30	アルゼンチン	ブエノスアイレス市内の大型ディスコで火災が発生し、多数の死傷者を出した。

参考文献

- (1)『朝日新聞縮刷版』『日本経済新聞縮刷版』(2004年各月号)。
- (2)日経テレコン21。
- (3)イベロアメリカ研究所新聞切抜き(2004年)。
- (4)「ラ米における主なできごと」『ラテン・アメリカ時報』(2004年2月～2005年2月)。